

### 第3章 地域の概況

方法書における地域概況の調査範囲は、「仙台市環境影響評価技術指針マニュアル」（仙台市、平成 31 年）に示されている概況調査範囲（10km）、及び「表 2.1-1 調査項目ごとの調査・予測範囲の考え方と想定される影響範囲」に示す環境項目ごとに影響が想定される範囲を参考として、対象事業実施区域を中心とした概ね 8km 四方の範囲とした。

### 3.1 自然的状況等

#### 3.1.1 大気環境

##### (1) 気象

対象事業実施区域最寄りの気象観測所として、仙台管区気象台（対象事業実施区域から東に約 12km）及び新川観測所（対象事業実施区域から西に約 10km）が存在する。気象観測所の位置を図 3.1-1 に、気象観測所における過去 10 年間（平成 20 年～平成 29 年）及び平成 29 年の気象の概況を表 3.1-1～表 3.1-4 に示す。

##### ① 気温の状況

仙台管区気象台における過去 10 年間の気温の状況は、平均気温が 13.0℃、最高気温の最高値が 36.6℃、最低気温の最低値が-7.4℃であった。また、平成 29 年度の気温の状況は、平均気温が 12.9℃、最高気温の最高値が 33.0℃、最低気温の最低値が-5.5℃であった。

新川観測所における過去 10 年間の気温の状況は、平均気温が 10.3℃、最高気温の最高値が 35.2℃、最低気温の最低値が-14.7℃であった。また、平成 29 年度の気温の状況は、平均気温が 10.1℃、最高気温の最高値が 32.2℃、最低気温の最低値が-11.3℃であった。

##### ② 降水量の状況

仙台管区気象台における過去 10 年間の降水量の状況は、年降水量の平均値が 1,299.5mm、平成 29 年度の年降水量が 1,320.5mm であった。

新川観測所における過去 10 年間の降水量の状況は、年降水量の平均値が 1,600.5mm、平成 29 年度の年降水量が 1,814.5mm であった。

##### ③ 日照の状況

仙台管区気象台における過去 10 年間の日照の状況は、年日照時間の平均値が 1,900.7 時間、平成 29 年度の年日照時間が 1,909.5 時間であった。

新川観測所における過去 10 年間の日照の状況は、年日照時間の平均値が 1,480.6 時間、平成 29 年度の年日照時間が 1,496.2 時間であった。

##### ④ 風向・風速の状況

仙台管区気象台における過去 10 年間の風向・風速の状況は、年平均風速の平均値が 3.1m/s、最多風向が北北西であった。また、平成 29 年度の年平均風速が 3.0m/s、最多風向が北北西であった。

新川観測所における過去 10 年間の風向・風速の状況は、年平均風速の平均値が 1.9m/s、最多風向が西であった。また、平成 29 年度の年平均風速が 1.9m/s、最多風向が西であった。

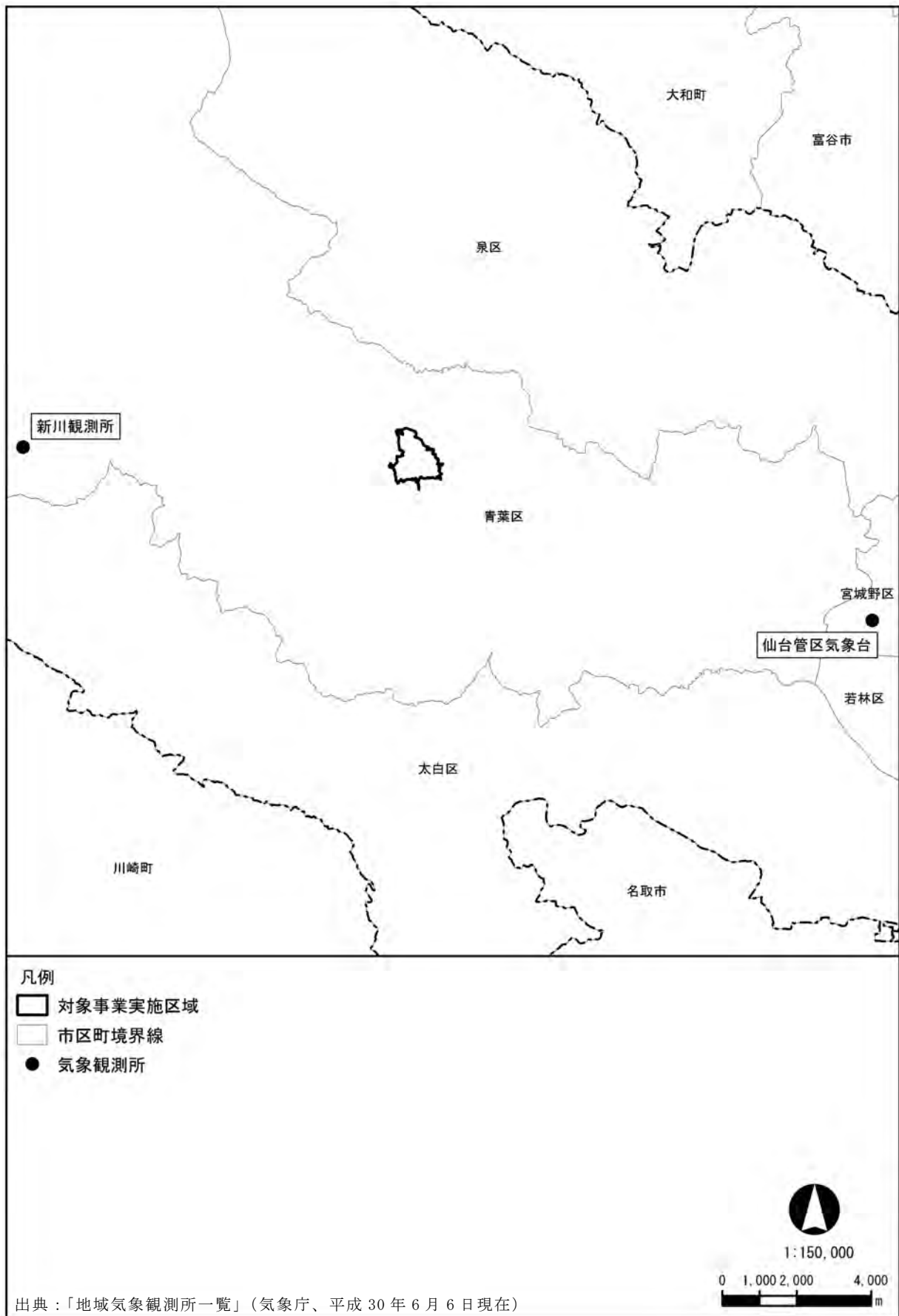


図 3.1-1 気象観測所の位置

表 3.1-1 気象の概況（仙台管区気象台：平成 20 年～平成 29 年）

項目 月	気温（℃）			降水量 （mm）	日照時間 （時間）	平均風速 （m/s）	最多風向
	平均	最高	最低				
1 月	1.8	15.1	-7.0	32.4	155.6	3.5	北北西
2 月	2.3	20.9	-7.4	33.9	152.4	3.6	北北西
3 月	5.5	24.2	-4.1	77.4	176.5	3.6	北北西
4 月	10.7	26.9	-0.9	115.3	193.5	3.6	西北西
5 月	16.0	31.7	5.1	123.9	205.2	3.2	南東
6 月	19.5	34.4	8.6	142.1	158.4	2.8	南東
7 月	23.7	35.1	14.7	127.2	139.1	2.4	南東
8 月	24.8	36.6	15.3	164.3	141.1	2.5	南東
9 月	21.5	35.5	10.1	206.1	142.2	2.9	北北西
10 月	15.9	29.0	4.2	150.3	154.5	3.1	北北西
11 月	9.8	24.0	-1.6	60.0	141.3	3.0	北北西
12 月	4.5	19.9	-4.3	66.6	140.9	3.3	北北西
年間	13.0	36.6	-7.4	1299.5	1900.7	3.1	北北西

※）各測定項目の月ごとの値は、以下の内容を示す。

気温-平均：月ごとの平均気温の過去 10 年間における平均値

気温-最高気温(又は最低気温)：月ごとの最高気温(又は最低気温)の過去 10 年間における最高値(又は最低値)

降水量：月ごとの総降水量の過去 10 年間における平均値

日照時間：月ごとの総日照時間の過去 10 年間における平均値

平均風速：月ごとの平均風速の過去 10 年間における平均値

最多風向：月ごとの最多風向の過去 10 年間における最多風向

出典：「過去の気象データ・ダウンロード」（気象庁 HP、平成 30 年 7 月閲覧）

表 3.1-2 気象の概況（仙台管区気象台：平成 29 年）

項目 月	気温（℃）			降水量 （mm）	日照時間 （時間）	平均風速 （m/s）	最多風向
	平均	最高	最低				
1 月	2.5	12.6	-5.5	18.0	160.7	3.2	北北西
2 月	3.2	17.2	-3.7	15.0	157.7	3.7	西北西
3 月	5.4	15.5	-1.1	77.5	173.4	3.4	北北西
4 月	11.5	25.5	1.4	101.0	200.9	3.4	南南東
5 月	17.0	29.6	7.2	137.0	211.4	2.7	南東
6 月	18.6	27.5	10.5	80.5	179.7	3.0	南東
7 月	25.1	33.0	19.1	182.0	181.8	2.2	南東
8 月	23.0	32.6	17.0	219.0	57.1	2.6	南東
9 月	21.1	29.7	10.7	135.5	184.7	3.0	南東、北北西
10 月	14.9	26.8	7.4	340.5	96.8	2.9	北北西
11 月	9.1	20.2	-0.5	7.5	149.9	2.8	北北西
12 月	3.5	13.9	-3.1	7.0	155.4	3.0	北北西
年間	12.9	33.0	-5.5	1320.5	1909.5	3.0	北北西

※）各測定項目の月ごとの値は、以下の内容を示す。

気温-平均：平成 29 年における月ごとの平均気温

気温-最高気温(又は最低気温)：平成 29 年における月ごとの最高気温(又は最低気温)

降水量：平成 29 年における月ごとの総降水量

日照時間：平成 29 年における月ごとの総日照時間

平均風速：平成 29 年における月ごとの平均風速

最多風向：平成 29 年における月ごとの最多風向

出典：「過去の気象データ・ダウンロード」（気象庁 HP、平成 30 年 7 月閲覧）

表 3.1-3 気象の概況（新川観測所：平成 20 年～平成 29 年）

項目 月	気温（℃）			降水量 （mm）	日照時間 （時間）	平均風速 （m/s）	最多風向
	平均	最高	最低				
1 月	-1.1	13.0	-12.7	68.5	89.9	2.5	西
2 月	-0.7	16.9	-14.7	54.4	105.7	2.5	西
3 月	2.5	20.8	-9.0	84.1	136.3	2.4	西
4 月	8.1	27.6	-5.2	116.0	172.7	2.3	西
5 月	14.0	29.7	-0.1	127.2	184.5	2.1	東、西
6 月	17.5	31.0	3.4	166.6	132.1	1.5	東
7 月	21.6	35.2	9.9	187.5	113.2	1.2	東
8 月	22.2	34.4	10.3	237.3	110.5	1.1	東
9 月	18.4	32.0	5.4	212.8	117.9	1.3	南西
10 月	12.5	27.6	-1.4	151.0	128.7	1.5	西南西
11 月	6.5	22.4	-5.3	85.1	108.2	1.7	西
12 月	1.5	17.6	-9.9	110.0	80.9	2.2	西
年間	10.3	35.2	-14.7	1600.5	1480.6	1.9	西

※）各測定項目の月ごとの値は、以下の内容を示す。

気温-平均：月ごとの平均気温の過去 10 年間における平均値

気温-最高気温(又は最低気温)：月ごとの最高気温(又は最低気温)の過去 10 年間における最高値(又は最低値)

降水量：月ごとの総降水量の過去 10 年間における平均値

日照時間：月ごとの総日照時間の過去 10 年間における平均値

平均風速：月ごとの平均風速の過去 10 年間における平均値

最多風向：月ごとの最多風向の過去 10 年間における最多風向

出典：「過去の気象データ・ダウンロード」（気象庁 HP、平成 30 年 7 月閲覧）

表 3.1-4 気象の概況（新川観測所：平成 29 年）

項目 月	気温（℃）			降水量 （mm）	日照時間 （時間）	平均風速 （m/s）	最多風向
	平均	最高	最低				
1 月	-0.5	10.2	-11.3	108.5	98.1	2.2	西
2 月	0.0	13.0	-8.6	85.0	102.9	3.2	西
3 月	2.2	13.2	-5.6	82.0	140.4	2.1	西
4 月	8.6	22.9	-3.0	115.5	182.5	2.5	西
5 月	14.9	29.7	0.4	162.0	193.5	1.8	東、西
6 月	16.5	27.1	4.8	81.5	139.3	1.9	東
7 月	22.9	32.2	13.6	207.0	151.1	1.2	南西
8 月	20.9	30.4	11.4	346.5	42.7	1.1	東
9 月	17.5	27.4	5.4	225.0	161.9	1.6	西南西
10 月	12.2	24.1	1.5	308.5	84.4	1.3	西南西
11 月	5.2	20.0	-5.3	41.5	121.9	1.7	西
12 月	0.4	11.6	-8.5	51.5	77.5	2.3	西
年間	10.1	32.2	-11.3	1814.5	1496.2	1.9	西

※）各測定項目の月ごとの値は、以下の内容を示す。

気温-平均：平成 29 年における月ごとの平均気温

気温-最高気温(又は最低気温)：平成 29 年における月ごとの最高気温(又は最低気温)

降水量：平成 29 年における月ごとの総降水量

日照時間：平成 29 年における月ごとの総日照時間

平均風速：平成 29 年における月ごとの平均風速

最多風向：平成 29 年における月ごとの最多風向

出典：「過去の気象データ・ダウンロード」（気象庁 HP、平成 30 年 7 月閲覧）

(2) 大気質

① 大気汚染の状況

対象事業実施区域最寄りの大気汚染常時監視測定局として、一般環境大気測定局 2 局（広瀬、宮総）が存在する。

大気汚染常時監視測定局の測定項目を表 3.1-5 に、大気汚染常時監視測定局の位置を図 3.1-2 に示す。

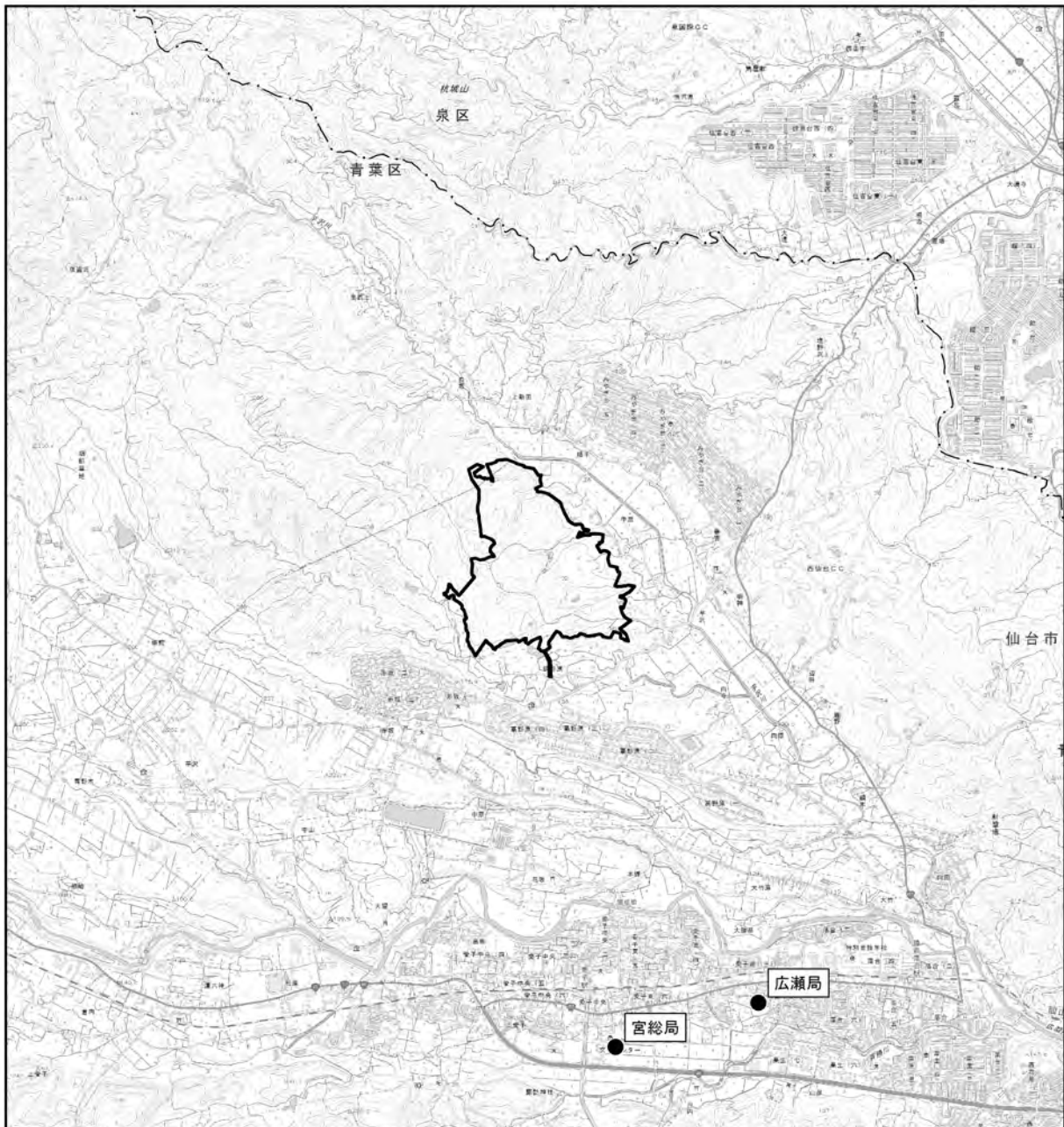
表 3.1-5 大気汚染常時監視測定局の測定項目

番号	種別	測定局名	所在地	測定項目 <sup>※1</sup>						
				二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	浮遊粒子状物質 (SPM)	光化学オキシダント (O <sub>3</sub> )	一酸化炭素 (CO)	微小粒子状物質 (PM2.5)	非メタン炭化水素 (NMHC)
1	一般環境大気測定局	広瀬	広瀬小学校 青葉区下愛子字二本松 40	—	○	○	○	—	○ <sup>※2</sup>	—
2		宮総	宮城総合支所 青葉区下愛子字観音堂 5	—	—	—	—	—	○ <sup>※2</sup>	—

※1) 「○」は測定している項目、「—」は測定していない項目を示す。

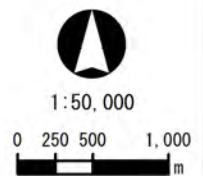
※2) PM2.5 の測定については、広瀬測定局が平成 25 年 12 月～平成 28 年 10 月まで、宮総測定局が平成 28 年 11 月より測定を開始した。このため、平成 25 年度及び平成 28 年度の測定値は、有効測定日数未満となっている。

出典：「公害関係資料集（平成 24 年度～平成 28 年度測定結果）」（仙台市）  
「平成 29 年版宮城県環境白書（資料編）」（宮城県、平成 29 年 12 月）



凡例

- 対象事業実施区域
- 市区町境界線
- 一般環境大気測定局



出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

図 3.1-2 大気汚染常時監視測定局の位置

a. 二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)

対象事業実施区域最寄りの大気汚染常時監視測定局では、二酸化硫黄濃度の測定は行われていない。

b. 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

平成 28 年度の二酸化窒素濃度は、日平均値の最高値が 0.020ppm、日平均値の年間 98%値が 0.013ppm であり、環境基準を下回る結果であった。また、平成 24 年度から平成 28 年度の二酸化窒素濃度の経年変化は、日平均値の最高値が 0.017～0.028ppm、日平均値の年間 98%値が 0.013～0.018ppm であり、いずれの調査年度においても環境基準を下回る結果であった。

平成 28 年度における二酸化窒素濃度の測定結果を表 3.1-6 に、平成 24 年度～平成 28 年度の二酸化窒素濃度の経年変化を表 3.1-7 に、二酸化窒素濃度に係る環境基準を表 3.1-8 に示す。

表 3.1-6 二酸化窒素濃度の測定結果 (平成 28 年度)

測定局名	有効測定日数	年平均値	日平均値の最高値	日平均値の年間 98%値	環境基準 <sup>※1</sup>				
					日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		年間98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数
					[日]	[%]	[日]	[%]	[日]
広瀬	356	0.005	0.020	0.013	0	0.0	0	0.0	0

※1) 二酸化窒素濃度に係る環境基準を表 3.1-8 に示す。

出典：「公害関係資料集 (平成 28 年度測定結果)」(仙台市、平成 29 年)

表 3.1-7 二酸化窒素濃度の経年変化 (平成 24 年度～平成 28 年度)

測定局名	項目	単位	H24	H25	H26	H27	H28
広瀬	年平均値	ppm	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005
	日平均値の最高値	ppm	0.027	0.028	0.017	0.020	0.020
	日平均値の年間 98%値	ppm	0.018	0.018	0.014	0.015	0.013

出典：「公害関係資料集 (平成 24 年度～平成 28 年度測定結果)」(仙台市)

表 3.1-8 二酸化窒素濃度に係る環境基準

項目	数値目標	評価方法
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内、又はそれ以下	<p>&lt;長期的評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 時間値の日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内、又はそれ以下であること。</li> <li>・日平均値の年間 98%値が 0.06ppm 以下であれば環境基準達成、0.06ppm を超えれば非達成である。</li> </ul>

出典：「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和 53 年、環境庁告示第 38 号)



c. 浮遊粒子状物質 (SPM)

平成 28 年度の浮遊粒子状物質濃度は、1 時間値の最高値が 0.108mg/m<sup>3</sup>、日平均値の最高値が 0.034mg/m<sup>3</sup>、日平均値の年間 2%除外値が 0.027mg/m<sup>3</sup> であり、環境基準を下回る結果であった。また、平成 24 年度から平成 28 年度の浮遊粒子状物質濃度の経年変化は、1 時間値の最高値が 0.101~0.189mg/m<sup>3</sup>、日平均値の最高値が 0.034~0.068mg/m<sup>3</sup>、日平均値の年間 2%除外値が 0.027~0.045mg/m<sup>3</sup> であり、いずれの調査年度においても環境基準を下回る結果であった。

平成 28 年度における浮遊粒子状物質の測定結果を表 3.1-9 に、平成 24 年度～平成 28 年度の浮遊粒子状物質の経年変化を表 3.1-10 に、浮遊粒子状物質に係る環境基準をに表 3.1-11 示す。

表 3.1-9 浮遊粒子状物質濃度の測定結果 (平成 28 年度)

測定局名	有効測定日数	年平均値	1時間値の最高値	日平均値の最高値	日平均値の年間2%除外値	環境基準 <sup>※1</sup>				
						1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> を超えた時間数とその割合		日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日数とその割合		日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超えた日が2日以上連続したことの有無 <sup>※2</sup>
						[時間]	[%]	[日]	[%]	
広瀬	362	0.011	0.108	0.034	0.027	0	0.0	0	0.0	○

※1) 浮遊粒子状物質濃度に係る環境基準を表 3.1-11 に示す。

※2) 「○」は環境基準を達成している場合、「×」は環境基準を達成していない場合を示す。

出典：「公害関係資料集 (平成 28 年度測定結果)」(仙台市、平成 29 年)

表 3.1-10 浮遊粒子状物質濃度の経年変化 (平成 24 年度～平成 28 年度)

測定局名	項目	単位	H24	H25	H26	H27	H28
広瀬	年平均値	mg/m <sup>3</sup>	0.017	0.018	0.019	0.014	0.011
	1 時間値の最高値	mg/m <sup>3</sup>	0.137	0.189	0.101	0.131	0.108
	日平均値の最高値	mg/m <sup>3</sup>	0.045	0.068	0.055	0.052	0.034
	日平均値の年間 2%除外値	mg/m <sup>3</sup>	0.041	0.045	0.045	0.037	0.027

出典：「公害関係資料集 (平成 24 年度～平成 28 年度測定結果)」(仙台市)

表 3.1-11 浮遊粒子状物質濃度に係る環境基準

項目	数値目標	評価方法
浮遊粒子状物質 (SPM)	0.10mg/m <sup>3</sup> 以下	<長期的評価> ・1時間値の日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であること。 ・日平均値の年間2%除外値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であれば環境基準達成、0.10mg/m <sup>3</sup> を超えれば非達成である。ただし、日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> を超える日が2日以上連続したときは、上記に関係なく非達成である。
	0.20mg/m <sup>3</sup> 以下	<短期的評価> ・1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。 ・連続して又は随時に行った測定について、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下で、かつ、1時間値の日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であれば環境基準達成、1時間値又は日平均値のどちらか一方が基準を超えれば非達成である。

出典：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年、環境庁告示第25号）

d. 光化学オキシダント (O<sub>x</sub>)

平成28年度の光化学オキシダント濃度は、1時間値の年平均値は0.034ppmであるが、1時間値の最高値が0.076ppmであり、環境基準を上回る結果であった。また、平成24年度から平成28年度の光化学オキシダント濃度の経年変化は、1時間値の年平均値は0.030～0.035ppmであるが、1時間値の最高値が0.076～0.094ppmであり、いずれの調査年度においても環境基準を上回る結果であった。

平成28年度における光化学オキシダントの測定結果を表3.1-12に、平成24年度～平成28年度の光化学オキシダントの経年変化を表3.1-13に、光化学オキシダントに係る環境基準を表3.1-14に示す。

表 3.1-12 光化学オキシダント濃度の測定結果（平成28年度）

測定局名	昼間 <sup>※1</sup> 測定日数 [日]	昼間 <sup>※1</sup> 測定時間 [時間]	昼間 <sup>※1</sup> の 1時間値の年平均値 [ppm]	昼間 <sup>※1</sup> の 1時間値の最高値 [ppm]	環境基準 <sup>※2</sup>	
					日平均値が0.06ppmを超えた日数及び時間数	
					[日]	[時間]
広瀬	365	5407	0.034	0.076	32	126

※1) 昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。

※2) 光化学オキシダント濃度に係る環境基準を表3.1-14に示す。

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

表 3.1-13 光化学オキシダント濃度の経年変化（平成24年度～平成28年度）

測定局名	項目	単位	H24	H25	H26	H27	H28
広瀬	昼間 <sup>※1</sup> の1時間値の年平均値	ppm	0.033	0.030	0.035	0.035	0.034
	昼間 <sup>※1</sup> の1時間値の最高値	ppm	0.080	0.081	0.094	0.089	0.076
	1時間値が0.06ppmを超えた日数(時間数)	ppm	35(135)	28(141)	50(268)	55(302)	32(126)

※1) 昼間とは5時から20時までの時間帯をいう。

出典：「公害関係資料集（平成24年度～平成28年度測定結果）」（仙台市）

表 3.1-14 光化学オキシダント濃度に係る環境基準

項目	数値目標	評価方法
光化学オキシダント( $O_3$ )	0.06ppm 以下	・1時間値が0.06ppm 以下であること。

出典：「大気汚染に係る環境基準について」（昭和48年、環境庁告示第25号）

e. 一酸化炭素 (CO)

対象事業実施区域最寄りの大気汚染常時監視測定局では、一酸化炭素濃度の測定は行われていない。

f. 微小粒子状物質 (PM2.5)

平成28年度の微小粒子状物質濃度は、広瀬測定局の年平均値が $10.0 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、日平均値の最高値が $32.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。また、宮総測定局の年平均値が $7.6 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、日平均値の最高値が $18.6 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、いずれの測定局においても環境基準を下回る結果であった。

平成24年度～平成28年度の微小粒子状物質濃度の経年変化は、広瀬測定局の平成26年度及び平成27年度において、年平均値が $10.7\sim 11.2 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 、日平均値の年間98%値が $29.9\sim 30.5 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、環境基準を下回る結果であった。なお、微小粒子状物質の測定は、広瀬局が平成25年12月～平成28年10月まで、宮総局が平成28年11月より測定を開始した。このため、平成25年度及び平成28年度の測定値は、有効測定日数未満となっている。

平成28年度における微小粒子状物質の測定結果を表3.1-15に、平成24年度～平成28年度の微小粒子状物質の経年変化を表3.1-16に、微小粒子状物質に係る環境基準を表3.1-17に示す。

表 3.1-15 微小粒子状物質濃度の測定結果（平成28年度）

測定局名	有効測定日数	年平均値	日平均値の最高値	環境基準 <sup>※2</sup>	
				日平均値が $35 \mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合	
				[日]	[%]
広瀬 <sup>※1</sup>	186	(10.0)	(32.5)	0	0.0
宮総 <sup>※1</sup>	65	(7.6)	(18.6)	0	0.0

※1) ( ) 内は有効測定日数未満の測定値を示す。PM2.5の測定期間は、広瀬測定局が平成25年12月～平成28年10月まで、宮総測定局が平成28年11月より測定を開始した。このため、平成25年度及び平成28年度の測定値は、有効測定日数未満となっている。

※2) 微小粒子状物質濃度に係る環境基準を表3.1-17に示す。

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

表 3.1-16 微小粒子状物質濃度の経年変化（平成 24 年度～平成 28 年度）

測定局名	項目	単位	H24	H25	H26	H27	H28
広瀬 <sup>※1</sup>	年平均値	μg/m <sup>3</sup>	—	(9.4)	11.2	10.7	(10.0)
	日平均値の年間 98% 値	μg/m <sup>3</sup>	—	(27.3)	30.5	29.9	(20.3)
宮総 <sup>※1</sup>	年平均値	μg/m <sup>3</sup>	—	—	—	—	(7.6)
	日平均値の年間 98% 値	μg/m <sup>3</sup>	—	—	—	—	(18.6)

※1) 「—」は測定していない年度、( )内は有効測定日数未滿の測定値を示す。PM2.5 の測定期間は、広瀬測定局が平成 25 年 12 月～平成 28 年 10 月まで、宮総測定局が平成 28 年 11 月より測定を開始した。このため、平成 25 年度及び平成 28 年度の測定値は、有効測定日数未滿となっている。

出典：「公害関係資料集（平成 25 年度～平成 28 年度測定結果）」（仙台市）

表 3.1-17 微小粒子状物質濃度に係る環境基準

項目	数値目標	評価方法
微小粒子状物質 (PM2.5)	15 μg/m <sup>3</sup> 以下	<長期基準> ・年平均値が 15 μg/m <sup>3</sup> 以下であること。
	35 μg/m <sup>3</sup> 以下	<短期基準> ・日平均値のうち年間 98 パーセント値が 35 μg/m <sup>3</sup> 以下であること。

出典：「微小粒子状物質による大気汚染に係る環境基準について」（平成 21 年、環境庁告示第 33 号）

「微小粒子状物質による大気汚染に係る環境基準について（通知）」（平成 21 年、環水大総第 090909001 号）

#### g. 非メタン炭化水素（NMHC）

対象事業実施区域最寄りの大気汚染常時監視測定局では、非メタン炭化水素の測定は行われていない。

#### ② 大気汚染に係る苦情の状況

仙台市では、ばい煙に係る苦情が年間 4～15 件、粉じんに係る苦情が年間 9～25 件発生している。

平成 24 年度～平成 28 年の大気汚染に係る苦情件数の経年変化を表 3.1-18 に示す。

表 3.1-18 大気汚染に係る苦情件数の経年変化（平成 24 年度～平成 28 年度）

市	項目	H24	H25	H26	H27	H28
仙台市	ばい煙	15 件	4 件	4 件	8 件	5 件
	粉じん	25 件	20 件	16 件	15 件	9 件

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

### ③ 発生源の状況

仙台市における大気汚染防止法等に基づくばい煙及び粉じん発生事業場数及び施設数は、ばい煙が709事業場・1,590施設、粉じんが19事業場・126施設であった。また、宮城県公害防止条例に基づくばい煙・粉じんに係る特定施設数は、ばい煙が1事業場・1施設、粉じんが12事業場・15施設であった。このうち、対象事業実施区域周辺における大気汚染防止法等に基づくばい煙及び粉じん発生施設は、ばい煙が24事業場・49施設、粉じんが2事業場・10施設であった。また、宮城県公害防止条例に基づくばい煙・粉じんに係る特定施設は、粉じんが1事業場・3施設であり、ばい煙発生施設はなかった。

仙台市におけるばい煙・粉じん発生事業場数及び施設数を表 3.1-19 及び表 3.1-20 に、対象事業実施区域周辺におけるばい煙・粉じん発生施設概要を表 3.1-21 及び表 3.1-22 に示す。また、ばい煙・粉じん発生施設の位置を図 3.1-3 及び図 3.1-4 に示す。

表 3.1-19 大気汚染防止法等に基づくばい煙・粉じん発生事業場数及び施設数

項目	ばい煙		粉じん	
	事業場数	施設数	事業場数	施設数
仙台市	709	1,590	19	126

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

表 3.1-20 宮城県公害防止条例に基づくばい煙・粉じん発生事業場数及び施設数

項目	ばい煙		粉じん	
	事業場数	施設数	事業場数	施設数
仙台市	1	1	12	15

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

表 3.1-21 大気汚染防止法等に基づくばい煙発生施設の概要

事業場所在地		事業場数	施設の種類	施設数
仙台市青葉区	芋沢	13	ボイラー	17
			乾燥炉	2
			ガスタービン	3
			ディーゼル機関	2
	みやぎ台	1	ボイラー	1
	愛子	2	ボイラー	2
			ディーゼル機関	1
上愛子	6	ボイラー	17	
		ディーゼル機関	1	
愛子中央	1	ボイラー	2	
仙台市泉区	館	1	ディーゼル機関	1
計		24	—	49

出典：「大気汚染防止法等に基づくばい煙発生施設一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）

表 3.1-22 大気汚染防止法に基づく粉じん発生施設の概要

事業場所在地		事業場数	施設の種類	施設数
仙台市青葉区	芋沢	2	堆積場	1
			ベルトコンベア	7
			ふるい	2
計		2	—	10

出典：「大気汚染防止法等に基づく一般粉じん発生施設一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）

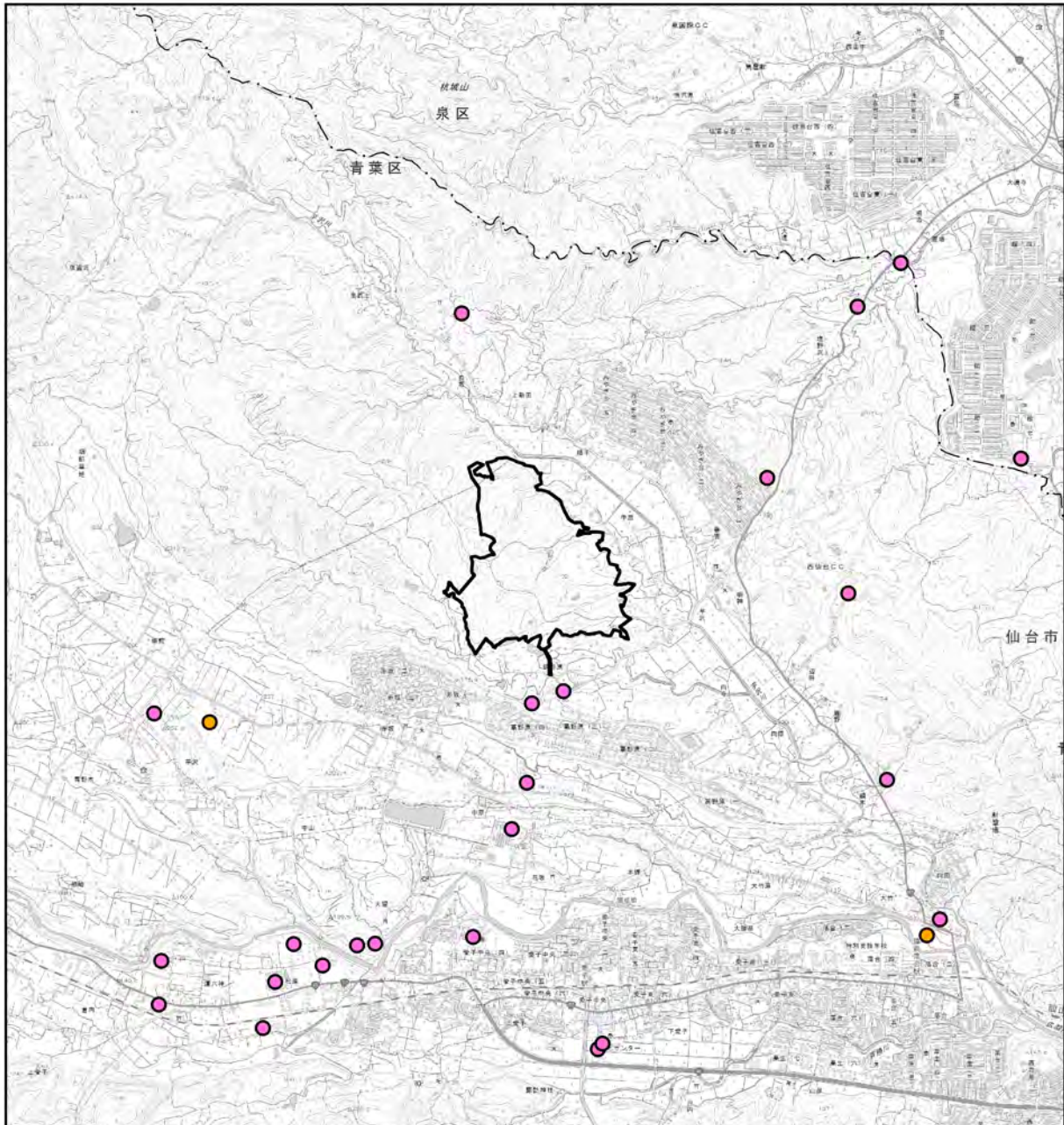
表 3.1-23 宮城県公害防止条例に基づく粉じん発生施設の概要

事業場所在地		事業場数	施設の種類	施設数
仙台市青葉区	芋沢	1	チップ又はのこぎりくずの堆積場	3
			計	1

出典：「宮城県公害防止条例に基づく粉じんに係る特定施設一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）

#### ④ 影響を受ける施設等の状況

大気汚染の影響を受ける施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に記載する。



凡例

- 対象事業実施区域
- 市区町境界線
- 大気汚染防止法等に基づくばい煙発生施設
- 大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設

出典：「大気汚染防止法等に基づくばい煙発生施設一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）  
「大気汚染防止法等に基づく一般粉じん発生施設一覧」  
（仙台市、平成30年3月31日現在）

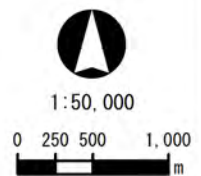
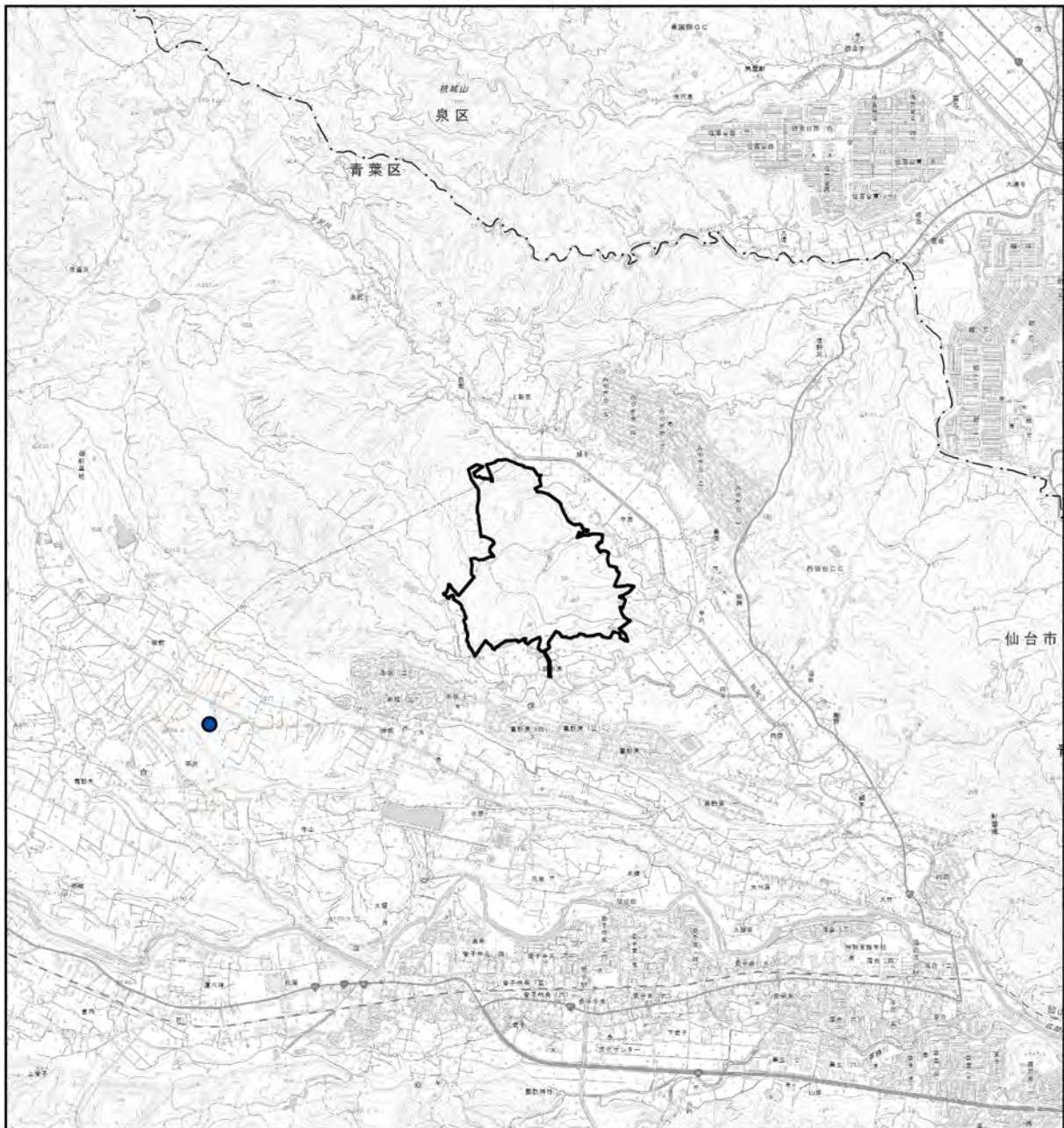


図 3.1-3 大気汚染防止法等に基づくばい煙・粉じん発生施設の位置

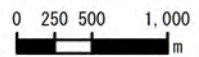


凡例

- 対象事業実施区域
- 市区町境界線
- 宮城県公害防止条例に基づく粉じんに係る特定施設



1:50,000



出典：「宮城県公害防止条例に基づく粉じんに係る特定施設一覧」  
(仙台市、平成30年3月31日現在)

図 3.1-4 宮城県公害防止条例に基づく粉じん発生施設の位置



### (3) 騒音

#### ① 騒音の状況

##### a. 環境騒音

対象事業実施区域周辺では、環境騒音の測定は行われていない。

##### b. 道路交通騒音

対象事業実施区域周辺では、一般国道 48 号及び一般国道 457 号において自動車交通騒音の測定が行われている。

平成 24 年度～平成 28 年度に実施された測定結果では、一般国道 48 号において環境基準を超過する結果であった。

平成 24 年度～平成 28 年度の自動車交通騒音の測定状況を表 3.1-24 に、各評価区間における最新の自動車交通騒音の測定結果を表 3.1-25 に、自動車交通騒音の測定路線位置を図 3.1-5 に示す。

表 3.1-24 自動車交通騒音の測定状況

図中番号	路線名	評価区間(住所) 上段：始点 下段：終点	評価区間延長	環境基準 類型 ※1	騒音測定年度※2				
					H24	H25	H26	H27	H28
1	一般国道 48 号	仙台市青葉区郷六字大霜 仙台市青葉区栗生 5-1	2.5 km	B	○	—	—	—	—
2	一般国道 48 号	仙台市青葉区栗生 5-1 仙台市青葉区愛子中央 6-12	3.5 km	B	○	○	○	○	○
3	一般国道 48 号	仙台市青葉区愛子中央 6-12 仙台市青葉区上愛子字白沢	6.1 km	B	—	—	○	—	—
4	一般国道 457 号	仙台市青葉区落合 2-11-5 仙台市青葉区愛子中央 6-12	3.7 km	B	—	○	—	—	—

※1) 環境基準類型を以下に示す。

AA：療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域

A：専ら住居の用に供される地域

B：主として住居の用に供される地域

C：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域

※2) 「○」は測定している調査年度、「—」は測定していない調査年度を示す。

出典：「平成 29 年度版 宮城県環境白書」(宮城県、平成 29 年 12 月)

「平成 27 年度 宮城県公害資料」(宮城県、平成 29 年 3 月)

「公害関係資料集(平成 28 年度測定結果)」(仙台市、平成 29 年)

表 3.1-25 自動車交通騒音の測定結果

区 中 番 号	路線名	評価区間(住所) 上段：始点 下段：終点	評価 区間 延長	環境 基準 類型 ※1	等価騒音レベル[dB]※2		最新 測定 年度
					昼間	夜間	
1	一般国道 48 号	仙台市青葉区郷六字大霜 仙台市青葉区栗生 5-1	2.5 km	B	71(70)	66(65)	H24
2	一般国道 48 号	仙台市青葉区栗生 5-1 仙台市青葉区愛子中央 6-12	3.5 km	B	68(70)	63(65)	H28
3	一般国道 48 号	仙台市青葉区愛子中央 6-12 仙台市青葉区上愛子字白沢	6.1 km	B	72(70)	69(65)	H26
4	一般国道 457 号	仙台市青葉区落合 2-11-5 仙台市青葉区愛子中央 6-12	3.7 km	B	65(70)	63(65)	H25

※1) 環境基準類型を以下に示す。

AA：療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を要する地域

A：専ら住居の用に供される地域

B：主として住居の用に供される地域

C：相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域

※2) ( )内の数値は、騒音に係る環境基準のうち、幹線交通を担う道路に近接する空間の基準値(表 3.1-26 参照)を示す。

出典：「平成 29 年度版 宮城県環境白書」(宮城県、平成 29 年 12 月)

「平成 27 年度 宮城県公害資料」(宮城県、平成 29 年 3 月)

「公害関係資料集(平成 28 年度測定結果)」(仙台市、平成 29 年)

表 3.1-26 騒音に係る環境基準

基準値(幹線交通を担う道路※1に近接する空間の基準値)	
昼間(6:00~22:00)	夜間(22:00~翌 6:00)
70dB 以下	65dB 以下

備考

個別の住居等において騒音の影響を受けやすい面の窓を主として閉めた生活が営まれていると認められるときは、屋内へ透過する騒音に係る基準(昼間にあっては 45dB 以下、夜間にあっては 45dB 以下)によることができる。

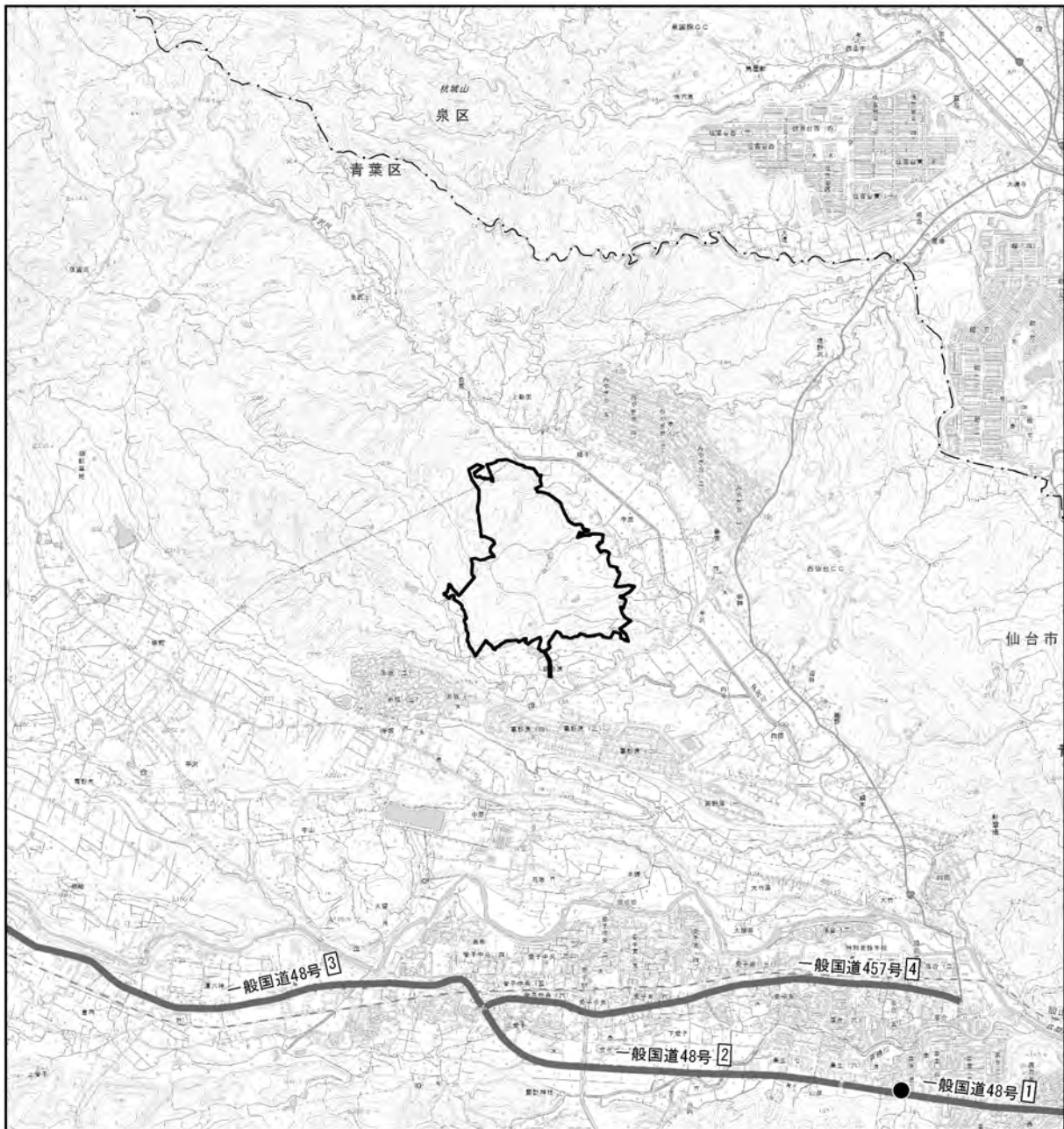
※1) 幹線交通を担う道路とは、次に掲げる道路をいう。

(1)「道路法」(昭和 27 年、法律第 180 号)の第 3 条に規定する高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道(市町村道にあっては 4 車線以上の区間に限る)。

(2)前項に掲げる道路を除くほか、「道路運送法」(昭和 26 年、法律第 183 号)の第 2 条第 8 項に定める一般自動車道であって「都市計画法施行規則」(昭和 44 年、建設省令第 49 号)の第 7 条第 1 項第 1 号に定める自動車専用道路。

出典：「騒音に係る環境基準について」(平成 10 年、環境庁告示第 64 号)

「騒音に係る環境基準の評価マニュアルー道路に面する地域編ー」(環境省、平成 27 年 10 月)



凡例

- 対象事業実施区域
- 市区町境界線
- 評価区間（自動車交通騒音）
- 測定地点（自動車交通騒音）

出典：「平成 29 年度版 宮城県環境白書」（宮城県、平成 29 年 12 月）  
 「平成 27 年度 宮城県公害資料」（宮城県、平成 29 年 3 月）  
 「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

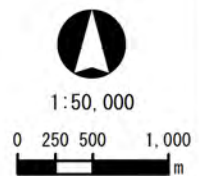


図 3.1-5 自動車交通騒音の測定路線の位置

## ② 騒音に係る苦情の発生状況

仙台市では、騒音に係る苦情が年間 109～148 件発生している。

仙台市における平成 24 年度～平成 28 年の騒音に係る苦情件数の経年変化を表 3.1-27 に示す。

表 3.1-27 騒音に係る苦情件数の経年変化（平成 24 年度～平成 28 年度）

市	項目	H24	H25	H26	H27	H28
仙台市	騒音	121 件	128 件	139 件	148 件	109 件

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

## ③ 発生源の状況

仙台市では、平成 28 年度における騒音規制法に基づく特定建設作業の届出が 213 件あった。このうち、最も多く届出された作業内容は「さく岩機を使用する作業」であり、届出全体の 62%を占めた。また、最も多く届出された工事種別は「ビル等工事」であり、届出全体の 61%を占めた。

また、仙台市における特定施設の工場等数及び施設数は、騒音規制法に基づく特定施設が 1,048 工場等・6,135 施設、宮城県公害防止条例に基づく特定施設が 718 工場等・1,696 施設であった。このうち、対象事業実施区域周辺における特定施設の工場等数及び施設数は、騒音規制法に基づく特定施設が 36 工場等、宮城県公害防止条例に基づく特定施設が 27 工場等であった。

騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況を表 3.1-28 に示す。また、仙台市における特定施設の工場等数及び施設数を表 3.1-29 に、対象事業実施区域周辺における特定施設の概要を表 3.1-30 に、特定施設の位置を図 3.1-6 に示す。

表 3.1-28 騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成 28 年度）

作業内容	工事種別	ビル等 工事	上下水道 等工事	道路河川 等工事	その他の 工事	合計※1
くい打機くい抜機を使用する作業		12	1	5		18
びょう打機を使用する作業						—
さく岩機を使用する作業		87	4	16	25	132
空気圧縮機を使用する作業		11	2	7	5	25
コンクリートプラントを設けて行う作業		1				1
バックホウを使用する作業		19	3	5	9	36
トラクターショベルを使用する作業						—
ブルドーザーを使用する作業					1	1
計		130	10	33	40	213

※1) 「—」は届出がなかった作業を示す。

出典：「公害関係資料集 平成 28 年度測定結果」（仙台市、平成 29 年）

表 3.1-29 騒音規制法及び宮城県公害防止条例に基づく特定施設の工場等数及び施設数

項目	騒音規制法		宮城県公害防止条例	
	工場等数	施設数	工場等数	施設数
仙台市	1,048	6,135	718	1,696

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

表 3.1-30 騒音規制法及び宮城県公害防止条例に基づく特定施設の概要

事業場所在地		騒音規制法 工場等数	宮城県公害防止条例 工場等数	工場等総数
仙台市青葉区	芋沢	11	6	17
	みやぎ台	1	1	2
	赤坂	1	1	2
	上愛子	12	9	21
	下愛子	6	4	10
	愛子中央	1		1
	愛子東		1	1
	栗生	3		3
	西花苑	1		1
仙台市泉区	西田中		1	1
	住吉台西		2	2
	小角		1	1
	根白石		1	1
計		36	27	63

出典：「騒音振動特定施設一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）

#### ④ 影響を受ける施設等の状況

騒音の影響を受ける施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に記載する。

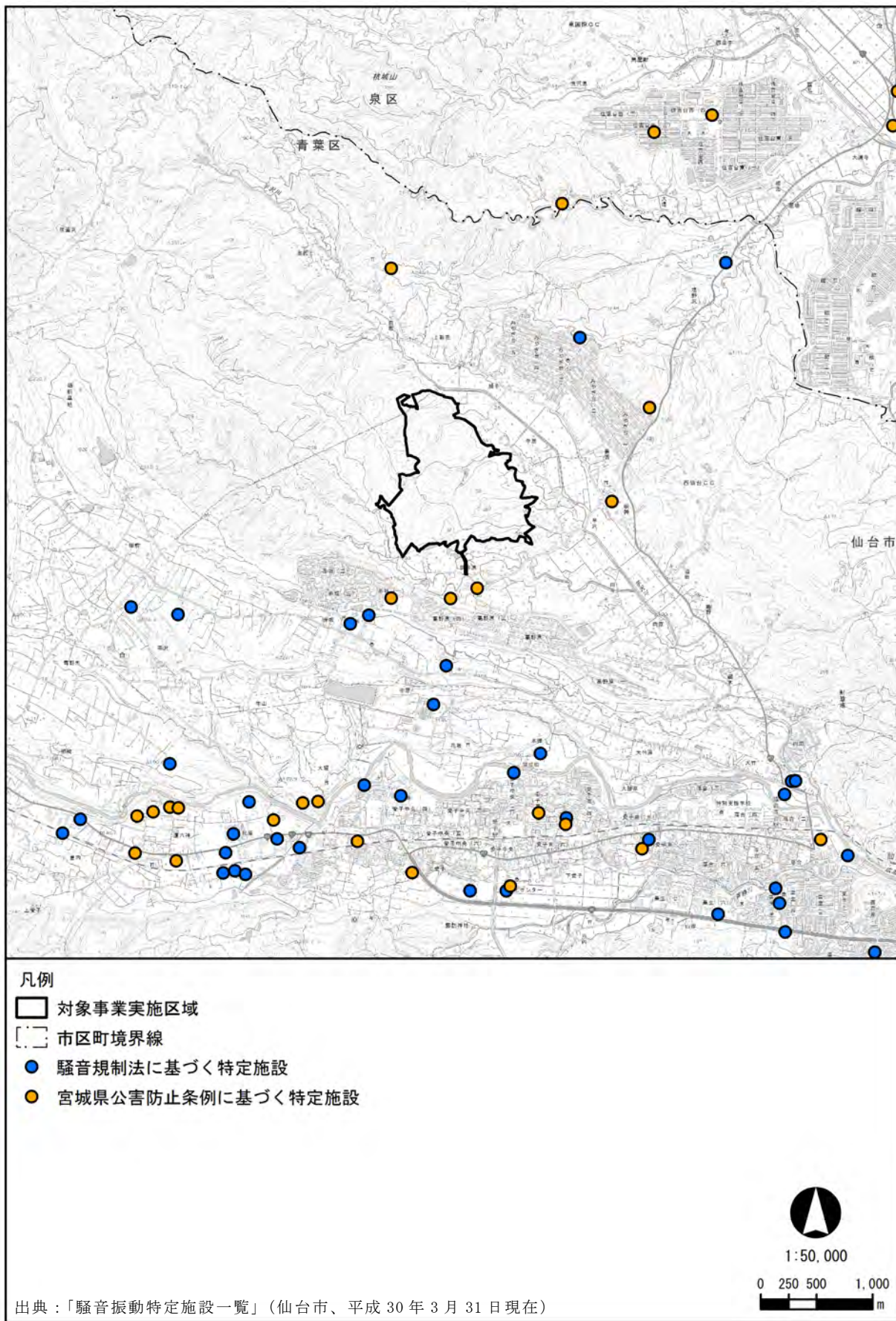


図 3.1-6 騒音規制法及び宮城県公害防止条例に基づく特定施設の位置

#### (4) 振動

##### ① 振動の状況

###### a. 環境振動

対象事業実施区域周辺では、環境振動の測定は行われていない。

###### b. 道路交通振動

対象事業実施区域周辺では、道路交通振動の測定は行われていない。

##### ② 振動に係る苦情の状況

仙台市では、振動に係る苦情が年間 9～18 件発生している。

仙台市における平成 24 年度～平成 28 年の振動に係る苦情件数の経年変化を表 3.1-31 に示す。

表 3.1-31 振動に係る苦情件数の経年変化（平成 24 年度～平成 28 年度）

市	項目	H24	H25	H26	H27	H28
仙台市	振動	15 件	11 件	11 件	9 件	18 件

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

##### ③ 発生源の状況

仙台市では、平成 28 年度における振動規制法に基づく特定建設作業の届出が 160 件あった。このうち、最も多く届出された作業内容は「ブレーカーを使用する作業」であり、届出全体の 74%を占めた。また、最も多く届出された工事種別は「ビル等工事」であり、届出全体の 68%を占めた。

また、仙台市における特定施設の工場等数及び施設数は、振動規制法に基づく特定施設が 267 工場等・1,086 施設、宮城県公害防止条例に基づく特定施設が 977 工場等・7,177 施設であった。このうち、対象事業実施区域周辺における特定施設の工場等数及び施設数は、騒音規制法に基づく特定施設が 20 工場等、宮城県公害防止条例に基づく特定施設が 21 工場等であった。

振動規制法に基づく特定建設作業届出状況を表 3.1-32 に示す。また、仙台市における特定施設の工場等数及び施設数を表 3.1-33 に、対象事業実施区域周辺における特定施設の概要を表 3.1-34 に、特定施設の位置を図 3.1-7 に示す。

表 3.1-32 振動規制法に基づく特定建設作業届出状況（平成 28 年度）

作業内容	工事種別					合計※1
	ビル等 工事	上下水道 等工事	道路河川 等工事	その他の 工事		
くい打機くい抜機を使用する作業	30	1	6	3		40
鋼球を使用して破壊する作業						—
舗装破砕機を使用する作業				1		1
ブレーカーを使用する作業	79		14	26		119
計	109	1	20	30		160

※1)「—」は届出がなかった作業を示す。

出典：「公害関係資料集 平成 28 年度測定結果」（仙台市、平成 29 年）

表 3.1-33 振動規制法及び宮城県公害防止条例に基づく特定施設の工場等数及び施設数

項目	騒音規制法		宮城県公害防止条例	
	工場等数	施設数	工場等数	施設数
仙台市	267	1,086	977	7,177

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

表 3.1-34 振動規制法及び宮城県公害防止条例に基づく特定施設の概要

事業場所在地		振動規制法 工場等数	宮城県公害防止条例 工場等数	工場等総数
仙台市青葉区	芋沢	6	3	9
	みやぎ台		1	1
	高野原		1	1
	上愛子	10	4	14
	下愛子	2	1	3
	愛子東		2	2
	栗生	2	3	5
	西花苑		1	1
仙台市泉区	西田中		1	1
	住吉台西		2	2
	小角		1	1
	根白石		1	1
計		20	21	41

出典：「騒音振動特定施設一覧」（仙台市、平成 30 年 3 月 31 日現在）

#### ④ 影響を受ける施設等の状況

振動の影響を受ける施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に記載する。



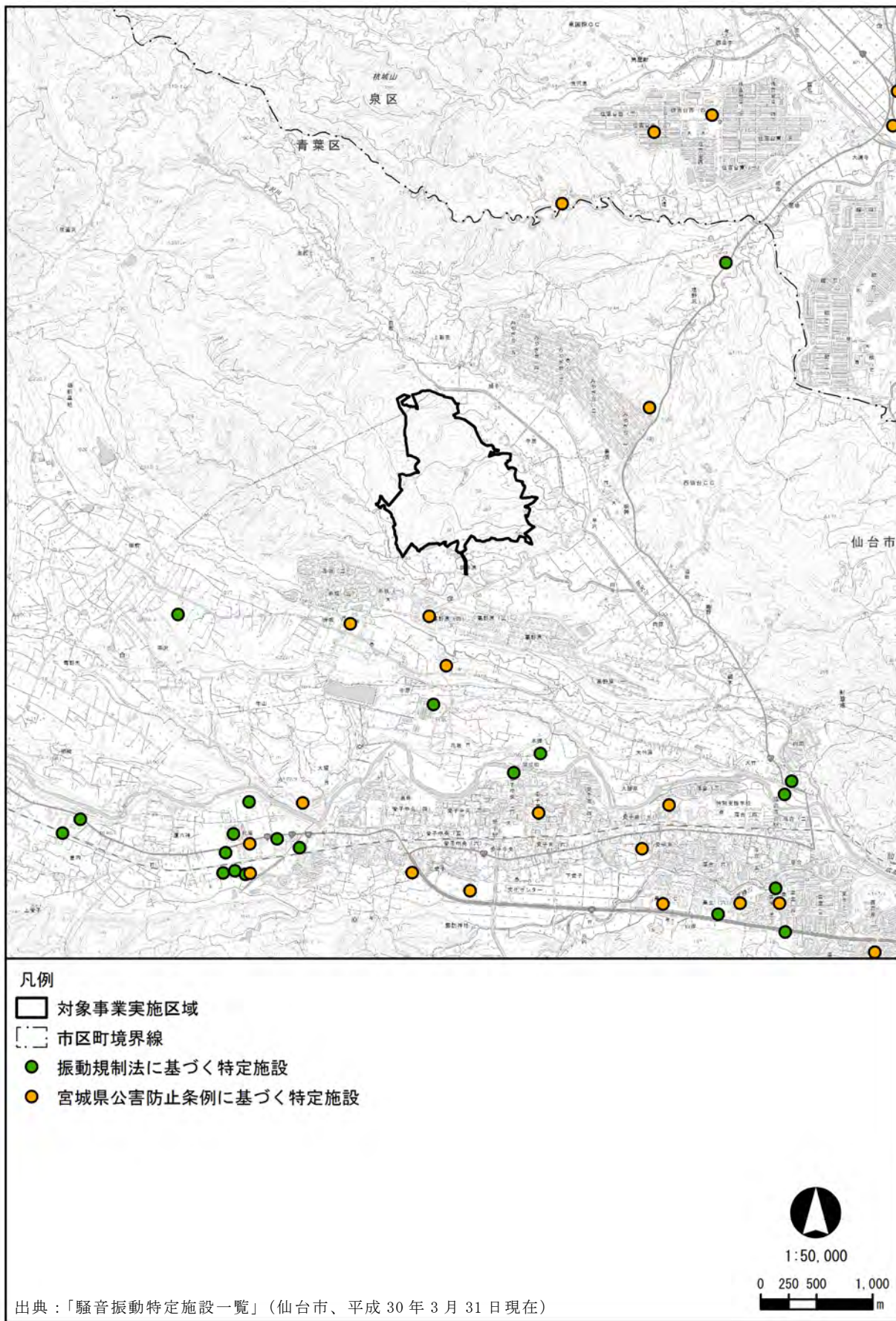


図 3.1-7 振動規制法及び宮城県公害防止条例に基づく特定施設の位置

## (5) 悪臭

### ① 悪臭に係る苦情の状況

仙台市では、悪臭に係る苦情が年間 20～39 件発生している。このうち、サービス業・その他（廃棄物処理業、飲食店、医療機関等）及び個人住宅・アパート・寮（ごみ焼き、浄化槽等）を発生源とする苦情が継続して発生している。

平成 24 年度～平成 28 年の悪臭に係る苦情件数の経年変化を表 3.1-35 に示す。

表 3.1-35 悪臭に係る発生源別苦情件数の経年変化（平成 24 年度～平成 28 年度）

発生源区分	発生源	H24	H25	H26	H27	H28
畜産農業	養豚・養牛・養鶏場、 農地、堆肥等	—	2	1	1	—
飼料・肥料製造 工場	鶏糞乾燥場、 配合飼料製造構造等	—	—	—	—	1
食料品製造 工場	畜産食料品製造工場、 菓子製造工場	—	1	—	—	11
化学工場	化学肥料・ FRP 製品製造工場等	—	—	—	—	—
その他の製造 工場	印刷・木工工場、 紙加工品製造工場	2	4	—	—	3
サービス業・ その他	廃棄物処理業、飲食店、 医療機関等	14	6	5	5	7
移動発生源	自動車の排出ガス等	—	—	—	—	—
建設作業現場	—	1	2	2	1	—
下水・用水	事務所の排水路等	—	—	—	—	1
ごみ集積所	—	—	1	—	—	—
個人住宅・ アパート・寮	ごみ焼き、浄化槽等	8	8	7	6	2
不明	—	14	6	11	14	5
合計		39	30	26	28	20

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

### ② 発生源の状況

仙台市における悪臭に係る特定施設は 7 施設、対象事業実施区域周辺における悪臭に係る特定施設は 1 施設であった。

仙台市における悪臭に係る工場等数及び施設数を表 3.1-36 に、対象事業実施区域周辺における悪臭に係る特定施設の概要を表 3.1-37 に、特定施設の位置を図 3.1-8 に示す。

表 3.1-36 宮城県公害防止条例に基づく悪臭に係る工場数又は事業場数

項目	宮城県公害防止条例	
	工場数又は事業場数	施設の種類
仙台市	7	原料置場、原料処理施設、強制発酵施設

出典：「宮城県公害防止条例に基づく悪臭に係る特定施設一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）

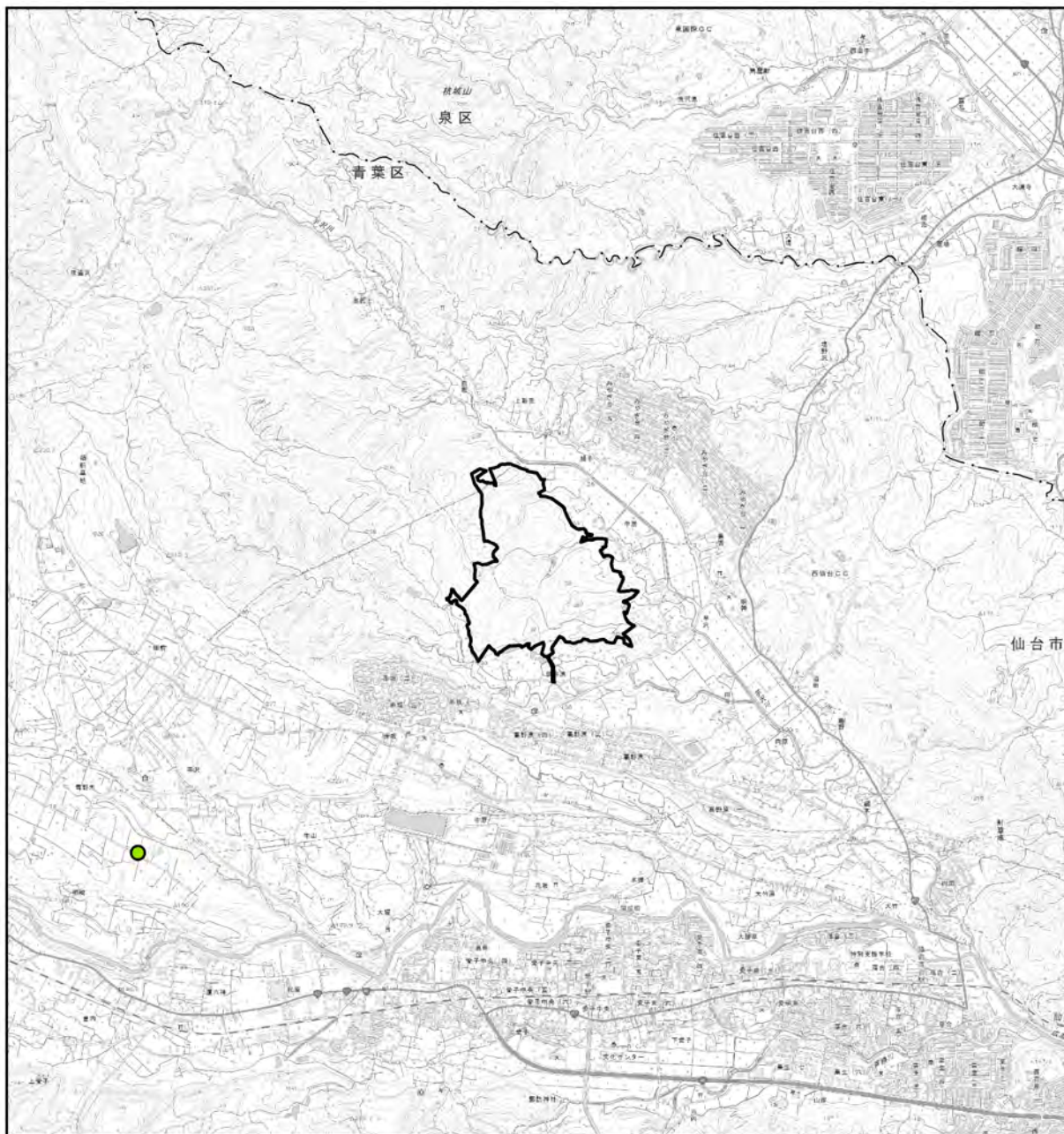
表 3.1-37 宮城県公害防止条例に基づく悪臭に係る特定施設の概要

工場又は事業場所在地		工場数又は事業場数	施設の種類
仙台市青葉区	芋沢	1	原料置場、強制発酵施設
計		1	—

出典：「宮城県公害防止条例に基づく悪臭に係る特定施設一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）

### ③ 影響を受ける施設の状況

本事業の実施に当たっては、工事中及び供用時において、悪臭を発生させる工種又は建築物の計画が無いことから、悪臭の影響を受ける施設は想定しない。



凡例

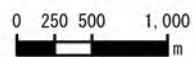
□ 対象事業実施区域

⋯ 市区町境界線

● 宮城県公害防止条例に基づく悪臭に係る特定施設



1:50,000



出典：「宮城県公害防止条例に基づく悪臭に係る特定施設一覧」  
(仙台市、平成30年3月31日現在)

図 3.1-8 宮城県公害防止条例に基づく悪臭に係る特定施設の位置

### 3.1.2 水環境

#### (1) 水質

##### ① 水質汚濁の状況

対象事業実施区域周辺では、広瀬川、芋沢川、斉勝川において公共用水域における水質調査が実施されており、このうち、環境基準に係る類型が指定されている河川は広瀬川のみである。また、広瀬川及び芋沢川においては、ダイオキシン類の測定が実施されている。

人の健康の保護に係る項目については、全項目で環境基準を達成する結果であった。生活環境の保全に係る項目については、大腸菌群数が環境基準を超過したほかは、環境基準を達成する結果であった。水産生物の保全に係る項目については、全項目で環境基準を達成する結果であった。ダイオキシン類については、いずれの測定地点においても環境基準を達成する結果であった。

平成28年度における河川の水質測定結果を表3.1-38～表3.1-41に、水質測定地点の位置を図3.1-9に示す。

表 3.1-38 河川の水質測定結果（人の健康の保護：平成28年度）

項目	単位	測定結果※1			環境基準
		広瀬川 鳴合橋	芋沢川 芋沢川最下流	斉勝川 斉勝川最下流	
カドミウム	mg/L	<0.0003	—	—	0.003 以下
全シアン	mg/L	ND※2	—	—	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	—	—	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.02	—	—	0.05 以下
砒素	mg/L	<0.005	—	—	0.01 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	—	—	0.0005 以下
アルキル水銀	mg/L	ND※2	—	—	検出されないこと
PCB	mg/L	ND※2	—	—	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	—	—	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	—	—	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	—	—	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	—	—	0.1 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	—	—	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	—	—	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	—	—	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	—	—	0.01 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	—	—	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	—	—	0.002 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	—	—	0.006 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	—	—	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.001	—	—	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	—	—	0.01 以下
セレン	mg/L	<0.002	—	—	0.01 以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.23	0.18	0.39	10 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	—	—	0.8 以下
ほう素	mg/L	0.13	—	—	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	—	—	0.05 以下

※1) 測定結果の数値は年間平均値を示す（ただし、全シアンは最高値を示す）。なお、「—」は、測定結果がないことを示す。

※2) 「ND」は定量限界値未満の測定結果を示す。

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

表 3.1-39 河川の水質測定結果（生活環境の保全：平成 28 年度）

区分	水系名	河川名	測定地点名	類型指定 ※1	測定結果				
					pH	DO	BOD	SS	大腸菌群数
					最小-最大 年平均値 —	最小-最大 年平均値 [mg/L]	最小-最大 年平均 75% 値 [mg/L]	最小-最大 年平均値 [mg/L]	最小-最大 年平均値 [MPN/100mL]
河川	名取川	広瀬川	鳴合橋	A	6.8-7.4 7.1	9.7-14 11	<0.5-0.9 0.6	<1-7 2	70-7,900 2,100
		芋沢川	芋沢川最下流	—	7.5-7.9 7.8	8.7-15 11	<0.5-1.5 0.8	<1-18 4	330-92,000 17,000
		斉勝川	斉勝川最下流	—	7.7-9.1 8.3	9.2-14 11	<0.5-2.3 1.0	<1-26 6	31-17,000 6,000
環境基準				A	6.5 以上 8.5 以下	7.5 以上	2 以下	25 以下	1,000 以下

※1) 河川における利用目的の適応性に係る類型指定の内容を以下に示す。なお、「—」は、類型指定がないことを示す。

- AA：水道 1 級、自然環境保全及び A 以下の欄に掲げるもの
- A：水道 2 級、水産 1 級、水浴及び B 以下の欄に掲げるもの
- B：水道 3 級、水産 2 級及び C 以下の欄に掲げるもの
- C：水産 3 級、工業用水 1 級及び D 以下の欄に掲げるもの
- D：工業用水 2 級、農業用水及び E の欄に掲げるもの
- E：工業用水 3 級、環境保全

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

表 3.1-40 河川の水質測定結果（水産生物の保全：平成 28 年度）

区分	水系名	河川名	測定地点名	類型指定 ※1	測定結果※2		
					全亜鉛	ノニルフェノール	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩 (LAS)
					[mg/L]	[mg/L]	[mg/L]
河川	名取川	広瀬川	鳴合橋	生物 A	0.003	<0.00006	0.0008
		芋沢川	芋沢川最下流	—	0.002	<0.00006	0.0011
		斉勝川	斉勝川最下流	—	0.005	<0.00006	0.0009
環境基準				生物 A	0.03 以下	0.001 以下	0.03 以下

※1) 河川における水生生物の生息状況の適応性に係る類型指定の内容を以下に示す。なお、「—」は、類型指定がないことを示す。

- 生物 A：イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域
- 生物特 A：生物 A の水域のうち、生物 A の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域
- 生物 B：コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物が生息する水域
- 生物特 B：生物 A 又は生物 B の水域のうち、生物 B の欄に掲げる水生生物の産卵場（繁殖場）又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域

※2) 測定結果の数値は年間平均値を示す。

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

表 3.1-41 河川の水質測定結果（ダイオキシン類：平成 28 年度）

区分	水系名	河川名	測定地点名	測定結果 [pg-TEQ/L]	環境基準 [pg-TEQ/L]
河川	名取川	広瀬川	鳴合橋	0.013	1 以下
		芋沢川	芋沢川最下流	0.019	

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

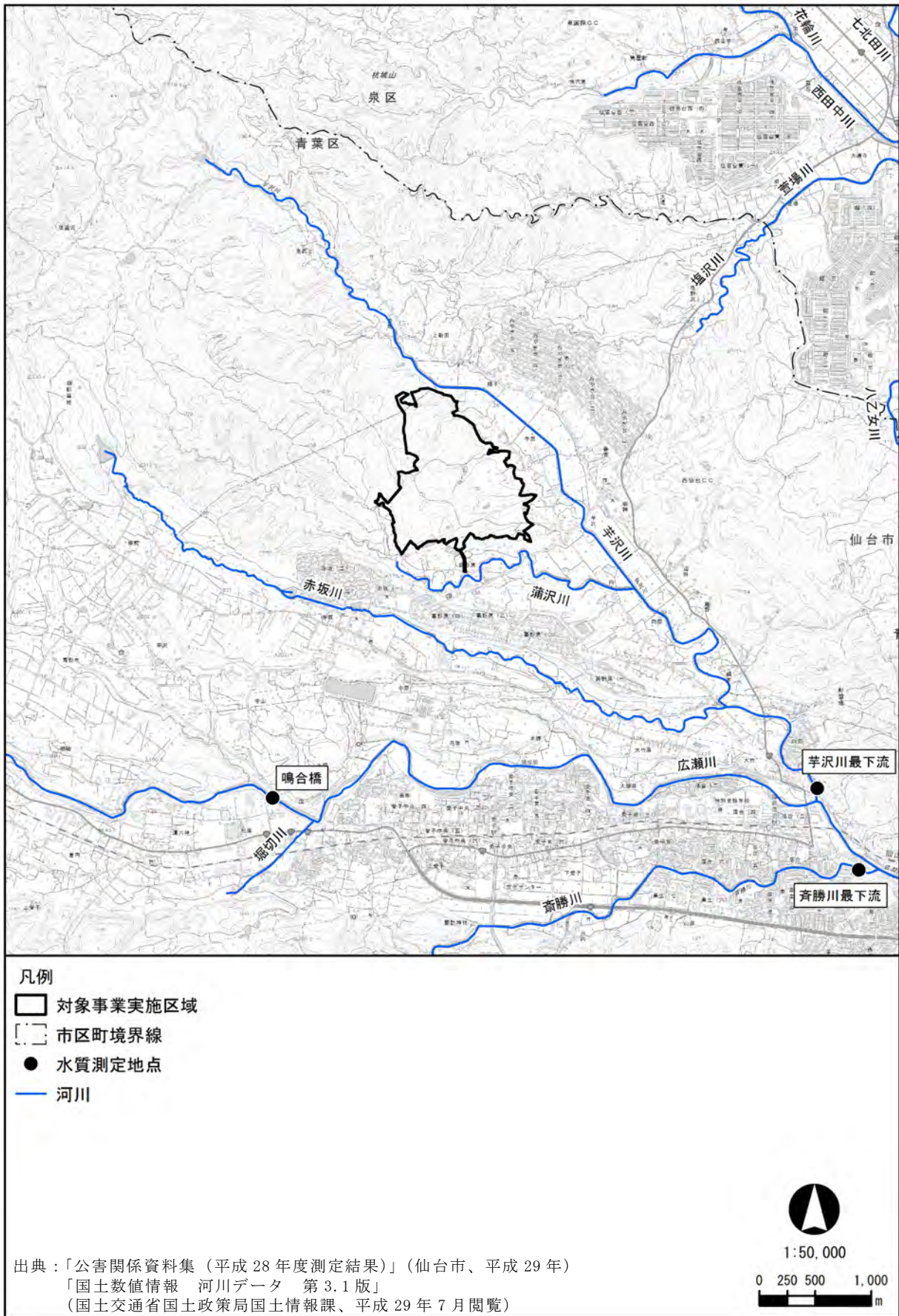


図 3.1-9 水質測定地点の位置

## ② 水質に係る苦情の状況

仙台市では、水質に係る苦情が年間 0～6 件発生している。

仙台市における平成 24 年度～平成 28 年の水質に係る苦情件数の経年変化を表 3.1-42 に示す。

表 3.1-42 水質に係る苦情件数の経年変化（平成 24 年度～平成 28 年度）

市	項目	H24	H25	H26	H27	H28
仙台市	水質	1 件	0 件	1 件	2 件	6 件

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

## ③ 発生源の状況

仙台市では、水質汚濁防止法に基づく特定施設が 966 施設、宮城県公害防止条例の汚水等に係る特定施設が 222 施設であった。また、下水道法に基づく特定施設が 957 施設あり、このうち、ダイオキシン類対策特別措置法水質基準対象施設が 3 施設であった。

対象事業実施区域周辺では、水質汚濁防止法に基づく特定施設が 68 施設、下水道法に基づく特定施設が 43 施設あり、ダイオキシン類対策特別措置法水質基準対象施設及び宮城県公害防止条例の汚水等に係る特定施設はなかった。なお、対象事業実施区域周辺において、最も多い特定施設は「自動式車両洗浄施設」であった。

水質汚濁防止法等及び宮城県公害防止条例の汚水等に係る特定施設の施設数を表 3.1-43 に示す。また、対象事業実施区域周辺における特定施設の概要を表 3.1-44 に、特定施設の位置を図 3.1-10 に示す。

表 3.1-43 水質汚濁防止法等及び宮城県公害防止条例に基づく特定施設の施設数

項目	水質汚濁防止法	下水道法		宮城県公害防止条例
		水質汚濁防止法	ダイオキシン類 対策特別措置法	
	特定施設	特定施設	水質基準対象施設	汚水等に係る特定施設
仙台市	966	957	3	222

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

「水質汚濁防止法に基づく特定事業場一覧」（仙台市、平成 30 年 3 月 31 日現在）

「下水道法に基づく特定事業場一覧」（仙台市、平成 30 年 3 月 31 日現在）

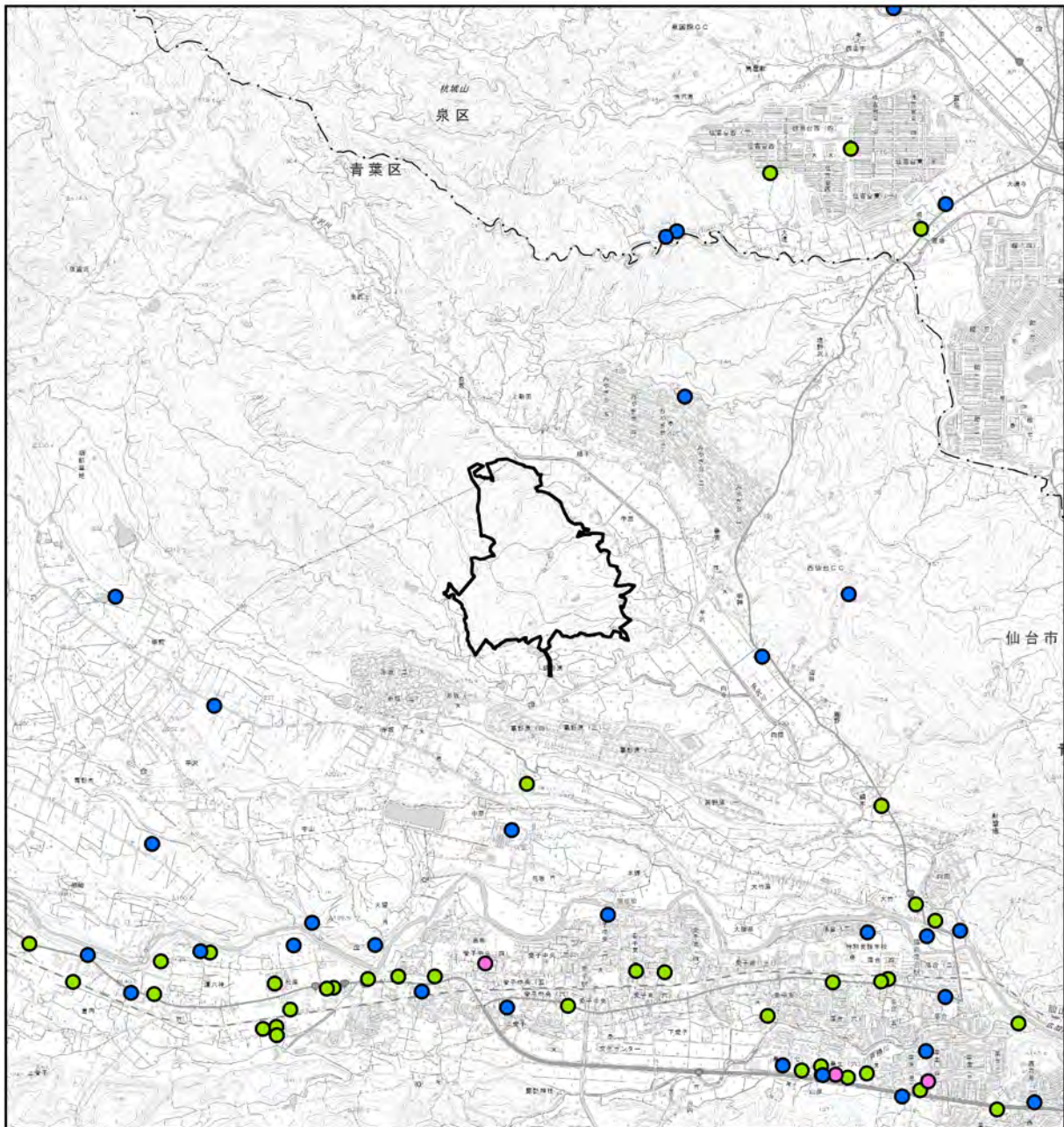


表 3.1-44 水質汚濁防止法及び下水道法に基づく特定施設の概要

特定 施設 番号	施設の種類	特定施設数	
		水質汚濁 防止法	下水道法
1の2	畜産農業又はサービス業	3	—
4	野菜又は果実を原料とする保存食料品製造業	1	—
8	パン若しくは菓子の製造業又は製あん業の用に供する粗製あんの沈でんそう	1	1
10	飲料製造業	1	1
17	豆腐又は煮豆の製造業の用に供する湯煮施設	2	—
19	紡績業又は繊維製品の製造業若しくは加工業	1	1
23の2	新聞業、出版業、印刷業又は製版業	4	4
27	前号以外の無機化学工業製品製造業	1	1
54	セメント製品製造業	2	—
55	生コンクリート製造業の用に供するバッチャープラント	3	1
64の2	水道施設（水道法（昭和32年法律第177号）第3条第8項に規定するものをいう）、工業用水道施設（工業用水道事業法（昭和33年法律第84号）第2条第6項に規定するものをいう）又は自家用工業用水道（同法第21条第1項に規定するものをいう）の施設のうち、浄水施設（浄水能力が10,000m <sup>3</sup> /日以上）	1	—
65	酸又はアルカリによる表面処理施設	4	3
66	電気めっき施設	1	1
66の3	旅館業（旅館業法（昭和23年法律第138号）第2条第1項に規定するもので下宿営業を除く）	6	—
67	洗たく業の用に供する洗浄施設	6	8
68	写真現像業の用に供する自動式フィルム現像洗浄施設	2	—
68の2	病院（医療法（昭和23年法律第205号）第1条の5第1項に規定するものをいう）で病床数が300以上であるもの	1	—
70の2	自動車分解整備事業（道路運送車両法（昭和26年法律第185号）第77条に規定するものをいう）の用に供する洗車施設（屋内作業場の総面積が800m <sup>2</sup> 未満のもの及び71に掲げるものを除く）	1	1
71	自動式車両洗浄施設	20	17
71の2	科学技術（人文科学のみに係るものを除く）に関する研究、試験、検査又は専門教育を行う事業場に設置されるそれらの業務の用に供する施設	4	3
72	し尿処理施設（建築基準法施行令第32条第1項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が500人以下のし尿浄化槽を除く）	2	—
74	特定事業場から排出される水（公共用水域に排出されるものを除く）の処理施設（72・73 <sup>※1</sup> 以外）	1	1
計		68	43

※1) 73：下水道終末処理施設

出典：「水質汚濁防止法に基づく特定事業場一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）

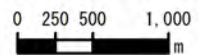


凡例

- 対象事業実施区域
- 市区町境界線
- 水質汚濁防止法に基づく特定施設
- 下水道法に基づく特定施設
- 水質汚濁防止法及び下水道法に基づく特定施設



1:50,000



出典：「水質汚濁防止法に基づく特定事業場一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）  
「下水道法に基づく特定事業場一覧」（仙台市、平成30年3月31日現在）

図 3.1-10 水質汚濁防止法及び下水道法に基づく特定施設の位置

#### ④ 影響を受ける施設等の状況

水質の影響を受ける施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に記載する。

## (2) 底質

### ① 底質の状況

対象事業実施区域周辺では、河川の底質の測定は行われていないが、広瀬川及び芋沢川においては、底質のダイオキシン類の測定が実施されている。

底質のダイオキシン類については、いずれの測定地点においても環境基準を達成する結果であった。

平成 28 年度の河川の底質測定結果を表 3.1-45 に、底質測定地点の位置を図 3.1-11 に示す。

表 3.1-45 河川の底質測定結果（ダイオキシン類：平成 28 年度）

区分	水系名	河川名	測定地点名	測定結果 [pg-TEQ/g]	環境基準 [pg-TEQ/g]
河川	名取川	広瀬川	鳴合橋	0.12	150 以下
		芋沢川	芋沢川最下流	0.20	

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

### ② 底質に係る苦情の状況

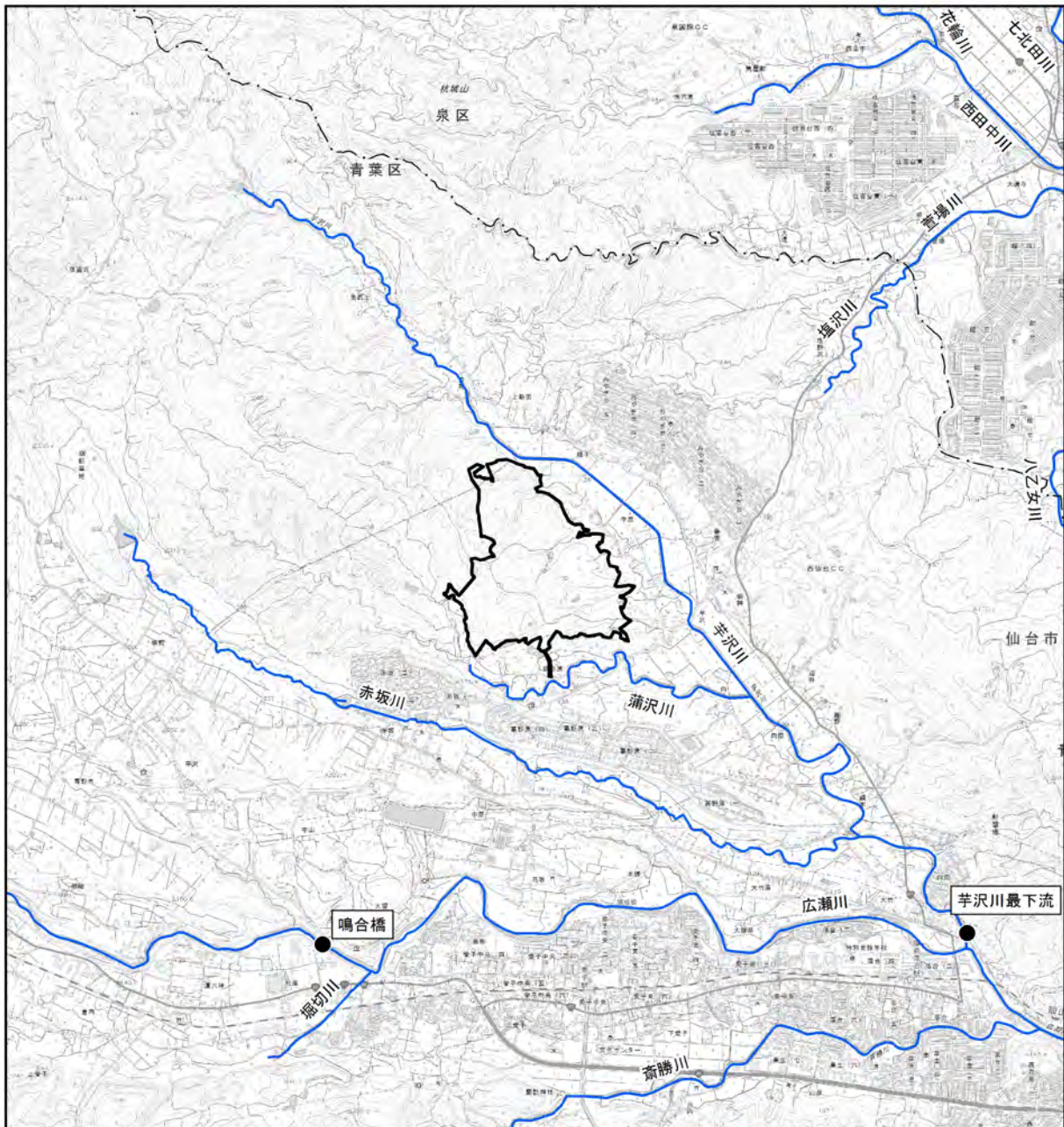
底質汚染は、水質汚濁等が原因の一つと考えられており、底質に係る苦情の状況については整理されていない。なお、関係地域における水質汚濁に係る苦情の状況については「3.1.2 (1) 水質」に掲載した。

### ③ 発生源の状況

底質汚染は、水質汚濁等が原因の一つと考えられており、底質に係る発生源の状況については整理されていない。なお、関係地域における水質汚濁に係る発生源の状況については「3.1.2 (1) 水質」に掲載した。

### ④ 影響を受ける施設等の状況

本事業の実施に当たっては、工事中及び供用時において、浚渫工事等は実施せず、底質の攪乱が無いことから、底質の影響を受ける施設は想定しない。



凡例

- 対象事業実施区域
- 市区町境界線
- 底質測定地点（ダイオキシン類のみ）
- 河川

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）  
 「国土数値情報 河川データ 第3.1版」  
 （国土交通省国土政策局国土情報課、平成29年7月閲覧）

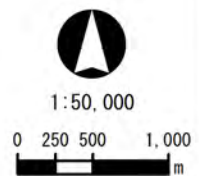


図 3.1-11 底質測定地点の位置

### (3) 地下水汚染

#### ① 地下水汚染の状況

仙台市では、地域の全体的な地下水汚染の概況を把握するための水質調査（以下「概況調査」とする）を実施している。また、この概況調査の結果を踏まえて、地下水汚染の継続的な監視を行うための継続監視調査を実施している。このほか、ダイオキシン類に関する地下水調査も実施しており、いずれの調査結果についても、二次メッシュ単位で結果を公表している。

対象事業実施区域周辺では、概況調査、継続監視調査及びダイオキシン類に関する地下水調査が行われている。

概況調査については、いずれの二次メッシュにおいても基準値又は指針値を下回る結果であった。継続監視調査については、青葉区では、環境基準項目である 1,2-ジクロロエチレン、テトラクロロエチレン、砒素が基準値を超過する結果であった。また、泉区では、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、砒素が基準値を超過する結果であった。ダイオキシン類に関する地下水調査については、いずれの二次メッシュにおいても環境基準を達成する結果であった。

地下水の概況調査結果を表 3.1-46 及び表 3.1-47 に、継続監視調査結果を表 3.1-48 に、ダイオキシン類に関する地下水調査結果を表 3.1-49 に示す。また、地下水調査地点の位置を図 3.1-12 に示す。

表 3.1-46(1) 地下水の概況調査結果（環境基準項目：平成 28 年度）

調査項目	区名/二次メッシュコード <sup>※1</sup> /調査日	単位	青葉区			基準値
			574035(a)	574035(b)	574036(c)	
			H28.10.31	H28.11.9	H28.11.8	
水温		℃	15.3	15.0	13.6	—
pH		—	6.4	6.9	6.8	—
環境 基準 項目	カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.003
	全シアン	mg/L	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	検出されないこと
	鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01
	六価クロム	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	0.05
	砒素	mg/L	<0.005	0.005	0.005	0.01
	総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005
	アルキル水銀	mg/L	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	検出されないこと
	P C B	mg/L	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
	塩化ビニルモノマー	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.1
	1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006
	トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01
	テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
	チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006
	シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003
	チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	2.8	0.41	1.4	10	
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	0.09	0.8	
ほう素	mg/L	0.02	0.04	<0.02	1	
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05	

※1) 対象事業実施区域及びその周辺に該当する二次メッシュコードを抽出し、記載した。なお、区名、二次メッシュコード、調査日だけでは区別ができない測定値があるため、(a)～(i)の識別番号を付加した。

※2) 「ND」は定量下限値未満の値を示す。

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

表 3.1-46(2) 地下水の概況調査結果（環境基準項目：平成 28 年度）

調査項目	区名/二次メッシュコード <sup>※1</sup> /調査日	単位	泉区			基準値
			574036(d)	574036(e)	574036(f)	
			H28.10.24	H28.11.9	H28.11.9	
水温		℃	13.7	13.5	16.1	—
pH		—	7.2	9.0	6.6	—
環境 基準 項目	カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.003
	全シアン	mg/L	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	検出されないこと
	鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01
	六価クロム	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	0.05
	砒素	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01
	総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005
	アルキル水銀	mg/L	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	検出されないこと
	PCB	mg/L	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
	塩化ビニルモノマー	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.1
	1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006
	トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01
	テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
	チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006
	シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003
	チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.045	<0.015	0.62	10	
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	<0.08	0.8	
ほう素	mg/L	0.02	0.10	0.02	1	
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05	

※1) 対象事業実施区域及びその周辺に該当する二次メッシュコードを抽出し、記載した。なお、区名、二次メッシュコード、調査日だけでは区別ができない測定値があるため、(a)～(i)の識別番号を付加した。

※2) 「ND」は定量下限値未満の値を示す。

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）



表 3.1-46(3) 地下水の概況調査結果（環境基準項目：平成 28 年度）

調査項目	区名/二次メッシュコード <sup>※1</sup> /調査日	単位	泉区			基準値
			574046(g)	574046(h)	574046(i)	
			H28.10.24	H28.10.24	H28.10.24	
水温		℃	15.6	17.3	17.0	—
pH		—	6.7	6.2	7.1	—
環境 基準 項目	カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.003
	全シアン	mg/L	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	検出されないこと
	鉛	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.01
	六価クロム	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	0.05
	砒素	mg/L	<0.005	<0.005	0.006	0.01
	総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.0005
	アルキル水銀	mg/L	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	検出されないこと
	PCB	mg/L	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	ND <sup>※2</sup>	検出されないこと
	ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
	塩化ビニルモノマー	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
	1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.004
	1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.1
	1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	0.04
	1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	1
	1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006
	トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01
	テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.01
	1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002
	チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006
	シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003
	チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
	ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	0.01
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	0.01	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.29	7.0	1.1	10	
ふっ素	mg/L	<0.08	<0.08	0.10	0.8	
ほう素	mg/L	0.02	0.03	0.03	1	
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	0.05	

※1) 対象事業実施区域及びその周辺に該当する二次メッシュコードを抽出し、記載した。なお、区名、二次メッシュコード、調査日だけでは区別ができない測定値があるため、(a)～(i)の識別番号を付加した。

※2) 「ND」は定量下限値未満の値を示す。

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

表 3.1-47 地下水の概況調査結果（要監視項目：平成 28 年度）

調査項目	区名/二次メッシュコード <sup>※1</sup> /調査日	単位	青葉区		泉区		指針値
			574035 (b)	574036 (c)	574036 (e)	574036 (f)	
			H28. 11. 9	H28. 11. 8	H28. 11. 9	H28. 11. 9	
要 監 視 項 目	クロロホルム	mg/L	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06
	1,2-ジクロロプロパン	mg/L	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06
	p-ジクロロベンゼン	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.2
	イソキサチオン	mg/L	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	0.008
	ダイアジノン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.005
	フェニトロチオン (MEP)	mg/L	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	0.003
	イソプロチオラン	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04
	オキシ銅 (有機銅)	mg/L	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004	0.04
	クロロタロニル (TPN)	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05
	プロピザミド	mg/L	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	0.008
	E P N	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.006
	ジクロロボス (DDVP)	mg/L	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	0.008
	フェノブカルブ (BPMC)	mg/L	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	0.03
	イプロベンホス (IBP)	mg/L	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008	0.008
	クロロニトロフェン (CNP)	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	—
	トルエン	mg/L	<0.06	<0.06	<0.06	<0.06	0.6
	キシレン	mg/L	<0.04	<0.04	<0.04	<0.04	0.4
	フタル酸ジエチルヘキシル	mg/L	<0.006	<0.006	<0.006	<0.006	0.06
	ニッケル	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	—
	モリブデン	mg/L	<0.007	<0.007	<0.007	<0.007	0.07
	アンチモン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02
エピクロロヒドリン	mg/L	<0.00004	<0.00004	<0.00004	<0.00004	0.0004	
全マンガン	mg/L	<0.02	<0.02	<0.02	<0.02	0.2	
ウラン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.002	

※1) 対象事業実施区域及びその周辺に該当する二次メッシュコードを抽出し、記載した。なお、区名、二次メッシュコード、調査日だけでは区別ができない測定値があるため、(a)～(i)の識別番号を付加した。

出典：「公害関係資料集（平成 28 年度測定結果）」（仙台市、平成 29 年）

表 3.1-48(1) 地下水の継続監視調査結果

調査項目	区名/二次メッシュコード <sup>※1</sup> /調査日	単位	青葉区				泉区	基準値
			574036 (A)	574036 (B)	574036 (C)	574036 (D)	574036 (E)	
			H28.7.19	H28.7.19	H28.7.22	H28.7.22	H28.7.20	
水温		℃	14.4	15.2	15.4	14.6	16.5	—
pH		—	6.4	6.4	6.4	6.7	6.2	—
塩化ビニルモノマー		mg/L	<0.0002	<0.0002	—	—	—	0.002
1,2-ジクロロエタン		mg/L	<0.0004	<0.0004	—	—	—	0.004
1,1-ジクロロエチレン		mg/L	<0.002	<0.002	—	—	—	0.1
1,2-ジクロロエチレン		mg/L	<0.004	0.072	—	—	—	0.04
1,1,1-トリクロロエタン		mg/L	<0.0005	<0.0005	—	—	—	1
1,1,2-トリクロロエタン		mg/L	<0.0006	<0.0006	—	—	—	0.006
トリクロロエチレン		mg/L	<0.001	0.010	—	—	—	0.01
テトラクロロエチレン		mg/L	0.001	0.14	—	—	—	0.01
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素		mg/L	—	—	9.5	—	20	10
亜硝酸性窒素		mg/L	—	—	<0.005	—	<0.005	—
砒素		mg/L	—	—	—	0.014	—	0.01

※1) 調査地域に該当する二次メッシュコードを抽出し、記載した。なお、区名、二次メッシュコード、調査日だけでは区別ができない測定値があるため、(A)～(J)の識別番号を付加した。また、「—」は継続監視調査の対象ではない項目を示す。

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

表 3.1-48(2) 地下水の継続監視調査結果

調査項目	区名/二次メッシュコード <sup>※1</sup> /調査日	単位	泉区					基準値
			574036 (F)	574036 (G)	574036 (H)	574036 (I)	574046 (J)	
			H28.7.20	H28.7.20	H28.7.28	H28.7.20	H28.7.20	
水温		℃	14.5	16.2	15.4	17.4	18.0	—
pH		—	6.6	6.4	6.7	9.0	7.4	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素		mg/L	5.9	12	10	—	—	10
亜硝酸性窒素		mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	—	—	—
砒素		mg/L	—	—	—	0.018	0.014	0.01

※1) 調査地域に該当する二次メッシュコードを抽出し、記載した。なお、区名、二次メッシュコード、調査日だけでは区別ができない測定値があるため、(A)～(J)の識別番号を付加した。また、「—」は継続監視調査の対象ではない項目を示す。

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

表 3.1-49 ダイオキシン類に関する地下水調査結果

調査項目	区名/二次メッシュコード <sup>※1</sup> /調査日	単位	青葉区	泉区	基準値
			574035	574036	
			H28.11.9	H28.11.9	
ダイオキシン類(年平均値)		pg-TEQ/L	0.013	0.015	1以下

※1) 調査地域に該当する二次メッシュコードを抽出し、記載した。

出典：「公害関係資料集（平成28年度測定結果）」（仙台市、平成29年）

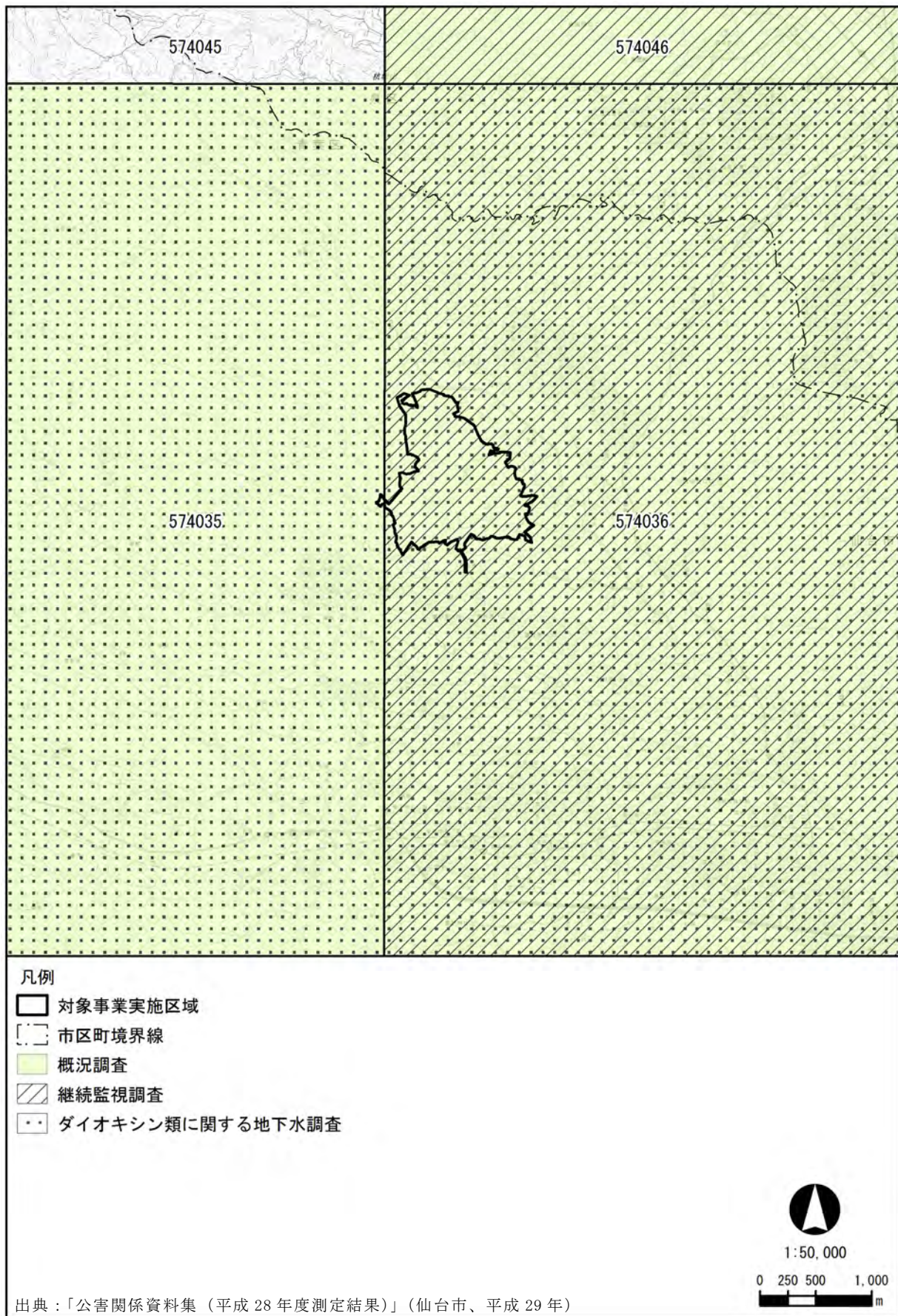


図 3.1-12 地下水の調査地点位置

## ② 地下水汚染に係る苦情の状況

地下水汚染は、水質汚濁や土壌汚染等が原因の一つと考えられており、地下水に係る苦情の状況については整理されていない。なお、関係地域における水質汚濁に係る苦情の状況については「3.1.2 (1) 水質」に、土壌汚染に係る苦情の状況については「3.1.3 (3) 土壌汚染」に掲載している。

## ③ 発生源の状況

地下水汚染は、水質汚濁や土壌汚染等が原因の一つと考えられており、地下水に係る発生源の状況については整理されていない。なお、関係地域における水質汚濁に係る発生源の状況については「3.1.2 (1) 水質」に、土壌汚染に係る発生源の状況については「3.1.3 (3) 土壌汚染」に掲載している。

## ④ 影響を受ける施設等の状況

本事業の実施に当たっては、工事中及び供用時において、地下水汚染を発生させる工種又は建築物の計画が無いことから、地下水汚染の影響を受ける施設は想定しない。

#### (4) 水象

##### ① 河川・湖沼

調査範囲には、主な河川として、名取川水系の一级河川である広瀬川、斎勝川及び芋沢川が流れている。対象事業実施区域の北東には、七北田川水系の二级河川である七北田川、八乙女川、萱場川及び西田中川が流れている。このほか、赤坂川、蒲沢川、堀切川、塩沢川及び花輪川といった準用河川も流れている。なお、対象事業実施区域に主な河川は存在しないが、対象事業実施区域の周囲では、対象事業実施区域の東に芋沢川、南に名取川水系の蒲沢川が流れている。

なお、調査範囲及び対象事業実施区域周辺には小規模なため池が存在する（図 3.1-14 参照）。

調査範囲における主な河川を表 3.1-50 及び図 3.1-13 に示す。

表 3.1-50(1) 調査範囲における主な河川（一级河川、二级河川）

種別	水系名	河川名	総延長(m)	仙台市域分(m)
一级河川	名取川水系	広瀬川	40,035	40,035
		斎勝川	7,409	7,409
		芋沢川	8,000	8,000
二级河川	七北田川水系	七北田川	40,899	40,899
		八乙女川	2,700	2,700
		萱場川	3,300	3,300
		西田中川	3,400	3,400

出典：「みやぎの河川・ダム・海岸 宮城県河川・海岸図」（宮城県土木部河川課、平成 29 年 3 月）  
「仙台の河川」（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）

表 3.1-50(2) 調査範囲における主な河川（準用河川）

種別	水系名	河川名	総延長(m)
準用河川	名取川水系	赤坂川	7,800
		蒲沢川	3,400
		堀切川	2,315
	七北田川水系	塩沢川	2,010
		花輪川	2,780

出典：「みやぎの河川・ダム・海岸 宮城県河川・海岸図」（宮城県土木部河川課、平成 29 年 3 月）  
「仙台の河川」（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）

##### ② 水源地

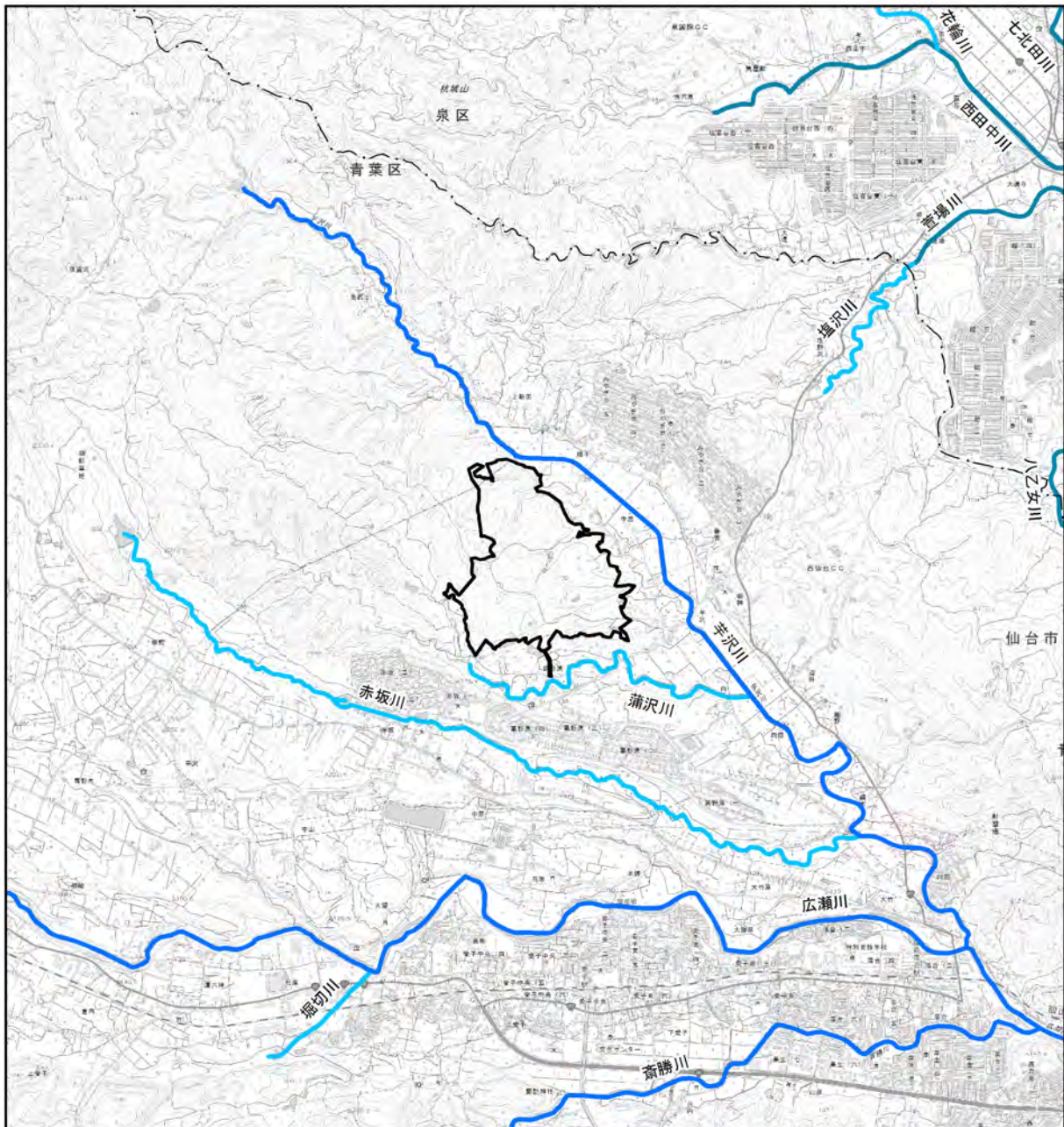
調査範囲には、上水道関連施設として、対象事業実施区域の南側に中原浄水場、東側に芋沢配水所及び黒森山配水所が存在する。なお、中原浄水場は、大倉ダム放流水、大倉川表流水及び青下ダム貯留水を水源流域とする。

また、農業用施設として、対象事業実施区域西側に青野木揚水機場があるほか、芋沢川には 2 箇所の水堰が存在する。


調査範囲における水源地の状況を図 3.1-15 に示す。

##### ③ 湧水

調査範囲及び対象事業実施区域に湧水は存在しない。



凡例

- |   |          |   |              |
|---|----------|---|--------------|
|  | 対象事業実施区域 |  | 一級河川 (県管理区間) |
|  | 市区町境界線   |  | 二級河川 (県管理区間) |
|   |          |  | 準用河川 (市管理)   |

出典：「国土数値情報 河川データ 第3.1版」  
 (国土交通省国土政策局国土情報課、平成29年7月閲覧)  
 「宮城県河川・海岸図」(宮城県土木部河川課、平成29年3月)

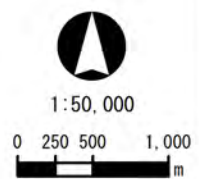
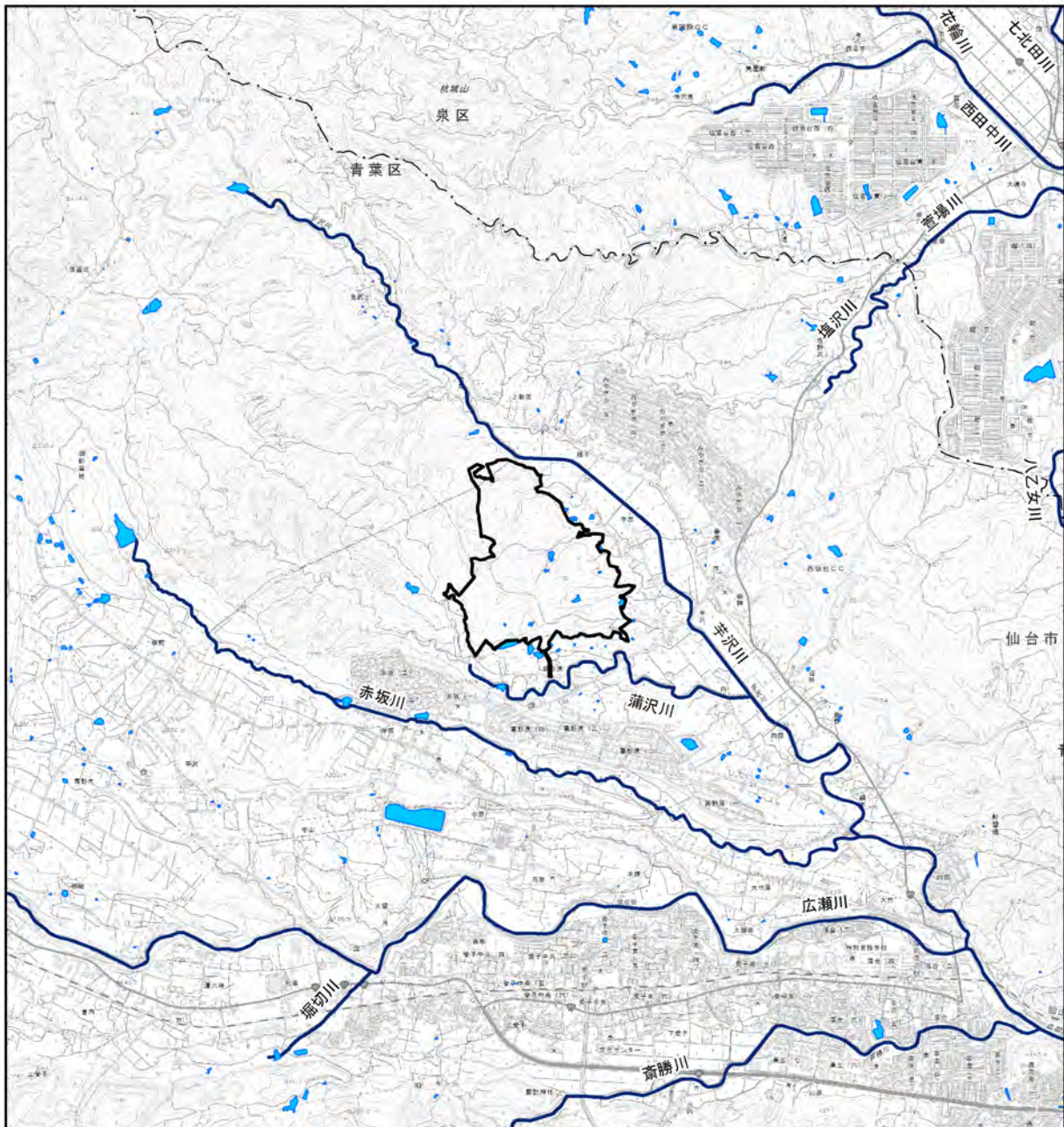
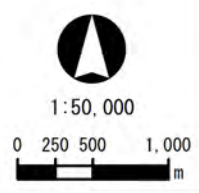


図 3.1-13 主な河川の状況



凡例

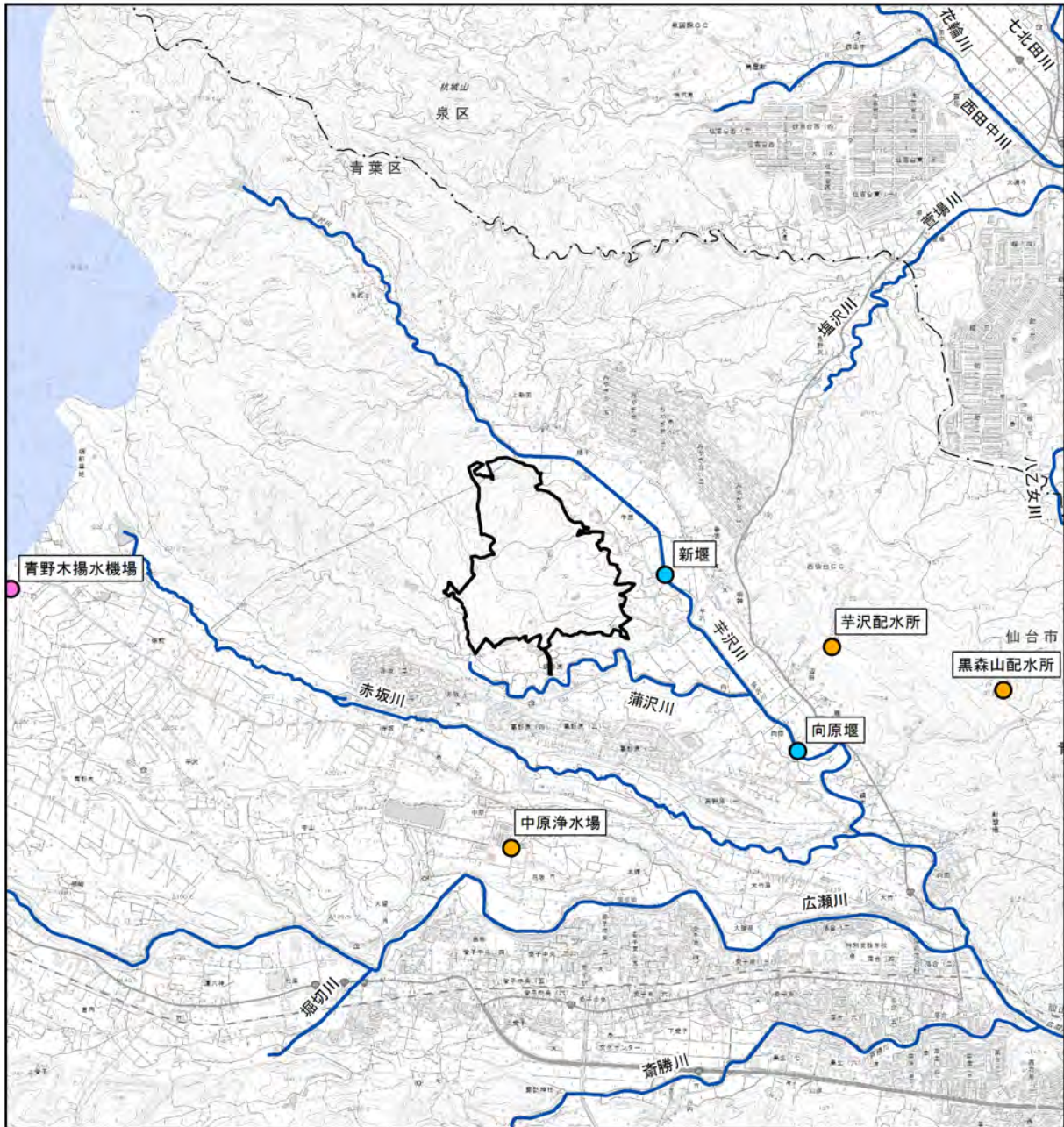
- 対象事業実施区域
- ため池（既存）
- 市区町境界線
- 河川



出典：「基盤地図情報」（国土交通省国土地理院、平成 30 年 5 月閲覧）

図 3.1-14 ため池の状況





凡例

- 対象事業実施区域
- 市区町境界線
- 河川
- 上水道関連施設
- 揚水機場
- 堰
- 水道水源流域

出典：「国土数値情報 上水道関連施設データ 第1.1版」  
 (国土交通省国土政策局国土情報課、平成29年7月閲覧)  
 「平成27年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市、平成28年3月)」

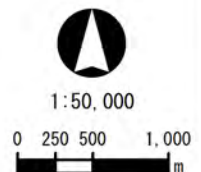


図 3.1-15 水源地の状況

#### ④ 影響を受ける施設等の状況

水象の影響を受ける施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に記載する。

### 3.1.3 土壤環境

#### (1) 地形・地質

##### ① 地形

対象事業実施区域及びその周囲の地形は、広瀬川及び萱場川沿いに扇状地性低地が分布する。また、河川沿いに下位から高位の砂礫台地が発達し、その周囲に大起伏丘陵地及び小起伏丘陵地が広がる。

対象事業実施区域の地形は、対象事業実施区域北東側に中位の砂礫台地、南西側に小起伏丘陵地が分布する。

対象事業実施区域及びその周囲における地形分類図を図 3.1-16 に示す。

##### ② 地質




対象事業実施区域及びその周囲の表層地質は、砂・礫から成る河岸段丘堆積物や砂岩で構成されるほか、東側に集塊岩凝灰角礫岩、西側に火山性の凝灰岩泥岩互層及びローム、河川沿い等に泥岩や泥・砂・礫から成る沖積堆積物が分布する。対象事業実施区域の表層地質は、河岸段丘堆積物、砂岩及び凝灰岩質岩石で構成される。

対象事業実施区域及びその周囲の土壤は、河川沿いの低地に黒ボク土壤が広く分布し、丘陵地に褐色森林土壤が分布するほか、一部に灰色低地土壤やグライ土壤がみられる。対象事業実施区域の土壤は、褐色森林土壤が大部分を占め、北東側に黒ボク土壤が分布する。

調査範囲における表層地質図を図 3.1-17 に、土壤分類図を図 3.1-18 に示す。

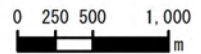


凡例

- |   |          |   |               |
|---|----------|---|---------------|
|  | 対象事業実施区域 |  | 丘陵地，大起伏丘陵地    |
|  | 市区町境界線   |  | 丘陵地，小起伏丘陵地    |
|   |          |  | 台地段丘，砂礫台地（上位） |
|   |          |  | 台地段丘，砂礫台地（中位） |
|   |          |  | 台地段丘，砂礫台地（下位） |
|   |          |  | 低地，扇状地性低地     |

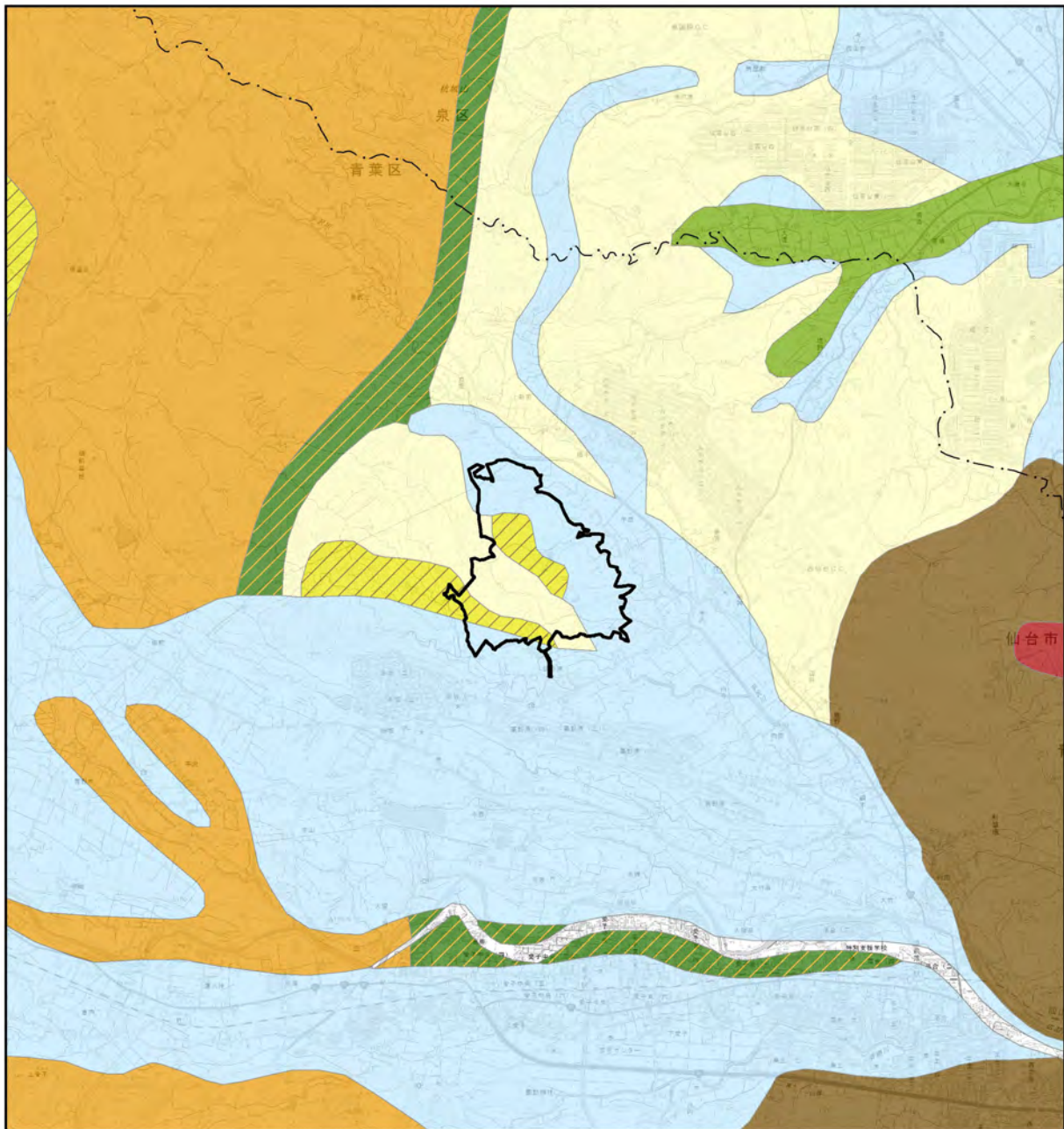


1:50,000



出典：「20万分の1土地分類基本調査 地形分類図」  
 （国土交通省国土政策局国土情報課、平成29年7月閲覧）

図 3.1-16 地形分類図

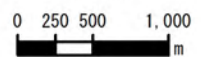


凡例

- |  |          |  |                    |
|--|----------|--|--------------------|
|  | 対象事業実施区域 |  | 火山性, ローム           |
|  | 市区町境界線   |  | 火山性, 集塊岩凝灰角礫岩      |
|  |          |  | 火山性, 凝灰岩質岩石        |
|  |          |  | 半固結～固結, 凝灰岩泥岩互層    |
|  |          |  | 半固結～固結, 泥岩         |
|  |          |  | 半固結～固結, 砂岩         |
|  |          |  | 未固結, 泥・砂・礫 (沖積堆積物) |
|  |          |  | 未固結, 砂・礫 (河岸段丘堆積物) |



1:50,000



出典：「20万分の1土地分類基本調査 表層地質図」  
 (国土交通省国土政策局国土情報課、平成29年7月閲覧)

図 3.1-17 表層地質図



凡例

- |          |                |          |
|----------|----------------|----------|
| 対象事業実施区域 | 乾性褐色森林土壌（赤褐色系） | 黒ボク土壌    |
| 市区町境界線   | 褐色森林土壌（赤褐色系）   | 多湿黒ボク土壌  |
|          | 褐色森林土壌（黄褐色系）   | 粗粒灰色低地土壌 |
|          | 湿性褐色森林土壌       | 細粒灰色低地土壌 |
|          | 赤色土壌           | 灰色低地土壌   |
|          | 黄色土壌           | 細粒グライ土壌  |
|          | 粗粒黒ボク土壌        | グライ土壌    |
|          | 厚層黒ボク土壌        | 岩石地      |

出典：「20万分の1土地分類基本調査 土壌分類図」  
 （国土交通省国土政策局国土情報課、平成29年7月閲覧）

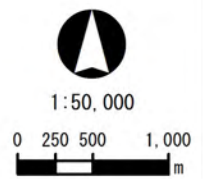


図 3.1-18 土壌分類図

### ③ 注目すべき地形・地質

調査範囲における注目すべき地形・地質として、対象事業実施区域の東に位置する権現森緑地環境保全地域の丘陵地形、対象事業実施区域の南に位置する蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域の湖沼景観が存在する。また、対象事業実施区域及びその周囲には、活断層地形及び河岸段丘及び段丘崖が存在する。

なお、対象事業実施区域には、注目すべき地形・地質のうち、活断層地形「愛子」の一部が含まれる。

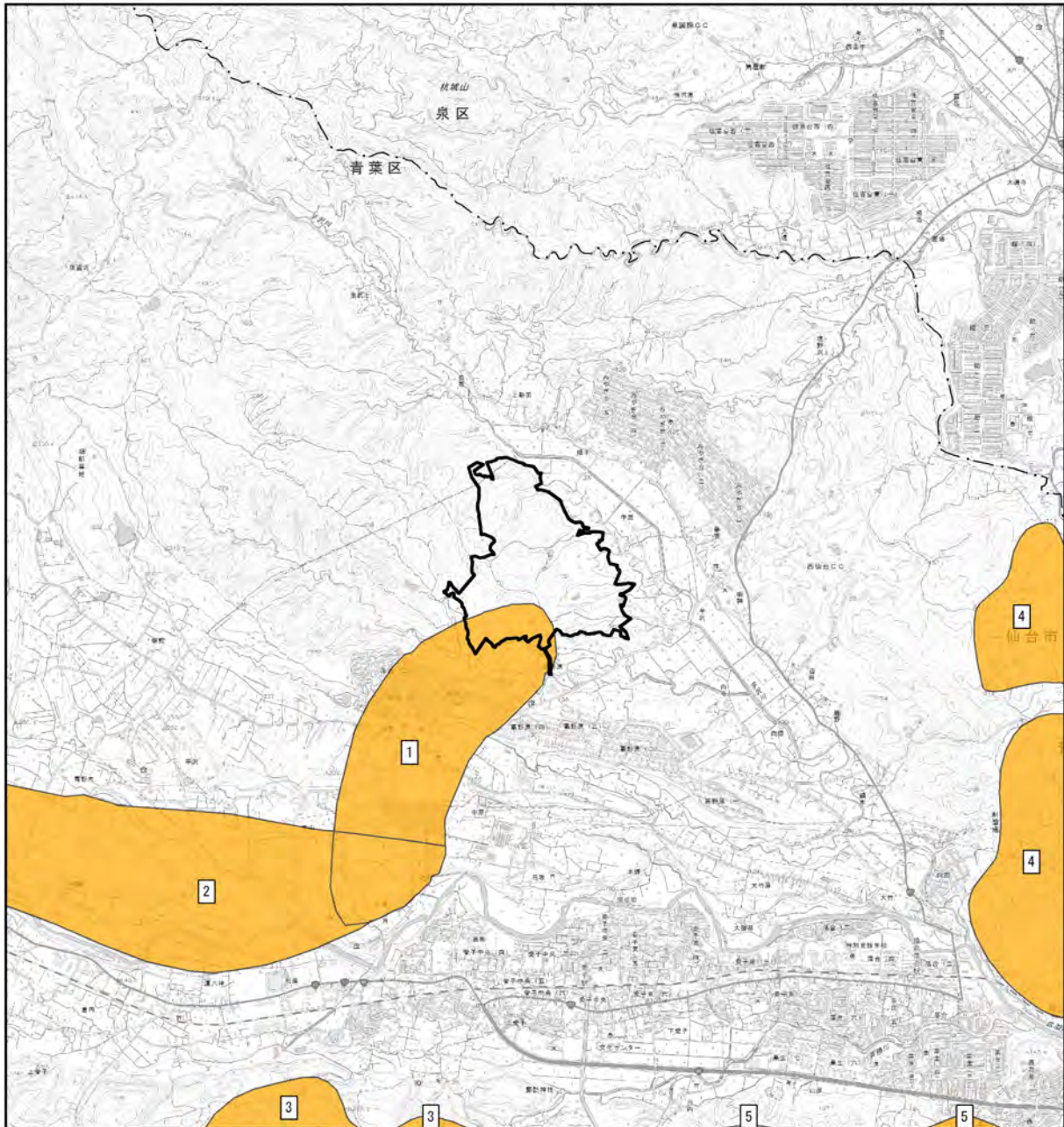
注目すべき地形・地質に係る収集文献一覧を表 3.1-51 に、資料調査で確認した注目すべき地形・地質を表 3.1-52 及び図 3.1-19 に示す。

表 3.1-51 収集文献一覧（地形・地質）

文献番号	文献名	備考
①	日本の典型地形 都道府県別一覧 国土地理院技術資料 D1-No. 357 (国土地理院、平成 11 年)	—
②	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域、権現森緑地環境保全地域学術調査報告書 (宮城県、昭和 63 年)	範囲は、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市、平成 29 年 3 月)を参考とした。
③	平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 (仙台市、平成 29 年 3 月)	学術上重要な地形・地質・自然現象

表 3.1-52 注目すべき地形・地質

図中番号	名称	選定理由	概要	文献番号
1	愛子	活断層地形	NS 方向に断層崖及び地塁状の高まりを伴う長さ約 2km、活動度 B で、平均変位速度 0.4m/1000 年である。	① ③
2	愛子盆地の広瀬川左岸一帯	河岸段丘及び段丘崖	広瀬川・大倉川流域の典型的な河岸段丘及び段丘崖として選定。	① ③
3	月山池・サイカチ沼	丘陵地内の湖沼景観	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。農業用溜池としてつくられた人工湖であるが、右岸側に自然がよく保たれており、左岸からの対岸景にすぐれる。周辺の丘陵地は改変が比較的容易な地形のため、人工改変地の無秩序な連続の防止と水・土砂の流出のコントロールの面からも重要である。	② ③
4	権現森	自然状態をとどめる丘陵地形	権現森緑地環境保全地域。起伏が大きく、硬質の岩石から成る丘陵地形。市街地の無秩序な広がりを防止し、仙台の景観構成の自然のアクセントとなっている。南端には、層理の発達した露岩の岩傘がある。	② ③
5	蕃山丘陵	丘陵地形の典型例で学術上重要、かつ動植物の重要な生育地	蕃山・斎勝沼県緑地環境保全地域。新第三紀火山岩類から成る典型的な丘陵地形。植生景観や各種動物生息地としても重要で、市街地に隣接して優れた自然地形を保持している地域である。	② ③

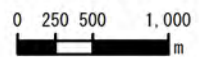


凡例

- 対象事業実施区域
- 注目すべき地形・地質
- 市区町境界線



1:50,000



出典：「日本の典型地形、都道府県別一覧」（国土地理院、平成 11 年）  
 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年 3 月）」

図 3.1-19 注目すべき地形・地質の状況



#### ④ 地下資源

仙台市内の丘陵地では、第2次世界大戦の終戦前後を最盛期として、亜炭の採掘が行われていた。亜炭層の層厚は0.5～1mであり、新第三紀鮮新世の地層である仙台層群に属する亀岡層、向山層、大年寺層中に含まれている。

亜炭鉱山は、八木山、大年寺山、二ツ沢、芦の口、青葉山、亀岡、三居沢、荒巻方面や、根白石、愛子地区芋沢川流域の丘陵地帯等に数多く点在していたといわれるが、現在ではいずれの炭鉱も稼行していない。

#### ⑤ 災害防止に関する指定地域等の状況等

##### a. 砂防指定地等

対象事業実施区域には、砂防法（明治30年、法律第29号）に基づく砂防指定地、地すべり等防止法（昭和33年、法律第30号）に基づく地すべり防止区域及び急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律（昭和44年、法律第57号）に基づく急傾斜地崩壊危険区域の指定はない。

調査範囲には、砂防指定地（聖沢、夜盗沢、水浅川、芋沢川、赤坂川、大堀沢）及び急傾斜地崩壊危険区域（39向田の1）が存在する。

調査範囲における砂防指定地等の指定状況を図3.1-20に示す。

##### b. 土砂災害警戒区域等

対象事業実施区域には、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律（平成12年、法律第57号）に基づく土砂災害警戒区域又は土砂災害特別警戒区域の指定はない。

調査範囲には、土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊：芋沢新田、みやぎ台一丁目、要害等、10箇所、土石流：長坂沢、板橋沢1、板橋沢2等、28箇所）又は土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊：芋沢新田、みやぎ台一丁目、要害等、10箇所、土石流：長坂沢、板橋沢1、板橋沢2等、22箇所）が存在する。

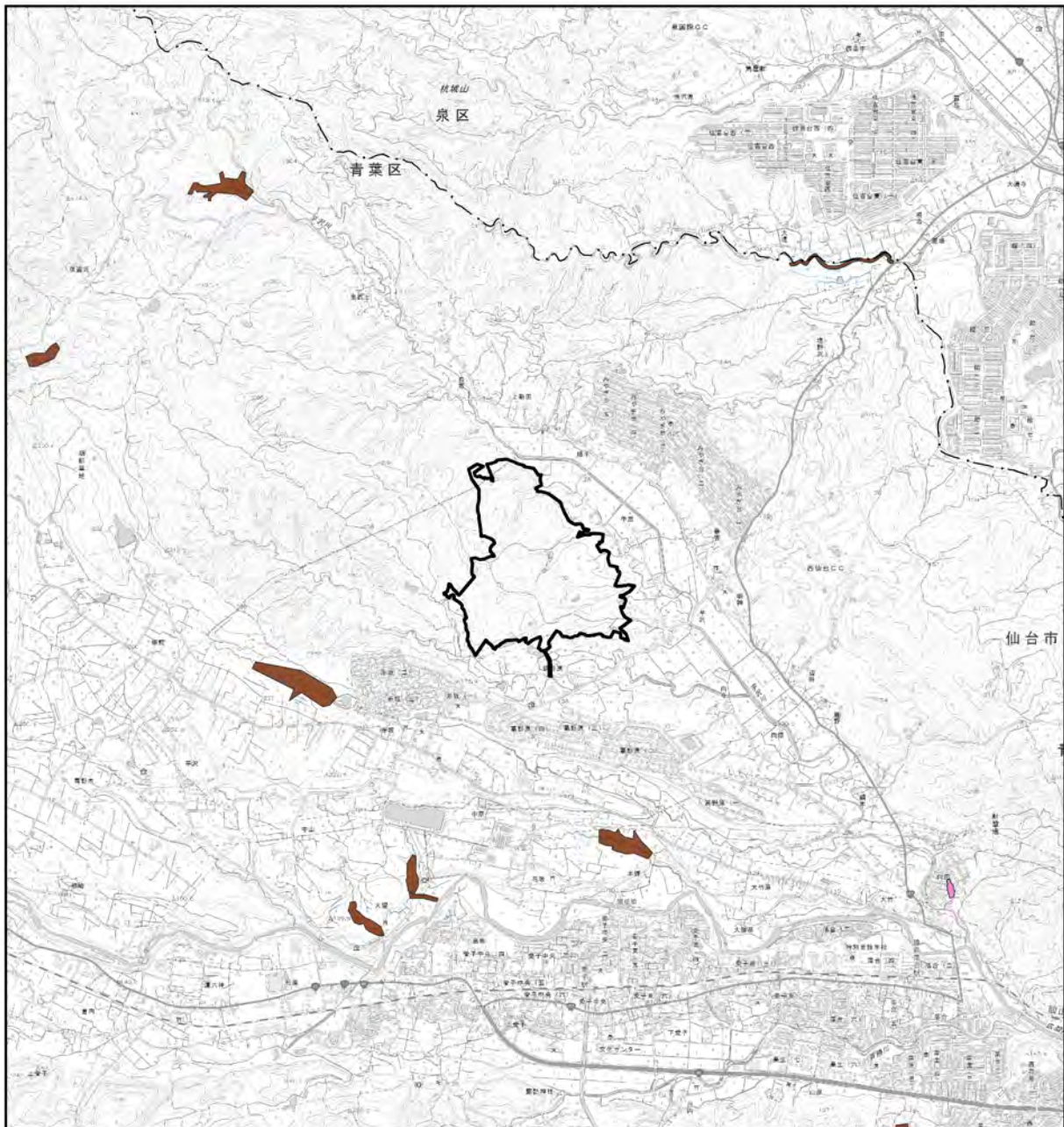
調査範囲における土砂災害警戒区域等の指定状況を図3.1-21に示す。

##### c. 土砂災害危険箇所

土砂災害危険箇所とは、国土交通省の調査・点検要領に基づき、土砂災害の危険性のある箇所を抽出したものである。

対象事業実施区域には、土砂災害危険箇所は存在しないが、調査範囲には、土砂災害危険箇所（土石流危険区域、土石流危険溪流、急傾斜地崩壊危険箇所）が存在する。

調査範囲における土砂災害危険箇所の状況を図3.1-22に示す。

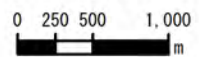


凡例

- 対象事業実施区域
- 砂防指定地
- 市区町境界線
- 急傾斜地崩壊危険区域

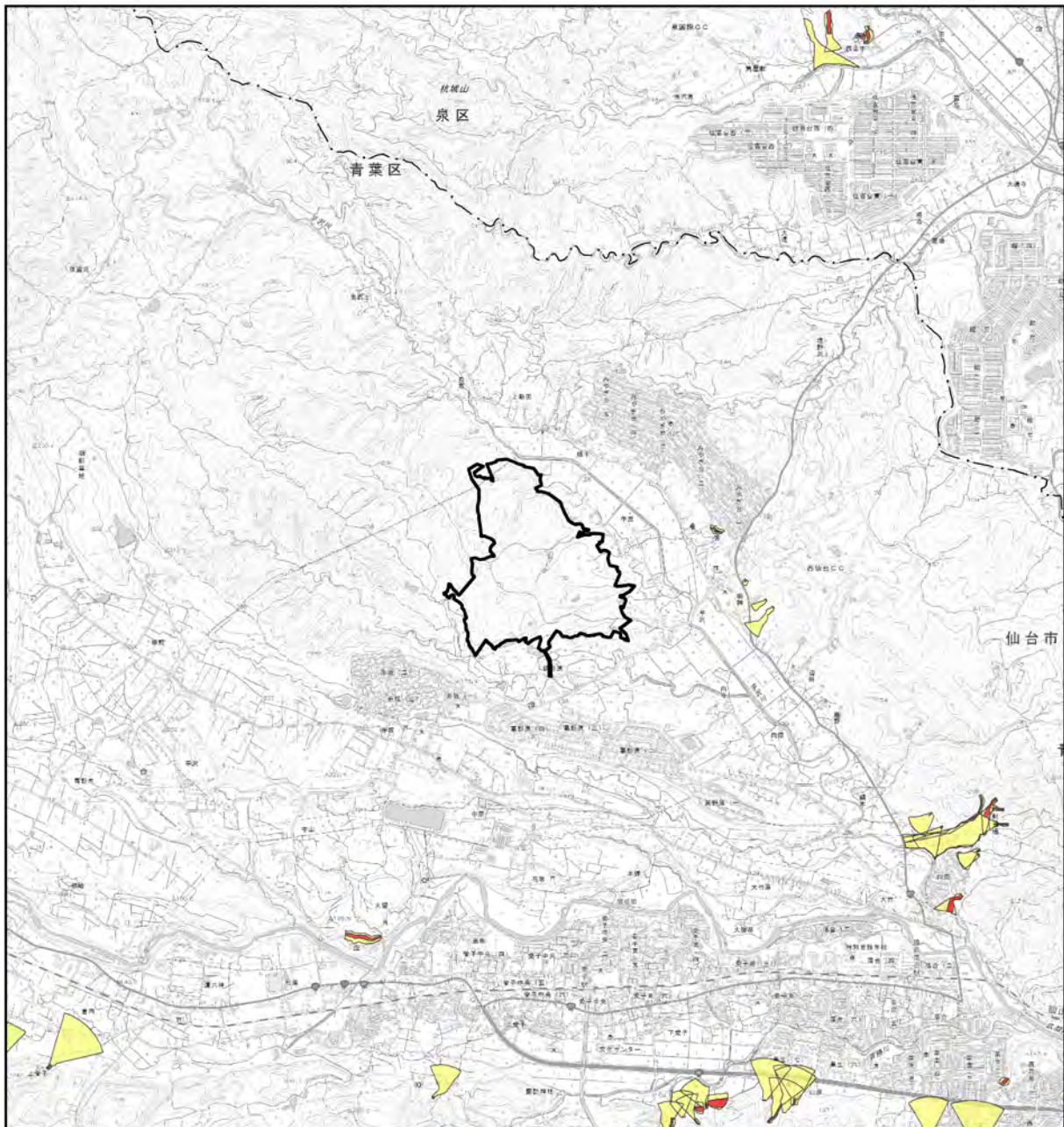


1:50,000



出典：「せんだいくらしのマップ」（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）

図 3.1-20 砂防指定地等の指定状況

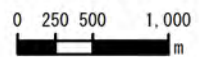


凡例

- |   |          |   |            |
|---|----------|---|------------|
|  | 対象事業実施区域 |  | 土砂災害警戒区域   |
|  | 市区町境界線   |  | 土砂災害特別警戒区域 |

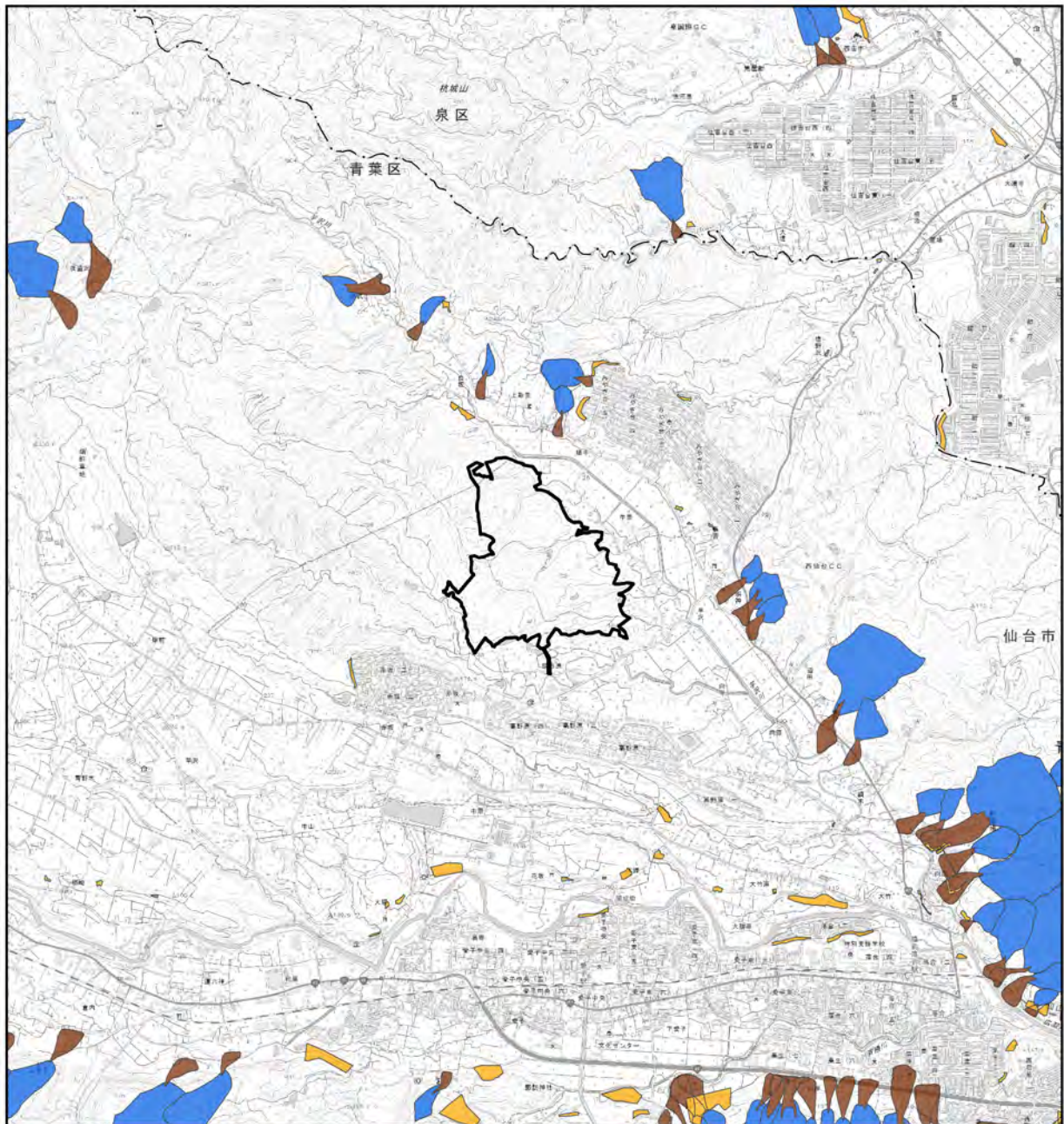


1:50,000



出典：「国土数値情報 土砂災害警戒区域データ 第1.3版」  
 (国土交通省国土政策局国土情報課、平成29年7月閲覧)

図 3.1-21 土砂災害警戒区域等の指定状況



- 凡例
- 対象事業実施区域
  - 土石流危険区域
  - 市区町境界線
  - 土石流危険溪流
  - 急傾斜地崩壊危険箇所

出典：「宮城県土砂災害危険箇所図」（宮城県 HP、平成 29 年 7 月閲覧）  
「土砂災害警戒区域等確認マップ」  
（宮城県砂防総合情報システム MDSKI、平成 29 年 7 月閲覧）

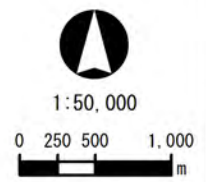


図 3.1-22 土砂災害危険箇所の状況

## ⑥ 災害履歴の状況

調査範囲において近年観測された主な災害を表 3.1-53 に示す。

表 3.1-53 主な災害

発生年	発生日	災害名称
昭和 53 年	6 月 12 日	1978 年宮城県沖地震 <sup>※1</sup> (仙台市：震度 5)
昭和 61 年	8 月 4、5 日	台風 10 号及びこれから変わった低気圧による大雨
平成 6 年	9 月 22 日	停滞前線による大雨
平成 20 年	6 月 14 日	平成 20 年 (2008 年) 岩手・宮城内陸地震 <sup>※1</sup> (宮城野区・若林区：震度 5 強、青葉区・泉区：震度 5 弱)
平成 22 年	2 月 27 日	チリ中部沿岸を震源とする地震による津波 (仙台港：最大 1.1m)
平成 23 年	3 月 11 日	平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震 <sup>※1</sup> (宮城野区：震度 6 強、青葉区・若林区・泉区：震度 6 弱)
平成 24 年	8 月 30 日	宮城県沖を震源とする地震 (宮城野区：震度 5 強、青葉区・若林区・泉区：震度 4)
平成 27 年	9 月 9 日～11 日	平成 27 年 9 月関東・東北豪雨 <sup>※1</sup>
平成 28 年	11 月 22 日	福島県沖を震源とする地震 (青葉区：震度 4、宮城野区・若林区・泉区：震度 3)

※1) 気象庁が命名した気象及び地震現象

出典：「仙台市が経験した過去の主な災害」(仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧)

## ⑦ 影響を受ける施設等の状況

地形・地質の影響を受ける施設としては、住宅、医療関係施設、教育関連施設等が考えられる。これらについては、「3.2.5 環境の保全等についての配慮が特に必要な施設等」に記載する。

## (2) 地盤沈下

### ① 地盤沈下の状況

宮城県内において地盤沈下の発生が認められるのは、仙台平野、石巻、古川、気仙沼等の地域である。このうち、最も沈下の著しい仙台平野地域については、工業用水法及び宮城県公害防止条例により地下水の揚水規制を行っており、過剰揚水の解消に努めているが、対象事業実施区域及びその周囲では、地盤沈下に係る報告はない。

### ② 地下水位の状況

宮城県内において地盤沈下の発生が認められるのは、仙台平野、石巻、古川、気仙沼等の地域である。このうち、最も沈下の著しい仙台平野地域については、工業用水法及び宮城県公害防止条例により地下水の揚水規制を行っており、過剰揚水の解消に努めているが、対象事業実施区域及びその周囲では、地下水位に係る測定は行われていない。

### ③ 地盤沈下に係る苦情の状況

仙台市における平成24年度～平成28年の地盤沈下に係る苦情件数は0件であった。

### ④ 影響を受ける施設等の状況

対象事業実施区域には、地盤沈下が生じるおそれのある軟弱地盤が確認されていないことから、地盤沈下の影響を受ける施設は想定しない。

### (3) 土壌汚染

#### ① 土壌汚染の状況

仙台市では、過去5年間（平成24年度～平成28年度）において、土壌中のダイオキシン類の測定が15地点で実施されている。このうち、対象事業実施区域周辺では、川前小学校及び栗生小学校の2地点で実施されている。

土壌のダイオキシン類については、いずれの測定地点においても環境基準を達成する結果であった。

土壌のダイオキシン類測定結果を表3.1-54に、測定地点の位置を図3.1-23に示す。

表 3.1-54 土壌のダイオキシン類測定結果

No.	調査区	調査地点	調査年度	測定結果 [pg-TEQ/g]	環境基準 [pg-TEQ/g]
1	仙台市青葉区	川前小学校	平成26年度	0.022	1,000以下
2		栗生小学校	平成25年度	0.020	

出典：「公害関係資料集（平成24年度～平成28年度測定結果）」（仙台市、平成24年～平成28年）

#### ② 土壌汚染対策法に基づく要措置区域等の状況

仙台市では、土壌汚染対策法に基づく要措置区域が7件、形質変更時要届出区域が16件指定されている。

対象事業実施区域周辺では、要措置区域及び形質変更時要届出区域はない。

表 3.1-55 土壌汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域の状況

区域区分	調査契機	特定有害物質の項目		
		特定有害物質の種類	溶出 <sup>※1</sup>	含有
要措置区域	第14条	砒素及びその化合物、ふっ素及びその化合物	7件	—
形質変更時 要届出区域	第3条	水銀及びその化合物、鉛及びその化合物、砒素及びその化合物、クロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン	2件	1件 <sup>※2</sup>
	第14条	鉛及びその化合物、砒素及びその化合物、ふっ素及びその化合物、ほう素及びその化合物、六価クロム化合物、水銀及びその化合物	13件 (3件)	1件
計	—	—	22件	2件

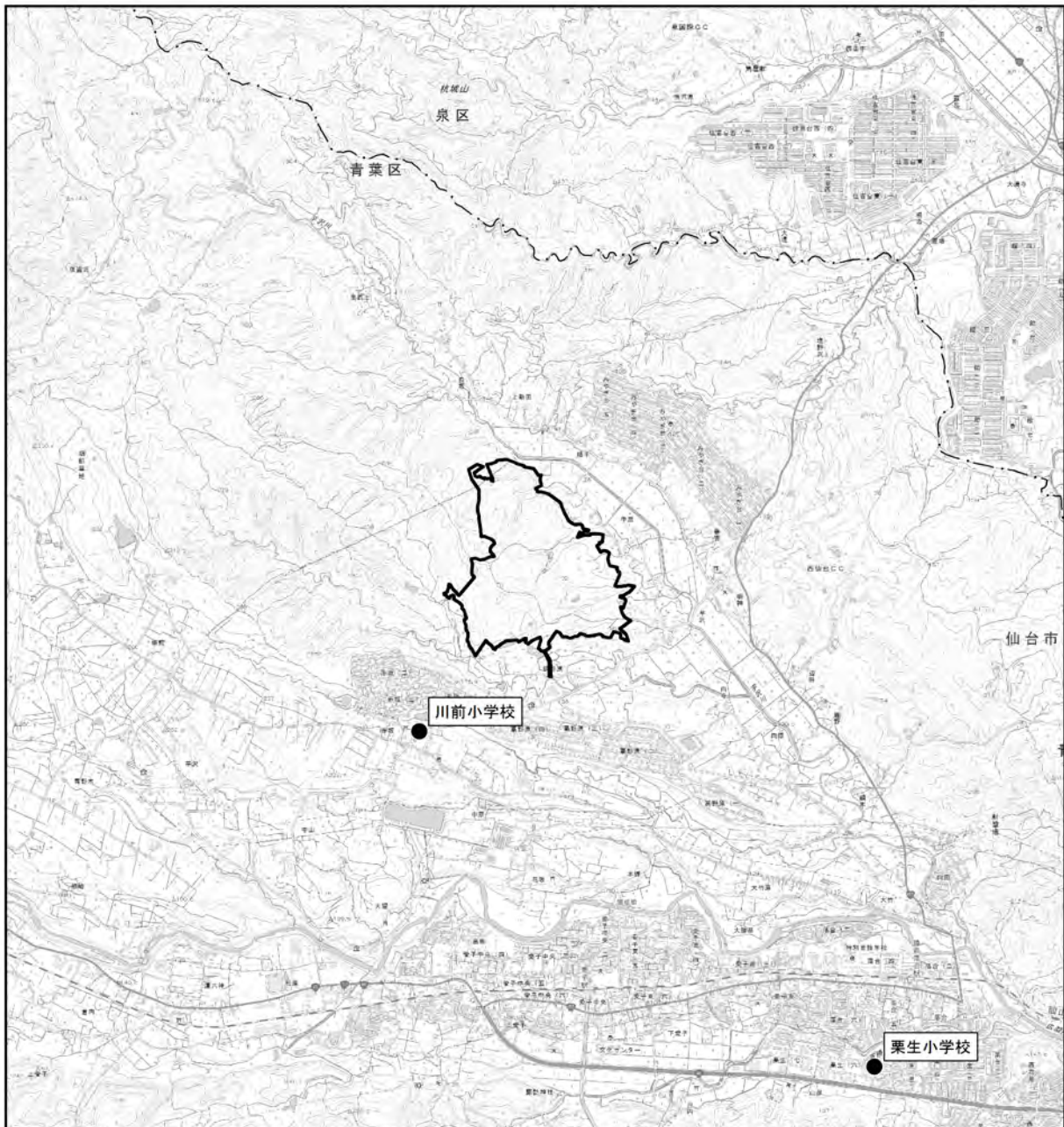
※1) ( )内の数値は、形質変更時要届出区域のうち、自然由来特例区域及び一部自然由来特例区域の件数を示す。

※2) 形質変更時要届出区域のうち、第3条に該当する含有1件は、溶出2件のうちの1件と重複して指定されている。

出典：「土壌汚染対策法に基づく要措置区域等一覧」（環境省、平成30年8月31日現在）

#### ③ 土壌汚染に関する苦情件数

仙台市における平成24年度～平成28年の土壌汚染に係る苦情件数は0件であった。

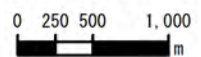


凡例

- 対象事業実施区域
- 市区町境界線
- ダイオキシン類測定地点（土壌）



1:50,000



出典：「公害関係資料集（平成24年度～平成28年度測定結果）」  
（仙台市、平成24年～平成28年）

図 3.1-23 土壌のダイオキシン類測定地点の位置



④ 影響を受ける施設等の状況

本事業の実施に当たっては、工事中及び供用時において、土壌汚染を発生させる工種又は建築物の計画が無いことから、土壌汚染の影響を受ける施設は想定しない。

### 3.1.4 生物環境

#### (1) 植物

##### ① 注目すべき植物の状況

法令や規制等の選定基準に基づき、資料調査で確認した植物相について、重要な種を抽出した。なお、文献②については、仙台市全域を対象としていることから、地域区分が「西部丘陵地・田園地域」（表 3.1-60 参照）とされている減少種又は種の分布地として、調査範囲内の地域が示されている学術上重要な種及び環境指標種等を抽出した。

資料調査で確認した植物は 209 科 1,561 種であり、このうち 110 科 407 種が重要な種であった。なお、植物の確認種一覧は資料編に掲載した。

植物相に係る収集文献一覧を表 3.1-56 に、資料調査で確認した植物相の概要を表 3.1-57 に示す。また、重要な種の選定基準を表 3.1-58 及び表 3.1-59 に、選定された重要な種を表 3.1-61 に示す。

表 3.1-56 収集文献一覧（植物相）

文献番号	文献名	備考
①	宮城県植物誌—Flora of Miyagi Prefecture 2017—（宮城県植物の会、平成 29 年 7 月）	調査範囲周辺で確認された種を抽出した。
②	平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書（仙台市、平成 29 年 3 月）	「西部丘陵地・田園地域」に該当する減少種を抽出した。

表 3.1-57 資料調査で確認した植物相の概要

分類群名			科数	種数	主な確認種	
蘚苔植物			55	157	ゼニゴケ、ウキゴケ、オオミズゴケ 等	
シダ植物			17	111	イワヒバ、スギナ、ゼンマイ、シシガシラ、ジュウモンジシダ、ヒメワラビ、ホソバインワラビ、クサソテツ 等	
種子植物	裸子植物		4	7	モミ、スギ、カヤ 等	
	被子植物	双子葉植物	離弁花類	77	556	オニグルミ、ネコヤナギ、ハンノキ、コナラ、ケヤキ、ヤマグワ、イヌタデ、ミゾソバ、オオバクロモジ、ヤブツバキ、ナズナ、キリンソウ、カスミザクラ、ヤマモミジ、ヒシ、アオキ 等
			合弁花類	34	312	ヤマツツジ、サクラソウ、イボタノキ、サギゴケ、オオバコ、オミナエシ、キキョウ、アキノキリンソウ 等
	単子葉植物		22	418	ヘラオモダカ、ヒルムシロ、ショウジョウバカマ、ミズアオイ、ヒメシャガ、メヒシバ、ツルヨシ、アズマネザサ、ミクリ、タヌキラン、シュンラン 等	
合計			209	1,561	—	

表 3.1-58 重要な種の選定基準（国・宮城県）

一	番号	判断基準	記号等	カテゴリー
レ ッド リス ト 等	I	文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号） 宮城県文化財保護条例（昭和 50 年宮城県条例第 49 号） 仙台市文化財保護条例（昭和 37 年仙台市条例第 27 号）	特天	特別天然記念物
			天然	天然記念物
			県天	県指定天然記念物
			市天	市指定天然記念物
	II	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）	国内	国内希少野生動物種
			国際	国際希少野生動物種
			緊急	緊急指定種
	III	環境省レッドリスト 2019 の公表について （環境省、平成 31 年 1 月）	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR+EN	絶滅危惧 I 類
			VU	絶滅危惧 II 類
			NT	準絶滅危惧
			DD	情報不足
			LP	絶滅のおそれのある地域個体群
	IV	宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 －RED DATA BOOK MIYAGI 2016－ （宮城県、平成 28 年 3 月）	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR+EN	絶滅危惧 I 類
			VU	絶滅危惧 II 類
			NT	準絶滅危惧
			DD	情報不足
LP			絶滅のおそれのある地域個体群	
要	要注目種			

表 3.1-59 保全上重要な種の選定基準（仙台市）

一	番号	カテゴリー	記号等	説明
仙 台 市 に お け る 保 全 上 重 要 な 種 の 区 分	V	学術上重要種	学 1	学術上重要種。仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種、あるいは生息地・生育地がごく限られている種。
			学 2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布限界となる種。
			学 3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種。
			学 4	上記の 1、2、3 には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など）。
	減少種 <sup>※1</sup>	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。	
		EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。	
		A	現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。	
		B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。	
		C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。	
		+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種。	
		/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい。	
	・	判断に資する情報がない。		
	環境指標種	○	本市の各環境分類における環境を指標する種（ピオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標）。	

※1) 減少種の地域区分は表 3.1-60 に示す。

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年 3 月）

表 3.1-60 減少種の地域区分

番号	地域区分	地域区分図
(1)	山地地域	
(2)	西部丘陵地・田園地域	
(3)	市街地地域	
(4)	東部田園地域	
(5)	海浜地域（後背の樹林も含む）	

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年 3 月）

「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020 改定版」（仙台市、平成 28 年 3 月）

表 3.1-61(1) 資料調査で確認した重要な種（植物相）

科名	種名	収集文献※ <sup>1</sup>		選定基準※ <sup>2</sup>						
		①	②	I	II	III	IV	V		
								学術上重要種	減少種	環境指標種
ウキゴケ	ウキゴケ	●					CR+EN			
クサリゴケ	ヤマナカヨウジョウゴケ	●					VU			
ミズゴケ	フナガタミズゴケ	●					DD			
	オオミズゴケ	●				NT	CR+EN			
キンシゴケ	ヒメキンシゴケ	●					DD			
ハイヒモゴケ	コハイヒモゴケ	●					CR+EN			
ハイゴケ	コウライイチイゴケ	●					CR+EN			
ヒカゲノカズラ	スギラン		●			VU	CR+EN	1		
イワヒバ	ヒモカズラ		●					1		
	イワヒバ	●	●					1	B	○
ミズニラ	ミズニラ	●	●			NT	NT	1	B	
トクサ	イヌスギナ	●	●						B	
ゼンマイ	ヤシャゼンマイ		●				NT	1	C	
コケシノブ	ヒメハイホラゴケ		●					1		
	コウヤコケシノブ		●					1		
イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	●	●					1, 2	B	
	イノモトソウ	●	●				NT	1, 2		
チャセンシダ	コタニワタリ	●	●						B	
オシダ	ナンタイシダ		●				要	1, 2		
	ハカタシダ	●	●				CR+EN	1, 2		
	リョウメンシダ	●	●						B	○
	キヨスミヒメワラビ		●				VU	1, 2		
	オシダ	●	●						B	
	オオクジャクシダ		●					1		
	ニオイシダ		●					1, 4		
	オオベニシダ		●					1, 2		
	ギフベニシダ		●				CR+EN	1, 2		
	アスカイノデ	●	●					2		
	アイアスカイノデ	●	●					2		
	イワシロイノデ	●	●						B	
	イノデ	●	●					2		

表 3.1-61(2) 資料調査で確認した重要な種 (植物相)

科名	種名	収集文献※ <sup>1</sup>		選定基準※ <sup>2</sup>								
		①	②	I	II	III	IV	V				
								学術上 重要種	減少種	環境 指標種		
オシダ	サカゲイノデ	●	●							B		
	ジュウモンジシダ	●	●							B	○	
ヒメシダ	ヒメワラビ	●	●					2		B		
メシダ	オクヤマワラビ		●				CR+EN	1				
	ホソバインヌワラビ	●	●				NT			C		
	ヒロハインヌワラビ	●					VU					
	シケチシダ		●				要	1, 2				
	ヤリノホシケシダ		●				VU	1				
	セイトカシケシダ		●				VU	1				
	オニヒカゲワラビ	●					VU					
	ウサギシダ		●				VU	1				
	イヌガンソク	●	●								C	
	クサソテツ		●								B	
ウラボシ	ヒメサジラン		●					1				
	イワオモダカ		●				VU	1				
サンショウモ	サンショウモ	●	●			VU	NT	1				
マツ	モミ	●	●							C	○	
	キタゴヨウ		●					4				
	ハイマツ		●					1, 4			○	
イチイ	カヤ	●	●							B		
ツチトリモチ	ミヤマツチトリモチ		●			VU	VU	1				
クルミ	オニグルミ	●	●							B	○	
ヤナギ	ネコヤナギ	●	●					4		C	○	
	シライヤナギ	●	●				CR+EN	1				
	キツネヤナギ	●	●							C	○	
	オオバヤナギ		●				NT	1				
カバノキ	ハンノキ	●	●					1, 4		C	○	
	ミズメ	●	●							C		
	ウダイカンバ		●					4		C		
	サワシバ	●	●							B	○	
	アカシデ	●	●							B	○	
	イヌシデ	●	●					4		B	○	
ブナ	ブナ	●	●					4		B		
	イヌブナ	●	●					1, 4		B	○	
	アカガシ	●	●					2		C	○	
	アオナラガシワ		●					1				
	ミズナラ	●	●							B		
	アラカシ		●				要	1, 2		C		
	シラカシ	●	●					2		C	○	
	ウラジロガシ	●	●					2		C		
ニレ	エノキ	●	●					4		B		
	ケヤキ	●	●							C	○	
イラクサ	マルバヤブマオ		●				VU	1		B		
	トキホコリ	●	●			VU	VU	1		B		
	コケミズ		●				NT	1				
タデ	ヤナギヌカボ		●			VU	要	1				
	イヌタデ	●	●								○	
	サデクサ		●				NT	1				
	ヌカボタデ	●				VU	要					
	ミヅソバ	●	●							C	○	

表 3.1-61(3) 資料調査で確認した重要な種 (植物相)

科名	種名	収集文献 <sup>※1</sup>		選定基準 <sup>※2</sup>						
		①	②	I	II	III	IV	V		
								学術上 重要種	減少種	環境 指標種
タデ	ノダイオウ	●	●			VU	要	1, 4	C	
	マダイオウ		●				CR+EN		A	
ザクロソウ	ザクロソウ	●	●					1		
ナデシコ	カワラナデシコ	●	●						C	
	ナンブワチガイソウ	●	●			VU	NT	1	C	
	エゾフスマ		●				CR+EN	1		
	ナガバツメクサ	●					DD			
アカザ	ハママツナ		●				NT	2		○
モクレン	タムシバ		●							○
マツブサ	チョウセンゴミシ		●				CR+EN		A	
クスノキ	ヤブニッケイ	●					CR+EN			
	ヤマコウバシ		●					1, 2	B	
	オオバクロモジ	●	●							○
	シロダモ	●	●					2	+	○
キンボウゲ	フクジュソウ	●	●				VU	1	B	
	ニリンソウ	●	●						B	○
	キクザキイチゲ	●	●						B	○
	レンゲショウマ		●					1	B	
	リュウキンカ	●	●							○
	カザグルマ	●	●			NT	VU	1	B	
	トウゴクサバノオ	●	●					1	B	
	スハマソウ	●	●				NT		B	
	オキナグサ	●	●			VU	CR+EN	1	A	
	コキツネノボタン		●			VU	VU	1		
	バイカモ		●					1	B	
シラネアオイ	シラネアオイ	●	●						B	○
メギ	トガクシショウマ		●			NT	CR+EN	1		
スイレン	オニバス		●			VU	EX	1	EX	
マツモ	マツモ		●					1		
	ヨツバリキンギョモ		●					1, 2		
ウマノスズクサ	トウゴクサイシン	●	●						B	○
ボタン	ヤマシャクヤク	●	●			NT	CR+EN	1	B	
	ベニバナヤマシャクヤク		●			VU	VU	1	A	
ツバキ	ヤブツバキ	●	●						B	○
オトギリソウ	オシマオトギリ		●				VU		B	
モウセンゴケ	モウセンゴケ	●	●						C	
ケシ	ナガミノツルキケマン		●			NT		1	C	
	ヤマブキソウ	●	●					1	B	
アブラナ	エゾハタザオ	●					要			
	ナズナ	●	●						B	○
ベンケイソウ	チチッパベンケイソウ		●					1		
	キリンソウ	●	●							○
ユキノシタ	トリアシショウマ	●	●						B	
	コガネネコノメソウ	●	●					1, 2		
	コチャルメルソウ	●	●							○
	タコノアシ		●			NT			B	
	ヤシャビシヤク		●			NT	VU	1		
	ザリコミ		●				CR+EN	1		
	トガスグリ		●				VU	1		
	シコタンソウ		●				VU	1		

表 3.1-61(4) 資料調査で確認した重要な種 (植物相)

科名	種名	収集文献 <sup>※1</sup>		選定基準 <sup>※2</sup>							
		①	②	I	II	III	IV	V			
								学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
ユキノシタ	ダイモンジソウ	●	●								○
	エゾクロクモソウ		●					1			
	ユキノシタ		●						B		
バラ	ザイフリボク	●	●					1	B		
	キンロバイ		●			VU	CR+EN	1			
	ヤマブキ		●						C		○
	イワキンバイ		●								○
	ヒロハノカワラサイコ	●	●			VU	NT		B		
	エチゴキジムシロ		●				要		B		
	カスミザクラ	●	●						C		○
	オオタカネイバラ		●				CR+EN	1			
	ハマナス		●				NT	4			○
	サナギイチゴ	●	●			VU	要		B		
	カジイチゴ	●	●					1, 2			
	ミヤマウラジロイチゴ		●				CR+EN	1			
マメ	タヌキマメ		●				CR+EN		EX		
	マルバヌスビトハギ		●				要	1			
	ツクシハギ	●	●						B		○
	イヌハギ	●	●			VU	NT	1			
	マキエハギ	●	●				NT	1			
	オオバタンキリマメ		●				NT		C		
	センダイハギ		●				CR+EN	1			
フウロソウ		●					1				
トウダイグサ	ノウルシ	●				NT	要				
	マルミノウルシ		●			NT	VU		B		
ユズリハ	ユズリハ	●	●				1, 2	C			
ミカン	ミヤマシキミ		●					1	C		
カエデ	ナンゴクミネカエデ		●								○
	ハウチワカエデ	●	●						C		
	メグスリノキ	●	●					1	B		
	ヤマモミジ	●	●						B		○
	イタヤカエデ		●						C		
ウリハダカエデ	●	●						C			
トチノキ	トチノキ		●						C		
モチノキ	イヌツゲ	●	●						C		
	ソヨゴ	●	●				NT	1, 2	C		
	アカミノイヌツゲ		●								○
シナノキ	カラスノゴマ		●					1	A		
スマレ	サクラスマレ	●	●					1	B		
	フモトスマレ		●				VU	1	B		
	ナガハシスマレ	●	●					1	B		
ミソハギ	ミズマツバ	●	●			VU	VU	1			
ヒシ	ヒメビシ		●			VU	CR+EN		A		
	ヒシ	●	●						B		○
アカバナ	ヤナギラン		●				CR+EN	A			
アリノトウグサ	タチモ		●			NT	VU	1			
ミズキ	アオキ	●	●						C		○
ウコギ	コシアブラ	●	●						C		
セリ	ハナビゼリ		●				NT	1			
	ミシマサイコ		●			VU	CR+EN	1	B		

表 3.1-61(5) 資料調査で確認した重要な種 (植物相)

科名	種名	収集文献 <sup>※1</sup>		選定基準 <sup>※2</sup>						
		①	②	I	II	III	IV	V		
								学術上 重要種	減少種	環境 指標種
セリ	ハマボウフウ		●					1		
	ハナウド		●				NT		C	
	オオカサモチ		●				NT	1		
	イワセントウソウ		●					1		
	タニミツバ	●	●				VU	1	C	
	サワゼリ		●			VU	NT	1		
イワウメ	コイワウチワ	●	●					1, 4	C	○
イチヤクソウ	ウメガサソウ		●						C	○
	ベニバナイチヤクソウ		●					1		
ツツジ	ヤマツツジ	●	●						C	○
	シロヤシオ		●						C	○
	トウゴクミツバツツジ	●	●					2	B	
	ナツハゼ	●	●						C	
ヤブコウジ	ヤブコウジ	●	●							○
サクラソウ	ユキワリコザクラ		●					1		
	クリンソウ	●	●				VU	1	B	
	サクラソウ	●	●			NT	CR+EN	1	A	○
エゴノキ	オオバアサガラ	●	●					1	A	
モクセイ	イボタノキ	●	●						B	○
マチン	アイナエ		●				CR+EN		A	
リンドウ	コケリンドウ	●	●				CR+EN		A	
	ホソバツルリンドウ		●			VU	VU	1	C	
	イヌセンブリ	●	●			VU	VU	1		
ミツガシワ	ヒメシロアサザ		●			VU	VU	1		
ガガイモ	フナバラソウ	●	●			VU	VU	1		
	タチガシワ	●	●					1		
	スズサイコ	●	●			NT	VU	1	A	
	コカモメヅル		●				VU	1		
ヒルガオ	ハマヒルガオ		●							○
ムラサキ	ムラサキ	●	●			EN	CR+EN	1	A	
	ルリソウ	●	●				NT		C	
クマツヅラ	クマツヅラ	●	●				VU		B	
シソ	ヒロハヤマトウバナ	●	●					1		
	フトボナギナタコウジュ	●	●					1, 2		
	タイリンヤマハッカ	●	●				NT		C	
	キセワタ	●				VU	VU			
	ヒメハッカ		●			NT	CR+EN	1		
	シラゲヒメジソ		●				要	1		
	タテヤマウツボグサ		●					1		
	タツナミソウ	●					要			
	エゾニガクサ	●	●			EN	CR+EN	1		
ゴマノハグサ	マルバノサワトウガラシ	●	●			VU	VU		B	
	アブノメ		●				VU		B	
	オオアブノメ		●			VU	要	1		
	サギゴケ	●	●						C	○
	クワガタソウ	●	●				VU		B	
	イヌノフグリ	●	●			VU	VU	1		
	カワヂシャ		●			NT	NT	1		
ハマウツボ	オオナンバンギセル		●					1	B	
	キヨスミウツボ		●				VU	1		



表 3.1-61(6) 資料調査で確認した重要な種 (植物相)

科名	種名	収集文献※ <sup>1</sup>		選定基準※ <sup>2</sup>						
		①	②	I	II	III	IV	V		
								学術上 重要種	減少種	環境 指標種
タヌキモ	ムシトリスミレ		●					1		
	イヌタヌキモ	●	●			NT	VU	1	B	
	フサタヌキモ		●			EN	EX	1	EX	
	タヌキモ		●			NT	CR+EN	1		
	ヒメタヌキモ	●	●			NT	CR+EN	1	A	
	ムラサキミミカキグサ	●	●			NT	NT	1	A	
オオバコ	オオバコ	●	●							○
スイカズラ	エゾヒョウタンボク		●			VU	CR+EN	1		
	クロミノウグイスカグラ		●				NT	1		
	ニッコウヒョウタンボク		●				要	1, 2		
	オオカメノキ		●							○
レンプクソウ	レンプクソウ	●	●				NT	1		
オミナエシ	オミナエシ	●	●						B	○
マツムシソウ	マツムシソウ	●	●					1	A	
キキョウ	シデシャジン		●					1		
	キキョウ	●	●			VU	VU	1	B	○
キク	オクモミジハグマ	●	●						C	○
	キッコウハグマ	●	●						B	○
	シオン	●				VU				
	オケラ	●	●						B	○
	エゾノタウコギ		●				VU		B	
	ヒメガンクビソウ		●				VU		B	
	アワコガネギク		●			NT			C	
	イワインチン		●					1, 2		
	アズマギク		●				VU	1	B	○
	フジバカマ		●			NT			C	
	タカサゴソウ	●				VU	VU			
	カシワバハグマ	●	●				VU		B	
	オオニガナ	●	●				NT	1	C	
	シュウブソウ	●	●					1, 2		
	ミヤコアザミ	●	●				CR+EN	1	A	
	ヒメヒゴタイ		●			VU	CR+EN	1		
	オカオグルマ		●				VU		B	
	アキノキリンソウ	●	●						C	○
	エゾタンポポ	●	●						C	○
	オナモミ		●			VU	VU		B	
オモダカ	ヘラオモダカ	●	●						C	○
	サジオモダカ	●	●				NT		C	○
	アギナシ	●	●			NT	VU		C	○
	ウリカワ		●						C	○
	オモダカ		●						C	○
	ホソバオモダカ		●						C	○
トチカガミ	ヤナギスブタ	●					VU			
	クロモ		●						B	○
	ミズオオバコ	●	●			VU	NT	1	B	
ホロムイソウ	オオシバナ		●			NT	CR+EN	1		○
ヒルムシロ	イトモ		●			NT	要	1	C	
	エビモ	●	●						B	○
	コバノヒルムシロ	●	●			VU	VU		C	○
	ヒルムシロ	●	●						C	○

表 3.1-61(7) 資料調査で確認した重要な種 (植物相)

科名	種名	収集文献 <sup>※1</sup>		選定基準 <sup>※2</sup>							
		①	②	I	II	III	IV	V			
								学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
ヒルムシロ	フトヒルムシロ	●	●							C	○
	オオミズヒキモ		●							C	○
	センニンモ		●				VU			C	○
	オヒルムシロ	●	●							C	○
	ホソバミズヒキモ	●	●				VU			C	○
イバラモ	サガミトリゲモ		●			VU	VU	1			
	イトトリゲモ	●	●			NT	NT	1	B		
	トリゲモ		●			VU	CR+EN	1	B		
	オオトリゲモ		●				CR+EN	1	B		
ホンゴウソウ	●				VU	CR+EN					
ユリ	スズラン	●	●				VU			B	
	カタクリ	●	●							B	
	ショウジョウバカマ	●	●							B	○
	ニッコウキスゲ	●	●							B	
	コオニユリ	●	●							B	
	ヤマスカシユリ		●			NT	CR+EN	1			
	ヒメヤブラン	●	●							C	○
	オオバジャノヒゲ	●	●							B	
	ユキザサ	●	●							C	○
マルバサンキライ		●				CR+EN			A		
キンバイザサ	●	●				EX	1, 2	EX			
ミズアオイ	ミズアオイ	●	●			NT					○
	コナギ	●	●								○
アヤメ	ヒオウギ		●				CR+EN	1			
	ノハナショウブ	●	●					1	C	○	
	ヒメシャガ	●	●			NT	NT		B	○	
	カキツバタ	●	●			NT	VU	1	B		
	アヤメ		●				NT		C		
ツユクサ	ヤブミヨウガ		●			CR+EN			A		
ホシクサ	ホシクサ		●			要	1				
イネ	ヒメコヌカグサ	●				NT					
	ヤマアワ	●	●						B		
	ヒナザサ		●			NT	VU		B		
	メヒシバ	●	●								○
	カゼクサ	●	●						B	○	
	オオウシノケグサ	●	●					4	B	○	
	ケカモノハシ		●								○
	カモノハシ	●	●					1			
	テンキグサ		●					1, 4			○
	オギ	●	●						C	○	
	アイアシ	●	●				NT	1			○
	ヨシ	●	●						C	○	
	ツルヨシ	●	●						C	○	
	アキウネマ加里	●	●				CR+EN	1			
	スズタケ		●						C	○	
	オオクマザサ		●					3			
	ヒメスズタケ		●				NT		C		
	スエコザサ	●	●					3			
	ケスズ		●					1	B		
	ネズミノオ		●								○

表 3.1-61(8) 資料調査で確認した重要な種 (植物相)

科名	種名	収集文献※ <sup>1</sup>		選定基準※ <sup>2</sup>						
		①	②	I	II	III	IV	V		
								学術上 重要種	減少種	環境 指標種
イネ	マコモ	●	●						B	○
	シバ		●						B	○
サトイモ	ヒメカイウ	●	●			NT	CR+EN	1		
	ミズバショウ		●						B	○
	ヒメザゼンソウ		●						B	
ミクリ	ミクリ	●	●			NT	NT	1	B	○
	ヤマトミクリ	●	●			NT	CR+EN	1	A	
	タマミクリ		●			NT	CR+EN	1		
	ナガエミクリ	●	●			NT	NT	1	A	
	ヒメミクリ	●	●			VU	VU	1	B	
ガマ	ヒメガマ	●	●						C	
	ガマ		●						C	○
カヤツリグサ	スナジスゲ	●					NT			
	ハコネイトスゲ		●				CR+EN		A	
	サナギスゲ		●				CR+EN		A	
	ヤマクボスゲ	●	●			NT	VU	1		
	コウボウムギ		●							○
	タチスゲ	●	●				CR+EN	1		
	タヌキラン	●	●							○
	マメスゲ		●				CR+EN	1		
	オオカサスゲ		●						B	
	オオクグ		●			NT	NT	1		
	センダイスゲ	●	●					4		
	マメクグ		●				VU		B	
	スジヌマハリイ		●			VU	VU	1		
	サギスゲ	●	●				NT		C	
	ナガボテンツキ		●				VU	2		
	フトイ	●	●						B	
	カンガレイ	●	●						B	
	サンカクイ	●	●						B	
ノグサ		●				VU		B		
ラン	コアニチドリ		●			VU	CR+EN	1		
	エビネ	●	●			NT	VU	1	A	
	キンセイラン		●			VU	CR+EN	1	B	
	サルメンエビネ	●	●			VU	CR+EN	1	B	
	キンラン	●	●			VU	VU	1	B	
	クゲヌマラン		●			VU	CR+EN	1		
	ユウシュンラン	●	●			VU	NT	1	B	
	ヒメノヤガラ		●			VU	VU	1		
	ヒナチドリ		●			VU	CR+EN	1	A	
	シュンラン	●	●						C	○
	コアツモリソウ		●			NT	CR+EN	1	B	
	クマガイソウ		●			VU	CR+EN	1	A	
	アツモリソウ	●	●		国内	VU	CR+EN	1	A	
	イチヨウラン		●				CR+EN	1		
	セッコク		●				CR+EN	1	EX	
	エゾスズラン	●	●				NT	1	A	
	ハマカキラン		●			VU	NT	1		
	アオキラン		●			CR	CR+EN	1		
	ミヤマモジズリ		●				CR+EN	1		

表 3.1-61(9) 資料調査で確認した重要な種（植物相）

科名	種名	収集文献※1		選定基準※2						
		①	②	I	II	III	IV	V		
								学術上 重要種	減少種	環境 指標種
ラン	オオミズトンボ	●	●			EN	CR+EN	1	B	
	サギソウ	●	●			NT	CR+EN	1	A	
	ミズトンボ	●	●			VU	CR+EN	1	A	
	ムカゴソウ	●	●			EN	VU	1		
	ギボウシラン	●	●			EN	CR+EN	1		
	フガクスズムシソウ		●			VU	CR+EN	1		
	ジガバチソウ		●				NT			C
	クモキリソウ	●	●					1, 4	B	
	コフタバラン		●				CR+EN		A	
	ヒメフタバラン	●	●				要	2		
	サカネラン		●			VU		1		
	カモメラン		●			NT	CR+EN	1		
	オノエラン		●					1		
	ウチョウラン	●	●			VU	CR+EN	1	A	
	ミズチドリ	●	●				VU		B	
	イイヌマムカゴ	●	●			EN	CR+EN	1		
	ツレサギソウ		●				NT			C
	マイサギソウ	●	●				CR+EN	1		
	オオバノトンボソウ	●	●				VU		B	
	トキソウ	●	●			NT	VU	1	A	
	ヤマトキシソウ	●	●				CR+EN		A	
	マツラン		●			VU	CR+EN	1	B	
	カヤラン	●	●				VU	1	B	
	ネジバナ	●	●						B	○
ハクウンラン	●	●				VU	1			
ショウキラン		●				CR+EN	1			
110 科	407 種	228 種	385 種	0 種	1 種	108 種	217 種	223 種	236 種	104 種

※1) 収集文献の欄に記載した番号は表 3.1-56 に示す。

※2) 選定基準の欄に記載した番号等は表 3.1-58 及び表 3.1-59 に示す。

## ② 植生及び注目すべき植物群落等の状況

### a. 植生

調査範囲では、河川沿いに水田雑草群落や市街地が多くみられるほか、クリーコナラ群集やアカマツ群落等の代償植生、スギ・ヒノキ・サワラ植林が広く分布する。また、広瀬川沿いには、植生自然度の高いヨシクラス（植生自然度 10）やケヤキ群落（植生自然度 9）等が分布する。

対象事業実施区域では、環境省が提示する植生自然度 9、10（自然植生）に該当する植生はないが、植生自然度 6（植林地）に該当するスギ・ヒノキ・サワラ植林、植生自然度 7（代償植生）に該当するクリーコナラ群集やアカマツ群落等が分布する。

仙台市が提示する特性区分のうち、クリーコナラ群集やスギ・ヒノキ・サワラ植林等の人里的風景を構成する植生が多く含まれる。

植生に係る収集文献一覧を表 3.1-62 に、植生の特性区分を表 3.1-63 に、植生自然度の区分基準を表 3.1-64 に示す。また、仙台市植生図における確認凡例一覧を表 3.1-65 に、現存植生図を図 3.1-24 に、植生自然度図を図 3.1-25 に示す。

表 3.1-62 収集文献一覧（植生）

文献番号	文献名	備考
①	平成 27 年度仙台市植生図（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）	現存植生図、植生自然度図

表 3.1-63 特性区分と判断理由（仙台市）

特性区分		判断理由
希少性の高い植生		仙台市において分布面積が少ない植生。又は、人為的に他の植生に置き換えられるなど、現在では少ない面積しか認められない植生。
脆弱性の高い植生		立地環境の特殊性が高く、人為による影響が顕著に表れやすいと考えられる植生。急峻な尾根や湿地等、特殊な立地に成立する植生が該当する。
自然性の高い植生		環境省の植生自然度 9、10（自然植生）に該当する植生※1。
景観的要素	新緑の美しい植生	春季において、芽吹き、開葉の風景が美しいと感じられる植生。
	紅葉の美しい植生	秋季において、夏緑広葉樹、夏緑針葉樹の紅葉・黄葉が美しいと感じられる植生。
	人里的風景を構成する植生	薪炭林や産業等に用いられ、古くから生活と結びついた里山的風景をかもし出す植生。

※1) 環境省が提示する植生自然度の区分基準は表 3.1-64 に示す。

出典：「平成 27 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 28 年 3 月）

表 3.1-64 植生自然度の区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クヌギ・コナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

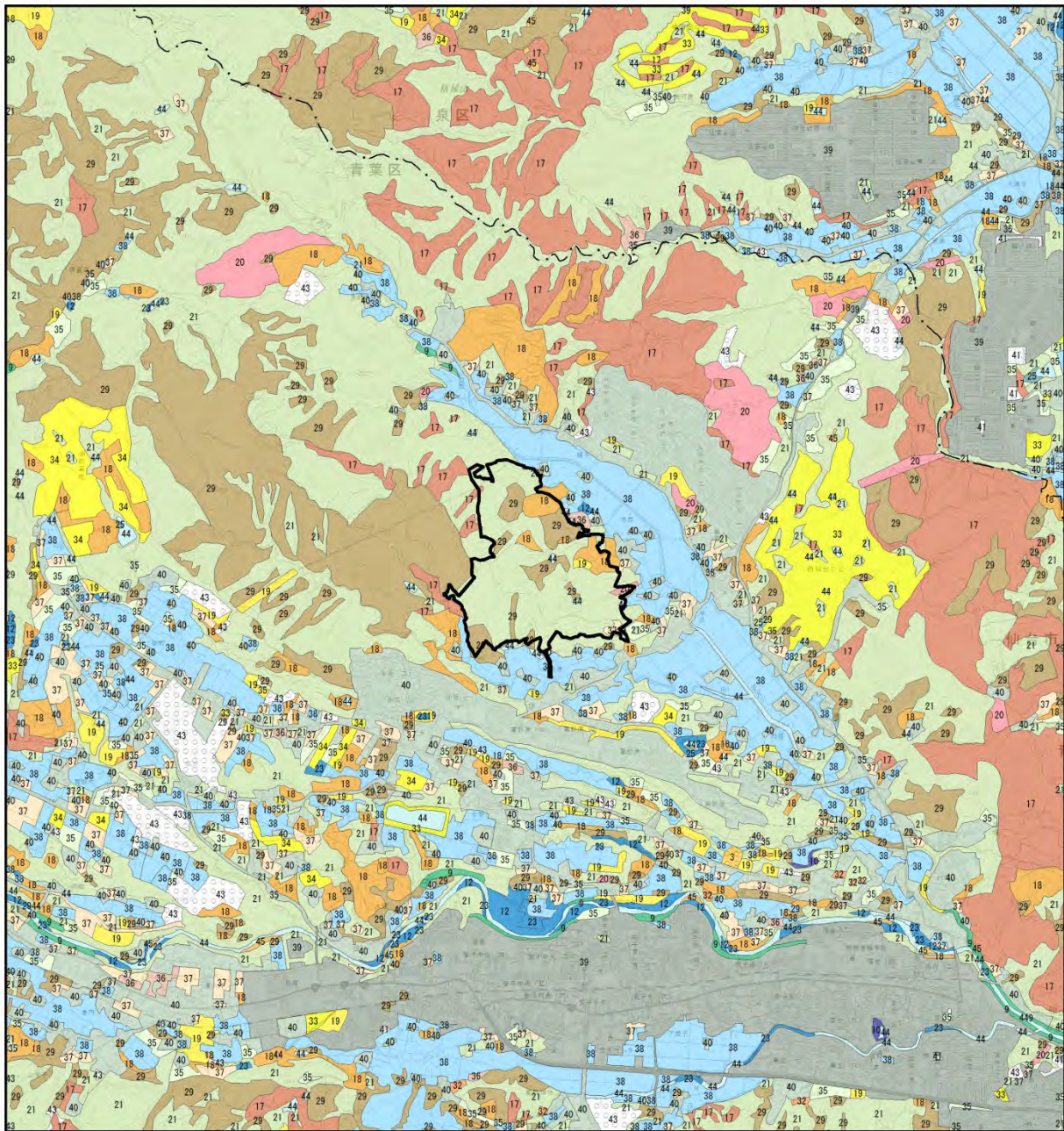
出典：「自然環境保全基礎調査 植生調査」（環境省生物多様性センターHP、平成 29 年 7 月閲覧）

表 3.1-65 確認凡例一覧（仙台市）

植生区分	凡例番号	凡例名	確認凡例		特性区分 <sup>※1</sup>						植生自然度 <sup>※2</sup>	
			対象事業実施区域	調査範囲	希少性の高い植生	脆弱性の高い植生	自然性の高い植生	景観的要素				
								新緑の美しい植生	紅葉の美しい植生	人里的風景を構成する植生		
コケモトウレキラス域自然植生	3	チシマザサ群落 (II)		○			●					9
ブナクラス域自然植生	9	ケヤキ群落 (IV)		○		●	●	●	●			9
	10	ハンノキ群落 (IV)		○		●	●	●				9
	12	ヤナギ低木群落 (IV)		○			●	●				9
ブナクラス域代償植生	15	クリーミズナラ群集		○				●	●	●		7
	17	アカマツ群落 (V)	○	○						●		7
	18	落葉広葉低木群落	○	○							●	7
	19	ススキ群団 (V)	○	○							●	5
	20	伐採跡地群落 (V)	○	○								4
ヤブツバキクラス域代償植生	21	クリーコナラ群集	○	○				●	●	●		7
河川・湿原・塩沼地・砂丘植生等	23	ヨシクラス		○			●					10
	25	ヒルムシロクラス		○		●	●				●	10
植林地・耕作地植生	29	スギ・ヒノキ・サワラ植林	○	○							●	6
	32	竹林		○				●			●	7
	33	ゴルフ場・芝地		○								2
	34	牧草地		○								2
	35	路傍・空地雑草群落		○								4
	36	果樹園	○	○							●	3
	37	畑雑草群落	○	○							●	2
	38	水田雑草群落	○	○							●	2
市街地等	39	市街地		○								1
	40	緑の多い住宅地		○							●	2
	43	造成地		○								1
	44	開放水域	○	○								—
	45	自然裸地		○								—

※1) 仙台市が提示する特性区分とその判断基準は表 3.1-63 に示す。

※2) 環境省が提示する植生自然度の区分基準は表 3.1-64 に示す。



凡例

- |                 |                  |              |             |
|-----------------|------------------|--------------|-------------|
| 対象事業実施区域        | 3, チシマザサ群落 (Ⅱ)   | 21, クリーコナラ群集 | 37, 畑雑草群落   |
| 市区町境界線          | 9, ケヤキ群落 (Ⅳ)     | 23, ヨシクラス    | 38, 水田雑草群落  |
| 10, ハンノキ群落 (Ⅳ)  | 25, ヒルムシロクラス     | 39, 市街地      | 40, 緑の多い住宅地 |
| 12, ヤナギ低木群落 (Ⅳ) | 29, スギ・ヒノキ・サワラ植林 | 43, 造成地      | 44, 開放水域    |
| 15, クリーミズナラ群集   | 32, 竹林           | 45, 自然裸地     |             |
| 17, アカマツ群落 (Ⅴ)  | 33, ゴルフ場・芝地      |              |             |
| 18, 落葉広葉低木群落    | 34, 牧草地          |              |             |
| 19, ススキ群団 (Ⅴ)   | 35, 路傍・空地雑草群落    |              |             |
| 20, 伐採跡地群落 (Ⅴ)  | 36, 果樹園          |              |             |

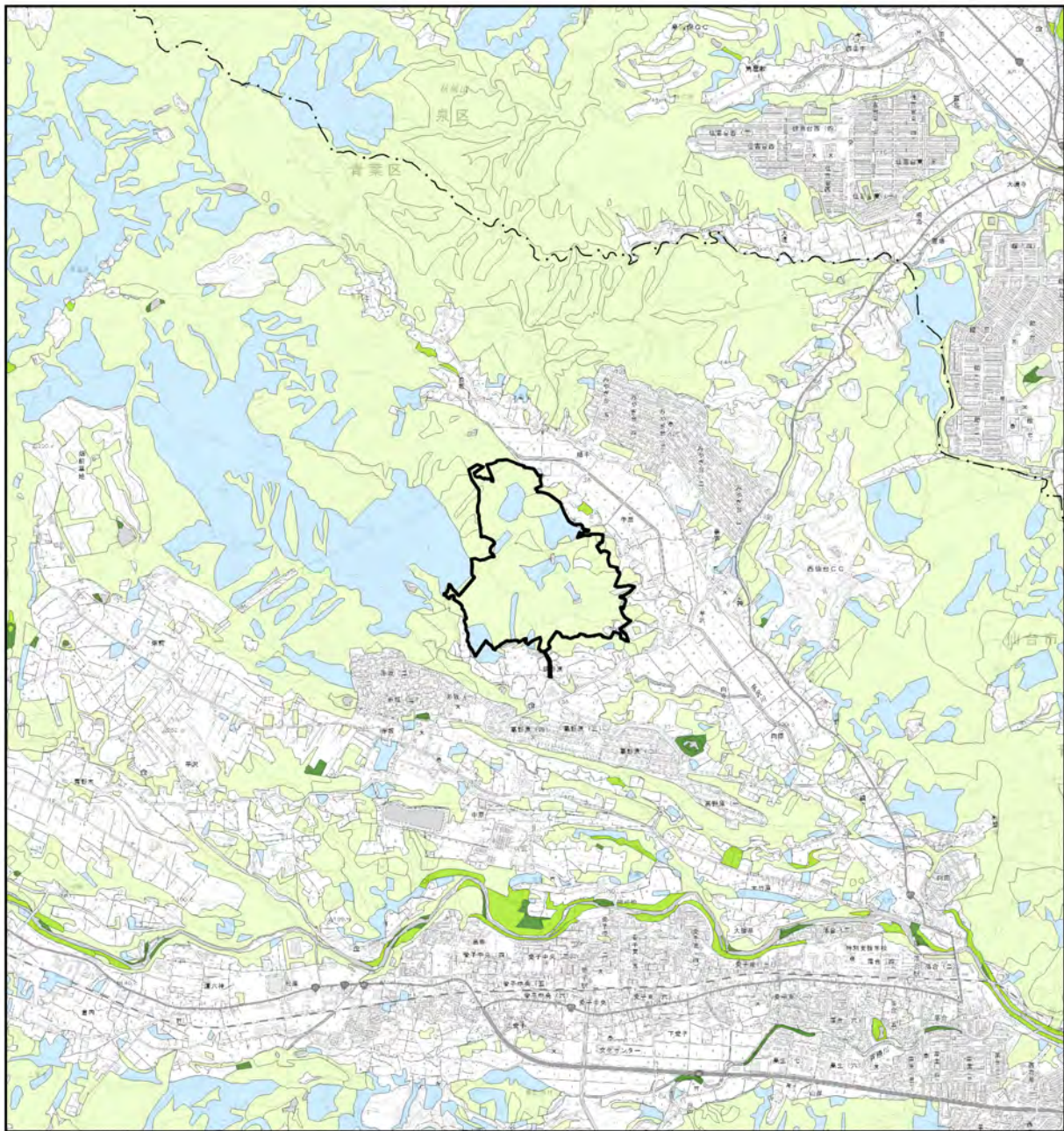


1:50,000







0 250 500 1,000  
m

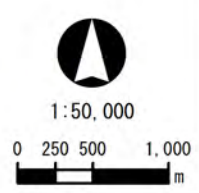
出典：「平成 27 年度仙台市植生図（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）」

図 3.1-24 現存植生図（仙台市）



凡例

	対象事業実施区域	植生自然度
	市区町境界線	 10
		 9
		 7
		 6



出典：「平成 27 年度仙台市植生図（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）」

図 3.1-25 植生自然度図（仙台市）



b. 注目すべき植物群落等

調査範囲には、北限の分布地また隔離分布である「黒森山のソヨゴ群落」をはじめ、野生動植物のハビタット又は生態系回廊（生態系コリドー）として重要とされる「奥武士・大倉地区の里地・里山植生」や「大倉・芋沢丘陵地の植生」等、生物多様性保全上重要な里地里山に選定される地域が広く分布する。

なお、対象事業実施区域は、注目すべき植物群落等のうち、「奥武士・大倉地区の里地・里山植生」に含まれる。

注目すべき植物群落等に係る収集文献一覧を表 3.1-66 に、注目すべき植物群落等の選定基準を表 3.1-67～表 3.1-69 に示す。また、資料調査で確認した注目すべき植物群落等を表 3.1-70 及び図 3.1-26 に示す。

表 3.1-66 収集文献一覧（植物群落等）

文献番号	文献名	備考
①	自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査 (環境省生物多様性センターHP、平成 29 年 7 月閲覧)	特定植物群落
②	宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物－RED DATA BOOK MIYAGI 2016－（宮城県、平成 28 年 3 月）	希少な植物群落
③	平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書（仙台市、平成 29 年 3 月）	植物生育地として重要な地域

表 3.1-67 特定植物群落の選定基準（環境省）

区分	区分内容
A	原生林もしくはそれに近い自然林（特に照葉樹林についてはもれのないように注意すること）
B	国内若干地域に分布するが、極めて稀な植物群落又は個体群
C	比較的普通に見られるものであっても、南限、北限、隔離分布等分布限界になる産地に見られる植物群落又は個体群
D	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落又は個体群で、その群落の特徴が典型的なもの（特に湿原についてはもれのないように注意すること。）
E	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもの（武蔵野の雑木林、阿蘇の山地草原、各地の社寺林。特に郷土景観を代表する二次林や二次草原についてはもれの無いよう注意すること）
F	過去において人工的に植栽されたことが明らかな森林であっても、長期にわたって伐採等の手が入っていないもの
G	乱獲その他の人為の影響によって、当該都道府県内で極端に少なくなるおそれのある植物群落又は個体群
H	その他、学術上重要な植物群落又は個体群（種の多様性の高い群落、貴重種の生息地となっている群落等）

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」（環境省生物多様性センターHP、平成 29 年 7 月閲覧）

表 3.1-68 希少な植物群落の選定基準（宮城県）

区分	区分内容
(1)	「要注意」 群落は、現在保護・管理状態が良く、当面破壊されるおそれが少ない。しかし、監視は必要である。
(2)	「破壊危惧」 群落は、当面保護されているが、将来破壊されるおそれがある。
(3)	「壊滅危惧」 群落は、対策を講じなければ徐々に悪化して壊滅する。
(4)	「壊滅状態」 群落は、全体的に壊滅状態にあり、緊急に対策を講じなければ壊滅する。
(D)	「壊滅」

出典：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物－RED DATA BOOK MIYAGI 2016－」（宮城県、平成 28 年 3 月）

表 3.1-69 重要な地域の選定基準（仙台市）

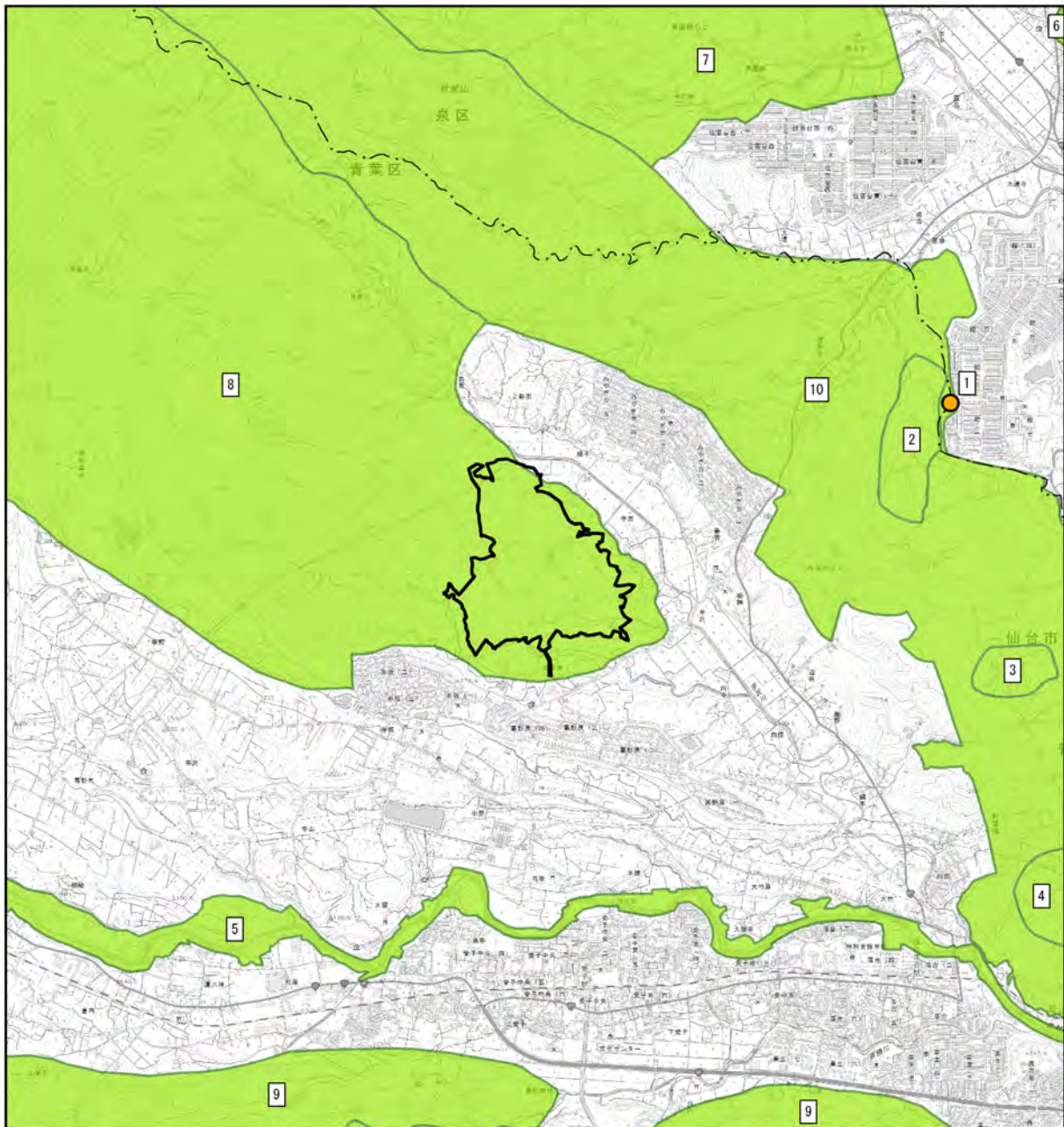
区分	判断理由
1	保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域（動物の繁殖場、集団越冬地となっている地域など）
2	多様な生物相が保存されている地域
3	自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	環境教育の場としてふさわしい地域
7	郷土の特色が保存されている地域（里地里山・居久根等）
8	緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域 （山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等）
9	海岸や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年 3 月）

表 3.1-70 注目すべき植物群落等

図中 番号	群落名 又は 地域名	概要	判断 理由 ※1	文献 番号
1	黒森山のソヨゴ群落	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権現森緑地環境保全地域</li> <li>・単一群落の二次林（中間温帯）で、宮城県内で唯一の林を形成している。</li> <li>・ソヨゴ群落の北限の分布地また隔離分布であり、貴重である。</li> </ul>	C (3)	① ②
2	黒森山国有林のソヨゴ林と周辺の植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太白山県自然環境保全地域</li> <li>・太白山の標高 150m から頂上（320m）までの急斜面・岩礫地には立地特有の植生であるコナラ・ケヤキ林が成立している。</li> <li>・登山を中心に市民の憩いの場としても貴重。</li> </ul>	3 6 7	③
3	黒森山頂上付近の植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権現森緑地環境保全地域</li> <li>・アカマツ林は里山では一般的なものであるが、黒森山頂上付近の林分は生育状態が良好で、樹高 20m 以上、胸高直径 50～60cm に達する。</li> <li>・過去より伐採を受けてきた里山の植生の中で、壮齢林として重要。</li> </ul>	5 6 7	③
4	松尾山頂上付近の植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権現森緑地環境保全地域</li> <li>・黒森山頂上と同様のアカマツ林が分布する。</li> <li>・林内に神社があり、地域住民とのかかわりの面からも重要。</li> </ul>	5 6 7	③
5	名取川・広瀬川中～下流域の河畔植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬川の清流を守る条例環境保全区域</li> <li>・立地や洪水様態に応じた多様な植生が認められ、ヤナギ類の群落を中心に、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。</li> <li>・市民の憩いの場としても極めて貴重。</li> </ul>	8 9	③
6	七北田川下流域の河畔植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨシ群落自然植生度 10 のヨシクラスを主体とする河畔植生で、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。</li> <li>・市民の憩いの場として極めて貴重。</li> <li>・環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。</li> </ul>	8 9	③
7	根白石（朴沢・実沢・福岡）地域及び西田中地域の里地・里山植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の北西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。</li> <li>・環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。</li> </ul>	7 8	③
8	奥武士・大倉地区の里地・里山植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の西部に位置し、二次林、植林、農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され、里地・里山植生が良好な状態で残されている。</li> <li>・環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。</li> </ul>	7	③
9	奥羽山脈～青葉山丘陵地域の植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の南部に位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。</li> <li>・青葉山は、狭い地域内に 800 種以上の植物が自生し、里山の自然に親しむ場として活用されている。</li> <li>・環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。</li> </ul>	7 8	③
10	大倉・芋沢丘陵地の植生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の中央部から北西にかけて位置し、野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。</li> <li>・植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。</li> </ul>	7 8	③

※1) 判断基準は、対応文献ごとの選定基準の区分と対応する。



凡例

- 対象事業実施区域
- 市区町境界線
- 特定植物群落・希少な植物群落
- 植物生育地として重要な地域

出典：「自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査」  
 (環境省生物多様性センターHP、平成29年7月閲覧)  
 「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市、平成29年3月)

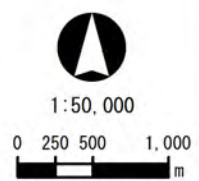


図 3.1-26 注目すべき植物群落等の状況

c. その他事業の立地上配慮を要する植物

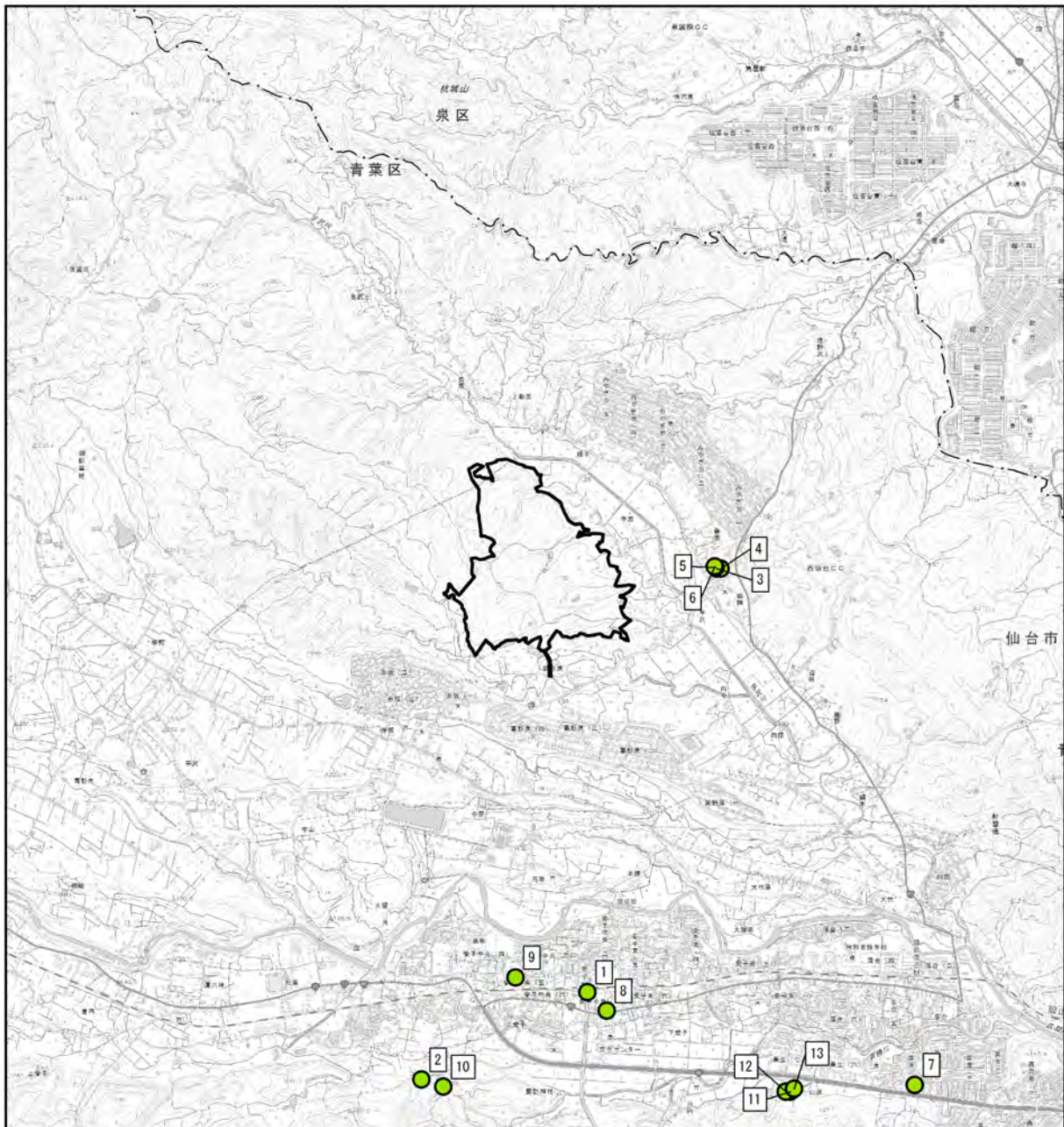
調査範囲では、仙台市の「杜の都の環境をつくる条例」（平成 18 年、仙台市条例第 47 号）に基づく「保存樹木」に指定される名木・古木が存在する。なお、対象事業実施区域には、「杜の都の環境をつくる条例」に基づく「保存樹木」、「保存樹林」及び「保存緑地」は存在しない。

立地上配慮を要する植物を表 3.1-71 及び図 3.1-27 に示す。

表 3.1-71 立地上配慮を要する植物

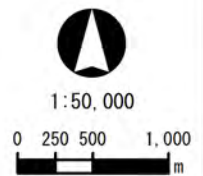
図中 番号	区	名称	樹種	指定年月日	推定 樹齡	樹高 (m)	幹周 (m)
1	青葉区	愛子駅前のしだれざくら	シダレザクラ	平成 24 年 9 月 12 日	100 年	9.0	3.3
2	青葉区	上愛子のあかがし	アカガシ	平成 6 年 2 月 24 日	—	19.0	3.1
3	青葉区	宇那禰神社のすぎ (1)	スギ	平成 6 年 2 月 24 日	370 年	28.0	4.4
4	青葉区	宇那禰神社のすぎ (3)	スギ	平成 6 年 2 月 24 日	300 年	29.0	2.6
5	青葉区	宇那禰神社のすぎ (4)	スギ	平成 6 年 2 月 24 日	300 年	31.6	3.0
6	青葉区	宇那禰神社のひのき	ヒノキ	平成 6 年 2 月 24 日	300 年	28.6	2.4
7	青葉区	栗生のいちい	イチイ	平成 16 年 8 月 9 日	500 年	5.7	2.7
8	青葉区	下愛子のかんざしざくら	カンザシザクラ	平成 6 年 2 月 24 日	—	4.3	1.1
9	青葉区	せいざん (愛子) の臥龍梅	ウメ	平成 28 年 2 月 9 日	420 年	1.75	1.96
10	青葉区	同慶寺のいろはもみじ	イロハモミジ	平成 6 年 2 月 24 日	—	14.0	3.3
11	青葉区	弥勒寺のいちょう	イチョウ	平成 6 年 2 月 24 日	350 年	26.0	5.2
12	青葉区	弥勒寺のかつら	カツラ	平成 6 年 2 月 24 日	—	22.0	6.0
13	青葉区	弥勒寺のさるすべり	サルスベリ	平成 6 年 2 月 24 日	150 年	8.4	1.4

出典：「杜の都の名木・古木」（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）



凡例

- 対象事業実施区域
- 杜の都の名木・古木
- 市区町境界線



出典：「せんだいくらしのマップ」（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）

図 3.1-27 立地上配慮を要する植物の状況

## (2) 動物

### ① 注目すべき動物の状況

法令や規制等の選定基準に基づき、資料調査で確認した動物相について、重要な種を抽出した。なお、文献⑧については、仙台市全域を対象としていることから、地域区分が「西部丘陵地・田園地域」（表 3.1-75 参照）とされている減少種又は種の分布地として、調査範囲内の地域が示されている学術上重要な種及び環境指標種等を抽出した。

動物相に係る収集文献一覧を表 3.1-72 に、重要な種の選定基準を表 3.1-73～表 3.1-75 に示す。また、資料調査で確認した動物相の概要を表 3.1-76 に示す。

表 3.1-72 収集文献一覧（動物相）

文献番号	文献名	備考
①	自然環境保全基礎調査 動物分布調査（生物多様性調査・種の多様性調査）（環境省生物多様性センターHP、平成 29 年 7 月閲覧）	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類
②	日本におけるオオタカの生息分布（1996 年～2000 年）（環境省報道発表資料、平成 17 年）	鳥類（オオタカ）
③	鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き（環境省自然環境局野生生物課、平成 27 年 9 月修正版）	鳥類（イヌワシ、クマタカ、ハクチョウ類、ガン・カモ類）
④	宮城県の野生哺乳動物（宮城野野生動物研究会、平成 8 年 8 月）	哺乳類
⑤	宮城県の鳥類分布 2002 年（(財)日本野鳥の会宮城県支部、平成 14 年）	鳥類
⑥	宮城県猛禽類生息状況調査（環境影響生物基礎調査業務）報告書（宮城県環境生活部自然保護課、平成 28 年 1 月）	鳥類（猛禽類）
⑦	宮城県の両生類・は虫類（宮城野野生動物研究会、平成 12 年 10 月）	爬虫類、両生類
⑧	平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書（仙台市、平成 29 年 3 月）	減少種については、「西部丘陵地・田園地域」に該当する種を抽出した。

表 3.1-73 重要な種の選定基準（国・宮城県）

一	番号	判断基準	記号等	カテゴリー
レ ッド リ ス ト 等	I	文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号） 宮城県文化財保護条例（昭和 50 年宮城県条例第 49 号） 仙台市文化財保護条例（昭和 37 年仙台市条例第 27 号）	特天	特別天然記念物
			天然	天然記念物
			県天	県指定天然記念物
			市天	市指定天然記念物
	II	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成 4 年法律第 75 号）	国内	国内希少野生動物種
			国際	国際希少野生動物種
			緊急	緊急指定種
	III	環境省レッドリスト 2019 の公表について （環境省、平成 31 年 1 月）	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR+EN	絶滅危惧 I 類
			VU	絶滅危惧 II 類
			NT	準絶滅危惧
			DD	情報不足
			LP	絶滅のおそれのある地域個体群
	IV	宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 －RED DATA BOOK MIYAGI 2016－ （宮城県、平成 28 年 3 月）	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR+EN	絶滅危惧 I 類
			VU	絶滅危惧 II 類
			NT	準絶滅危惧
			DD	情報不足
LP			絶滅のおそれのある地域個体群	
要	要注目種			

表 3.1-74 保全上重要な種の選定基準（仙台市）

一	番号	カテゴリー	記号等	説明
仙 台 市 に お け る 保 全 上 重 要 な 種 の 区 分	V	学術上重要種	学 1	学術上重要種。仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種、あるいは生息地・生育地がごく限られている種。
			学 2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限等の分布限界となる種。
			学 3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種。
			学 4	上記の 1、2、3 には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている個体群が存在する種など）。
	減少種 <sup>※1</sup>	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。	
		EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。	
		A	現在、ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。	
		B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。	
		C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。	
		+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種。	
		/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい。	
	・	判断に資する情報がない。		
	環境指標種	○	本市の各環境分類における環境を指標する種（ピオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標）。	

※1) 減少種の地域区分は表 3.1-75 に示す。

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年 3 月）



表 3.1-75 減少種の地域区分

番号	地域区分	地域区分図
(1)	山地地域	
(2)	西部丘陵地・田園地域	
(3)	市街地地域	
(4)	東部田園地域	
(5)	海浜地域（後背の樹林も含む）	

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年 3 月）

「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020 改定版」（仙台市、平成 28 年 3 月）

表 3.1-76 資料調査で確認した動物相の概要

分類	確認種数	主な確認種
哺乳類	7 目 16 科 42 種	ジネズミ、キクガシラコウモリ、ノウサギ、アカネズミ、ツキノワグマ、タヌキ、テン 等
鳥類	16 目 48 科 191 種	キジ、オオハクチョウ、マガモ、ゴイサギ、イソシギ、トビ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、イワツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、マミジロ、スズメ、カワラヒワ 等
爬虫類	2 目 6 科 12 種	ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、シマヘビ、ヤマカガシ、ニホンマムシ 等
両生類	2 目 6 科 17 種	トウホクサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル 等
昆虫類	9 目 69 科 334 種	アオイトトンボ、エゾイトトンボ、モノサシトンボ、ハグロトンボ、ギンヤンマ、オニヤンマ、シオカラトンボ、アキアカネ、アブラゼミ、ヒメアメンボ、イチモンジセセリ、ベニシジミ、オオムラサキ、モンキチョウ、ハンミョウ、ゲンゴロウ、ミズスマシ、コクワガタ、タマムシ、ゲンジボタル 等
淡水魚類	10 目 13 科 50 種	スナヤツメ類、コイ、ドジョウ、ミナミメダカ、カジカ、ブルーギル、ジュズカケハゼ 等

a. 哺乳類

資料調査で確認した哺乳類は7目16科42種であり、このうち5目11科29種が重要な種であった。

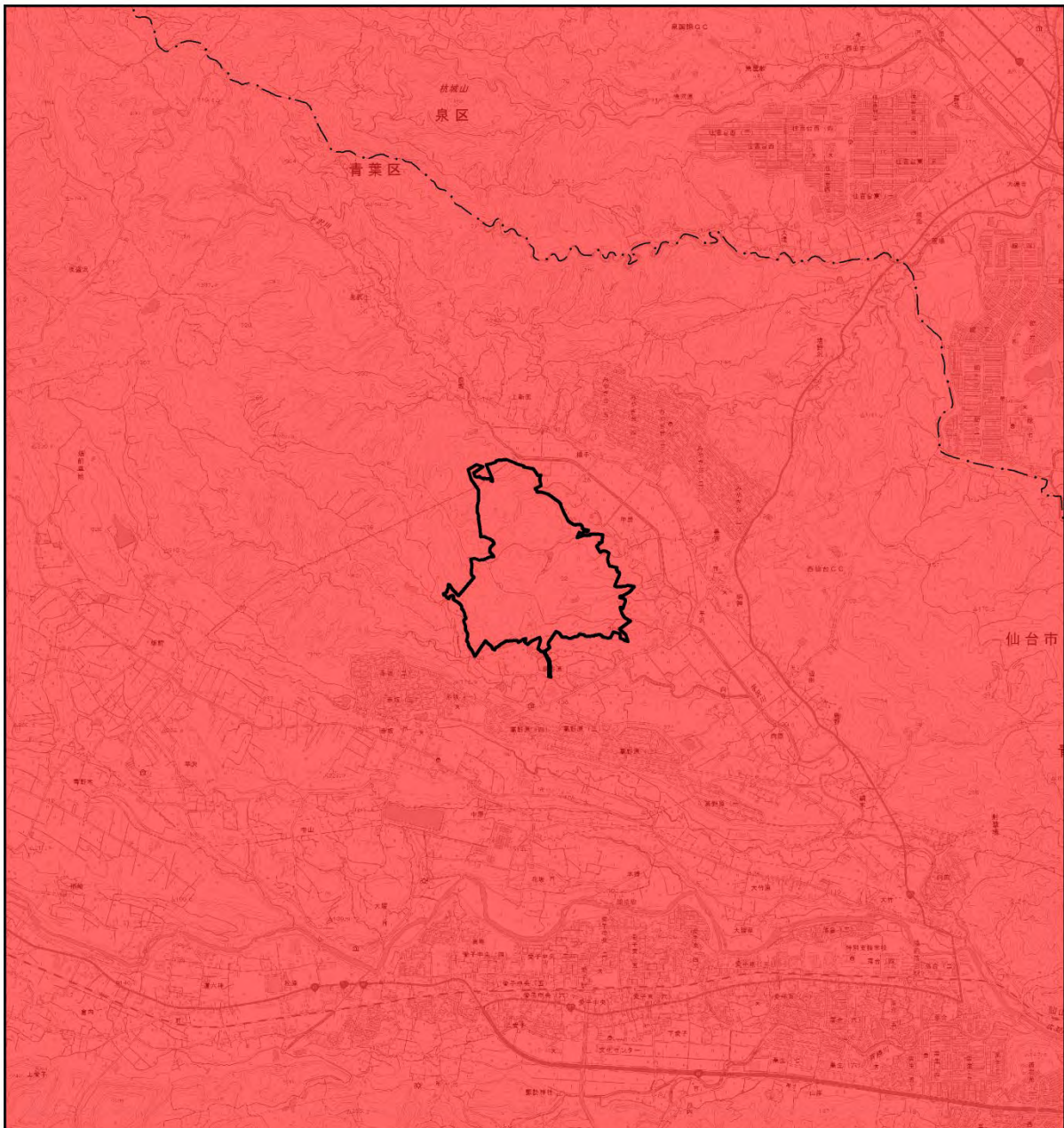
哺乳類の重要な種の一覧を表3.1-77に、重要な種のうち生息範囲の情報が得られた種の生息範囲を図3.1-28に示す。なお、哺乳類の確認種一覧は資料編に掲載した。

表 3.1-77 資料調査で確認した重要な種（哺乳類）

目名	科名	種名	収集文献 <sup>※1</sup>			選定基準 <sup>※2</sup>						
			①	④	⑧	I	II	III	IV	V		
										学術上 重要種	減少種	環境 指標種
モグラ	トガリネズミ	シントウトガリネズミ			●				DD		C	○
		ホンシュウジネズミ			●						C	○
		カワネズミ			●				DD	1, 4	B	○
	モグラ	ヒメヒミズ			●					1	・	○
		ミズラモグラ			●			NT	NT	1, 4	・	
コウモリ	キクガシラコウモリ	コキクガシラコウモリ	●	●	●					1	C	○
		キクガシラコウモリ	●	●	●					1	C	○
	ヒナコウモリ	ヒメホオヒゲコウモリ			●				VU	1, 4	・	○
		カグヤコウモリ			●				CR+EN	1, 4	・	○
		モモジロコウモリ	●	●	●					1, 4	C	○
		モリアブラコウモリ			●			VU	CR+EN	1, 4	・	○
		ヤマコウモリ			●			VU	VU	1, 4	C	○
		ヒナコウモリ			●				VU	1, 4	C	○
		ウサギコウモリ	●		●				VU	1, 4	C	○
		ユビナガコウモリ	●		●					1, 4	C	○
		コテングコウモリ			●					1, 4	C	○
		テングコウモリ	●		●				VU	1, 4	C	○
ネズミ	リス	ホンドモモンガ			●					1, 4	・	
		ムササビ	●		●					1, 4	C	○
	ヤマネ	ヤマネ			●	天然		NT	1, 4	・		
	ネズミ	ヤチネズミ			●					4	+	
		ハタネズミ	●		●						C	○
	ヒメネズミ	●		●						+	○	
ネコ	クマ	ツキノワグマ	●	●	●					4	C	
	イヌ	タヌキ	●	●	●						+	○
	イタチ	テン	●	●	●						C	○
		イタチ	●		●						C	○
		オコジョ			●			NT	NT	1, 4	・	
ウシ	ウシ	カモシカ	●	●	●	特天			要	4	・	○
5目	11科	29種	14種	7種	29種	2種	0種	4種	13種	22種	29種	23種

※1) 収集文献の欄に記載した番号は表3.1-72と対応する。

※2) 選定基準の欄に記載した番号等は表3.1-73及び表3.1-74と対応する。

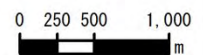


凡例

- 対象事業実施区域
- 生息確認
- 市区町境界線



1:50,000



出典：「自然環境保全基礎調査 動物分布調査（生物多様性調査・種の多様性調査）」  
 （環境省生物多様性センターHP、平成 29 年 7 月閲覧）

図 3.1-28 資料調査で確認した重要な種（カモシカ）

b. 鳥類

資料調査で確認した鳥類は 16 目 48 科 191 種であり、このうち 16 目 36 科 92 種が重要な種であった。

鳥類の重要な種の一覧を表 3.1-78 に、重要な種のうち生息範囲の情報が得られた種の生息範囲を図 3.1-29 に示す。なお、鳥類の確認種一覧は資料編に掲載した。

表 3.1-78(1) 資料調査で確認した重要な種（鳥類）

目名	科名	種名	収集文献※1						選定基準※2								
			①	②	③	⑤	⑥	⑧	I	II	III	IV	V				
													学術上重要種	減少種	環境指標種		
キジ	キジ	ウズラ						●				VU	CR+EN	1, 4	A		
		ヤマドリ	●			●		●						1, 4	C	○	
カモ	カモ	ヒシクイ				●		●	天然			VU	NT		・		
		マガン						●	天然			NT		1, 4	・		
		コクガン						●	天然			VU	VU	1, 2, 4	/		
		オシドリ	●			●		●				DD		1, 4	C		
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	●			●	●							C	○		
ハト	ハト	シラコバト				●					EN						
ペリカン	サギ	サンカノゴイ						●				EN	NT	1	B		
		ヨシゴイ	●					●				NT	NT	1, 4	C	○	
		オオヨシゴイ						●				CR	CR+EN	1, 4	・		
		ミゾゴイ				●		●				VU	NT	1, 4	B		
		アマサギ						●						4	・	○	
		チュウサギ				●		●				NT		1, 2, 4	C		
ツル	クイナ	クイナ						●					要	1, 4	C		
		ヒクイナ	●			●		●				NT	CR+EN	1, 4	C		
		バン	●					●						1, 4	C	○	
		オオバン	●					●							・		
カッコウ	カッコウ	ホトギス	●			●		●						1, 4	+	○	
		カッコウ	●			●		●						1, 4	C	○	
ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	●			●		●			NT	NT	1, 4	C	○		
アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	●			●						要					
チドリ	チドリ	イカルチドリ	●			●		●						1, 4	C	○	
		シロチドリ	●					●				VU	NT	1, 4	・	○	
	シギ	オオジシギ	●			●		●				NT	NT	1, 4	B		
		ホウロクシギ						●		国際		VU	NT	1, 4	・		
		ツルシギ						●				VU		1, 4	・		
		アカアシシギ						●				VU		1	・		
		ハマシギ						●				NT		1, 4	・	○	
	ヘラシギ						●				CR	VU	1	・			
	カモメ	コアジサシ						●				VU	VU	1, 2, 4	・		
	ウミスズメ	ウミスズメ						●				CR		1, 4	/		
タカ	ミサゴ	ミサゴ				●	●	●				NT		1, 4	・	○	
	タカ	ハチクマ				●	●	●				NT	NT	1, 4	C		
		オジロワシ				●		●	天然	国内		VU	VU	1, 2, 4	B		
		オオワシ						●	天然	国内		VU	VU	1, 2, 4	・		
		チュウヒ				●		●				EN	NT	1, 4	C	○	
		ツミ				●	●	●				DD		1, 4	C		
		ハイタカ	●			●	●	●				NT	NT	1, 4	C		
オオタカ		●		●	●	●				NT	NT	1, 4	C	○			

表 3.1-78(2) 資料調査で確認した重要な種 (鳥類)

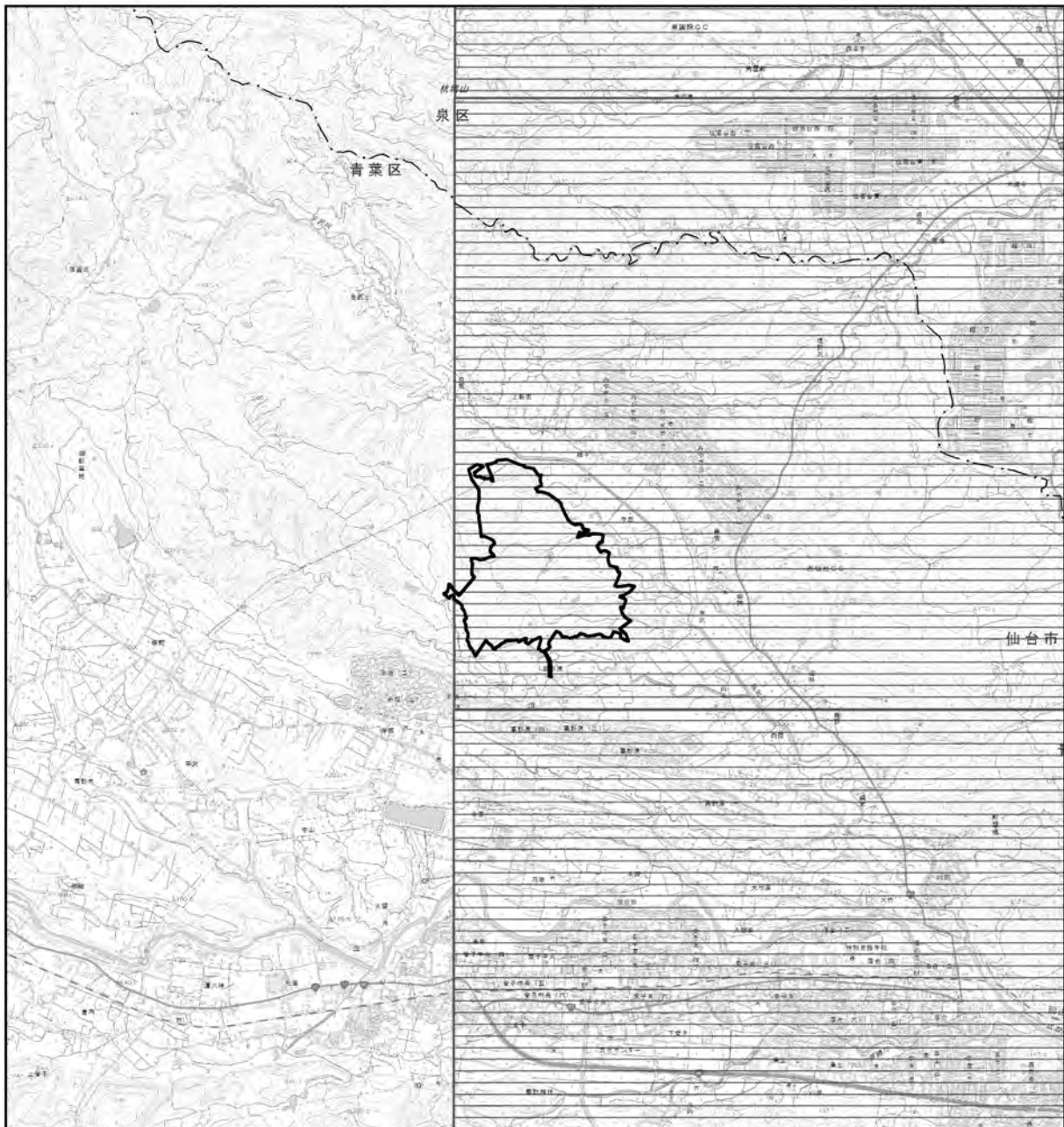
目名	科名	種名	収集文献※1						選定基準※2								
			①	②	③	⑤	⑥	⑧	I	II	III	IV	V				
													学術上 重要種	減少種	環境 指標種		
タカ	タカ	サシバ	●			●	●	●				VU	VU	1, 4	C		
		ノスリ	●			●		●							C	○	
		イヌワシ			●			●	天然	国内	EN	CR+EN		1, 4	・	○	
		クマタカ			●	●	●	●		国内	EN	CR+EN		1, 4	・	○	
フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	●			●		●					要	1	C		
		コノハズク				●		●					要	1	C	○	
		フクロウ	●			●		●						1	C	○	
		アオバズク	●			●		●				VU		1	C	○	
		トラフズク						●						1	・		
		コミミズク						●					要	1	B	○	
ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	●			●		●					要	1	・		
		カワセミ	●			●		●					1, 4	C	○		
		ヤマセミ	●			●		●				要	1, 4	・	○		
	ブッポウソウ	ブッポウソウ				●					EN						
キツツキ	キツツキ	アカゲラ	●			●		●						C			
		アオゲラ	●			●		●						C	○		
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	●			●		●						1, 4	C		
		チゴハヤブサ				●		●					要		・		
		ハヤブサ	●			●	●	●		国内 国際	VU	NT	1, 4	B			
スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	●			●		●				VU	VU		C		
	カササギヒタキ	サンコウチョウ	●			●		●						1	C	○	
	モズ	チゴモズ	●					●				CR	CR+EN	1, 4	B		
		モズ	●			●		●						1	C	○	
		アカモズ	●			●		●				EN	CR+EN	1, 4	B		
	ヒバリ	ヒバリ	●			●		●							C	○	
	ツバメ	ツバメ	●			●		●							C	○	
	ウグイス	ウグイス	●			●		●						1, 4	+	○	
	ムシクイ	センダイムシクイ	●			●		●							C	○	
	センニュウ	マキノセンニュウ				●							NT				
		オオセッカ						●		国内	EN	VU		1, 3, 4	・		
	ヨシキリ	オオヨシキリ	●			●		●						1, 4	C	○	
		コヨシキリ	●			●		●						1, 4	C	○	
	セッカ	セッカ	●			●		●						1, 4	C	○	
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	●			●		●							・	○	
	カワガラス	カワガラス	●			●		●							C	○	
	ヒタキ	トラツグミ	●			●		●								C	○
		クロツグミ	●			●		●						1, 4	C	○	
		シロハラ	●			●		●							C	○	
		コルリ	●			●		●						1, 4	C	○	
		ルリビタキ	●			●		●							C		
		コサメビタキ	●			●		●							・	○	
		キビタキ	●			●		●							C	○	
オオルリ		●			●		●						1, 4	C	○		
イワヒバリ	イワヒバリ				●						要						
セキレイ	キセキレイ	●			●		●						1, 4	C	○		
	セグロセキレイ	●			●		●						4	C			
ホオジロ	ホオジロ	●			●		●							+	○		
	ホオアカ	●			●		●							C	○		
	ノジロ	●			●		●				NT	要	1, 4	C			

表 3.1-78(3) 資料調査で確認した重要な種（鳥類）

目名	科名	種名	収集文献※1						選定基準※2								
			①	②	③	⑤	⑥	⑧	I	II	III	IV	V				
														学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
スズメ	ホオジロ	アオジ	●			●		●							C	○	
		コジュリン						●			VU	VU	1, 4	・			
16 目	36 科	92 種	56 種	1 種	2 種	67 種	8 種	87 種	6 種	7 種	41 種	41 種	65 種	87 種	47 種		

※1) 収集文献の欄に記載した番号は表 3.1-72 と対応する。

※2) 選定基準の欄に記載した番号等は表 3.1-73 及び表 3.1-74 と対応する。



凡例

- 

出典：「宮城県猛禽類生息状況調査（環境影響生物基礎調査業務）報告書」  
 （宮城県環境生活部自然保護課、平成 28 年 1 月）

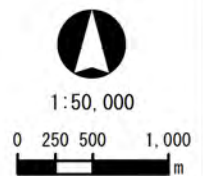
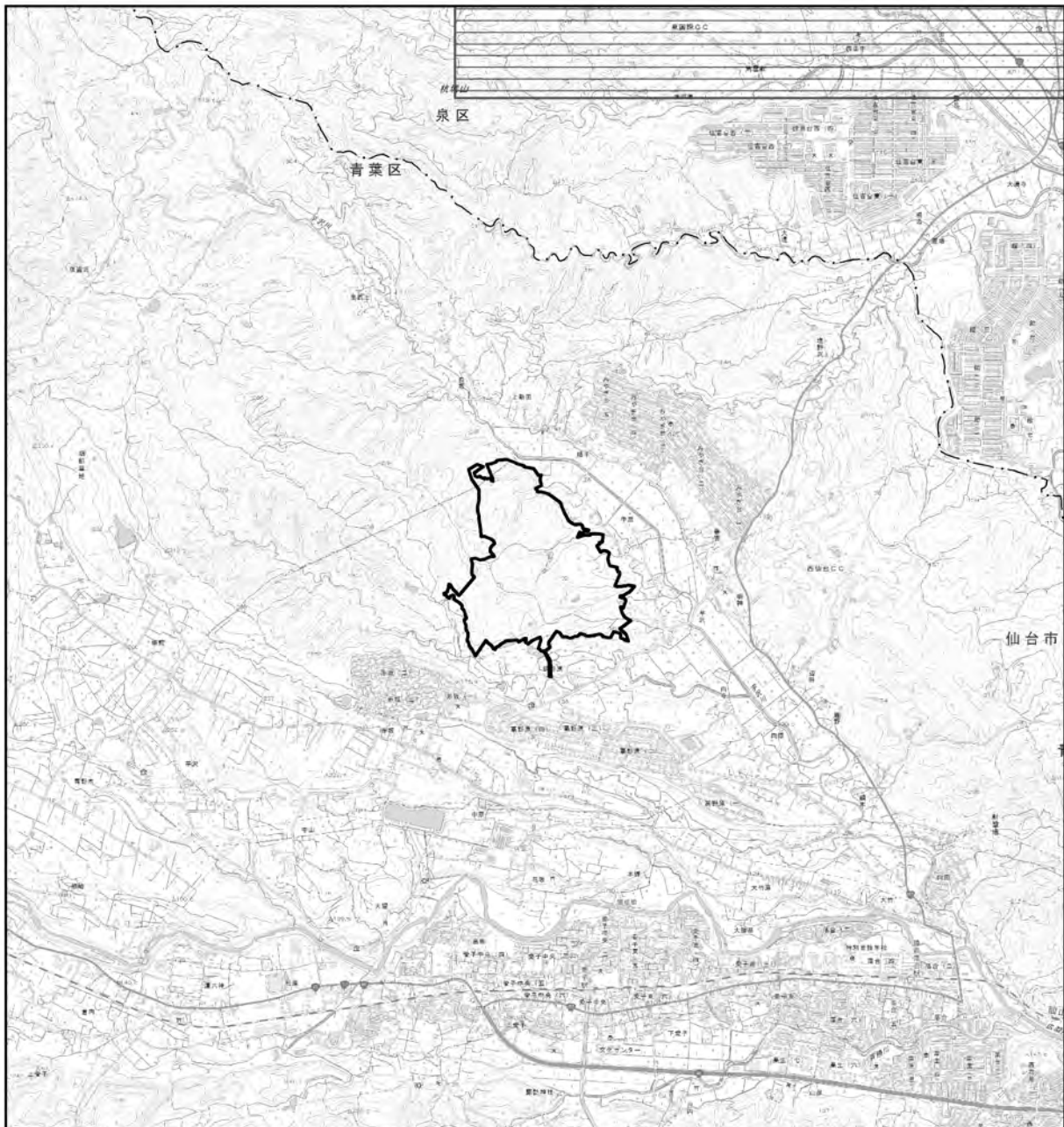


図 3.1-29(1) 資料調査で確認した重要な種（ミサゴ）

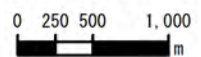


凡例

- 対象事業実施区域 文献⑥
- 市区町境界線 生息情報あり



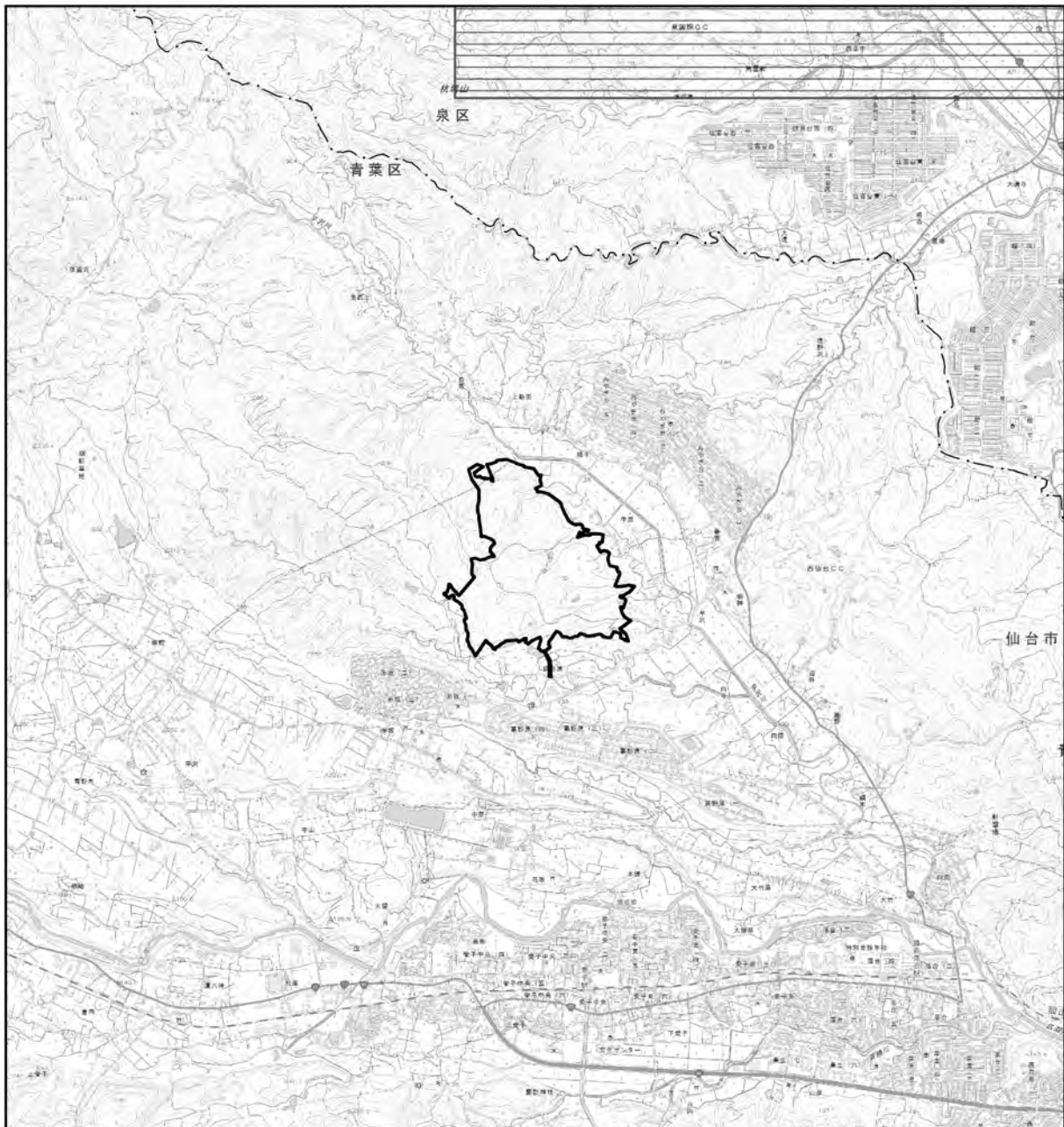
1:50,000



出典：「宮城県猛禽類生息状況調査（環境影響生物基礎調査業務）報告書」  
 （宮城県環境生活部自然保護課、平成28年1月）

図 3.1-29(2) 資料調査で確認した重要な種（ハチクマ）



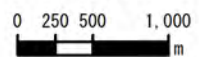


凡例

- 対象事業実施区域 文献⑥
- 市区町境界線
- 生息情報あり



1:50,000



出典：「宮城県猛禽類生息状況調査（環境影響生物基礎調査業務）報告書」  
（宮城県環境生活部自然保護課、平成28年1月）

図 3.1-29(3) 資料調査で確認した重要な種（ツミ）

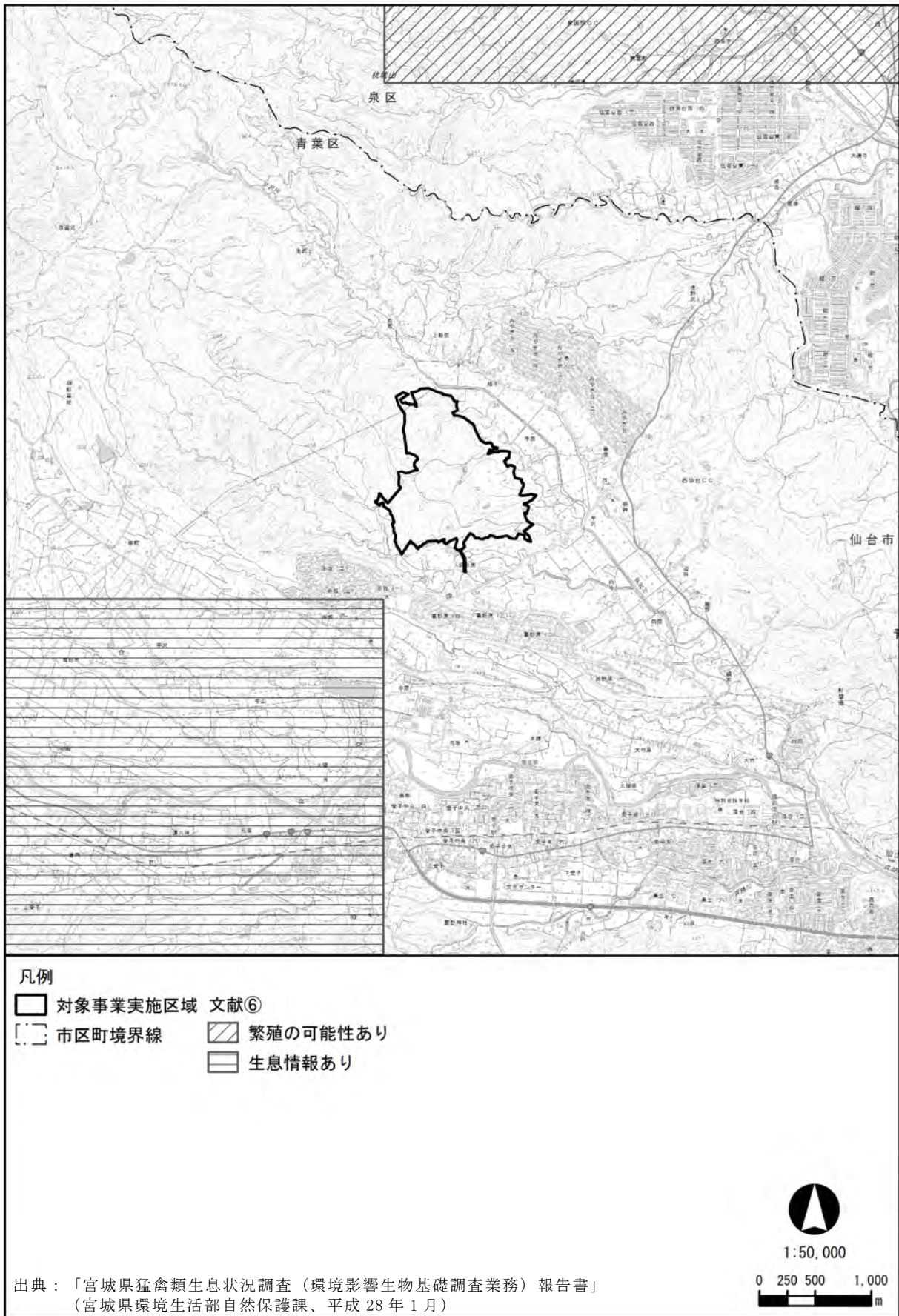
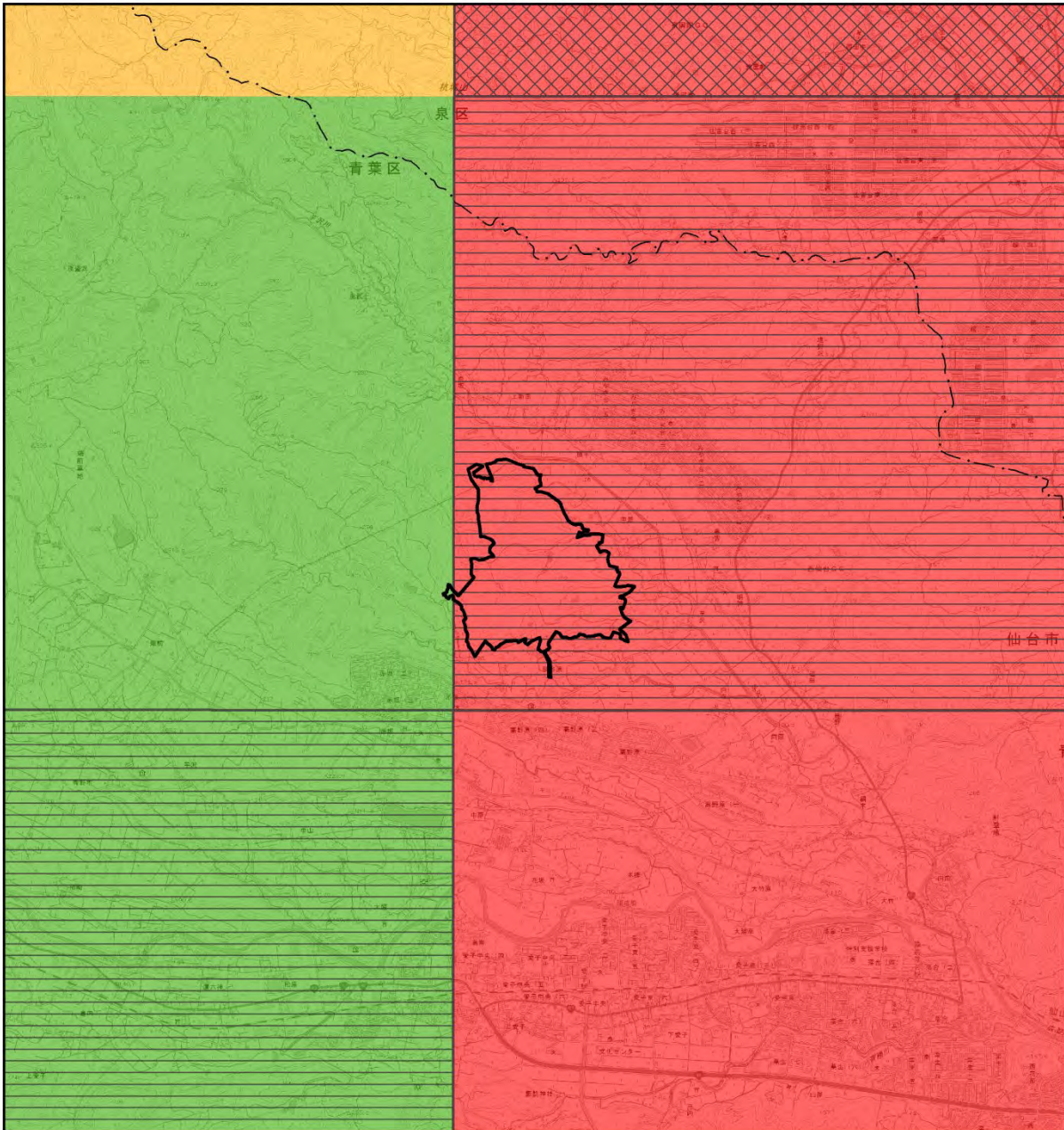


図 3.1-29(4) 資料調査で確認した重要な種（ハイタカ）



凡例

□ 対象事業実施区域 文献②	文献⑥
⋯ 市区町境界線	繁殖を確認
■ 生息を確認し、繁殖の可能性あり	繁殖情報あり
■ 生息を確認したが、繁殖は不明	生息情報あり

出典：「日本におけるオオタカの生息分布（1996年～2000年）」  
 （環境省報道発表資料、平成17年）  
 「宮城県猛禽類生息状況調査（環境影響生物基礎調査業務）報告書」  
 （宮城県環境生活部自然保護課、平成28年1月）


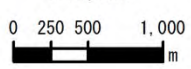
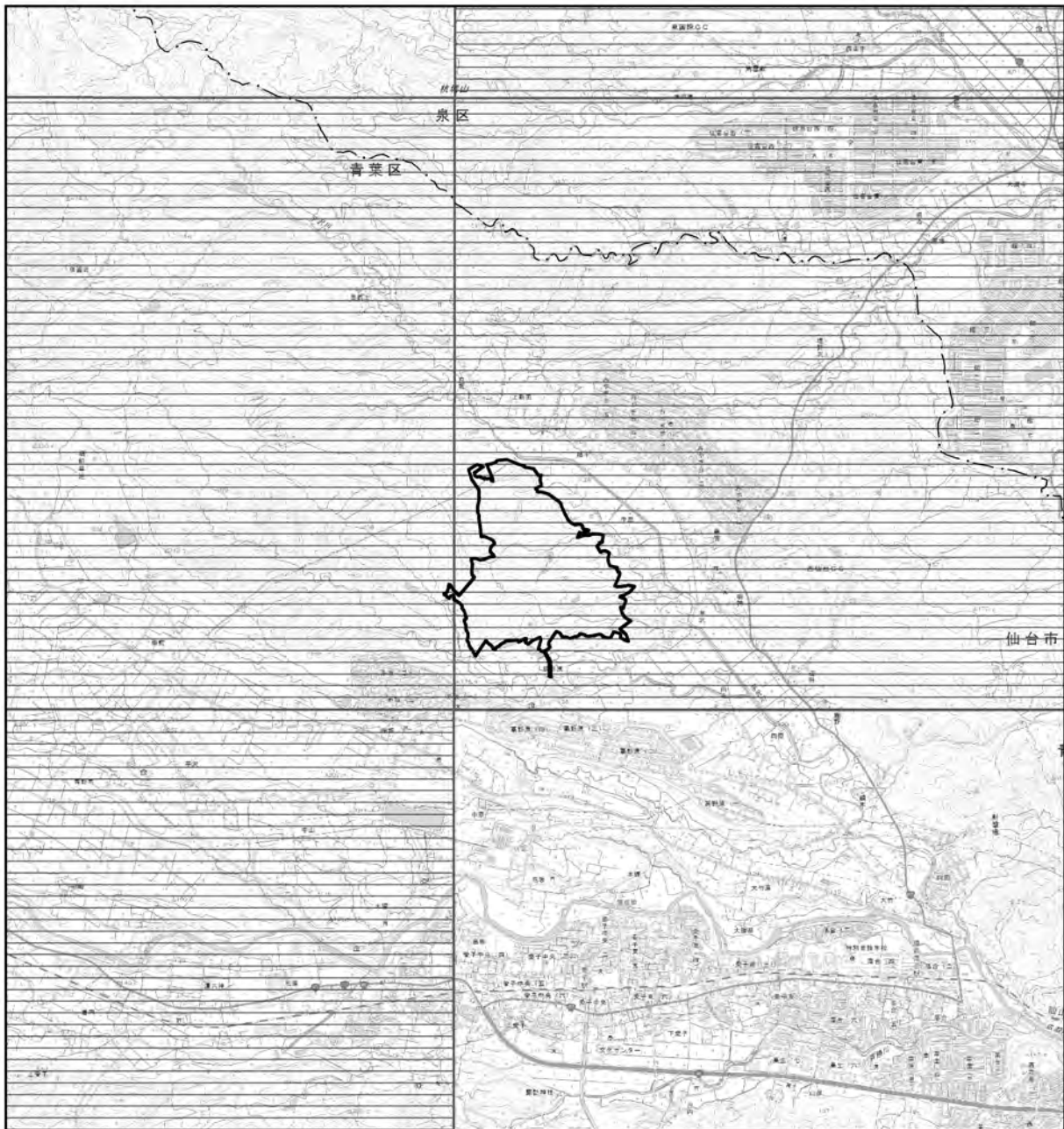
  
 1:50,000  


図 3.1-29(5) 資料調査で確認した重要な種（オオタカ）

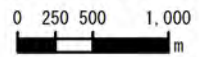


凡例

- 対象事業実施区域 文献⑥
- 市区町境界線
- 生息情報あり



1:50,000



出典：「宮城県猛禽類生息状況調査（環境影響生物基礎調査業務）報告書」  
 （宮城県環境生活部自然保護課、平成 28 年 1 月）

図 3.1-29(6) 資料調査で確認した重要な種（サシバ）

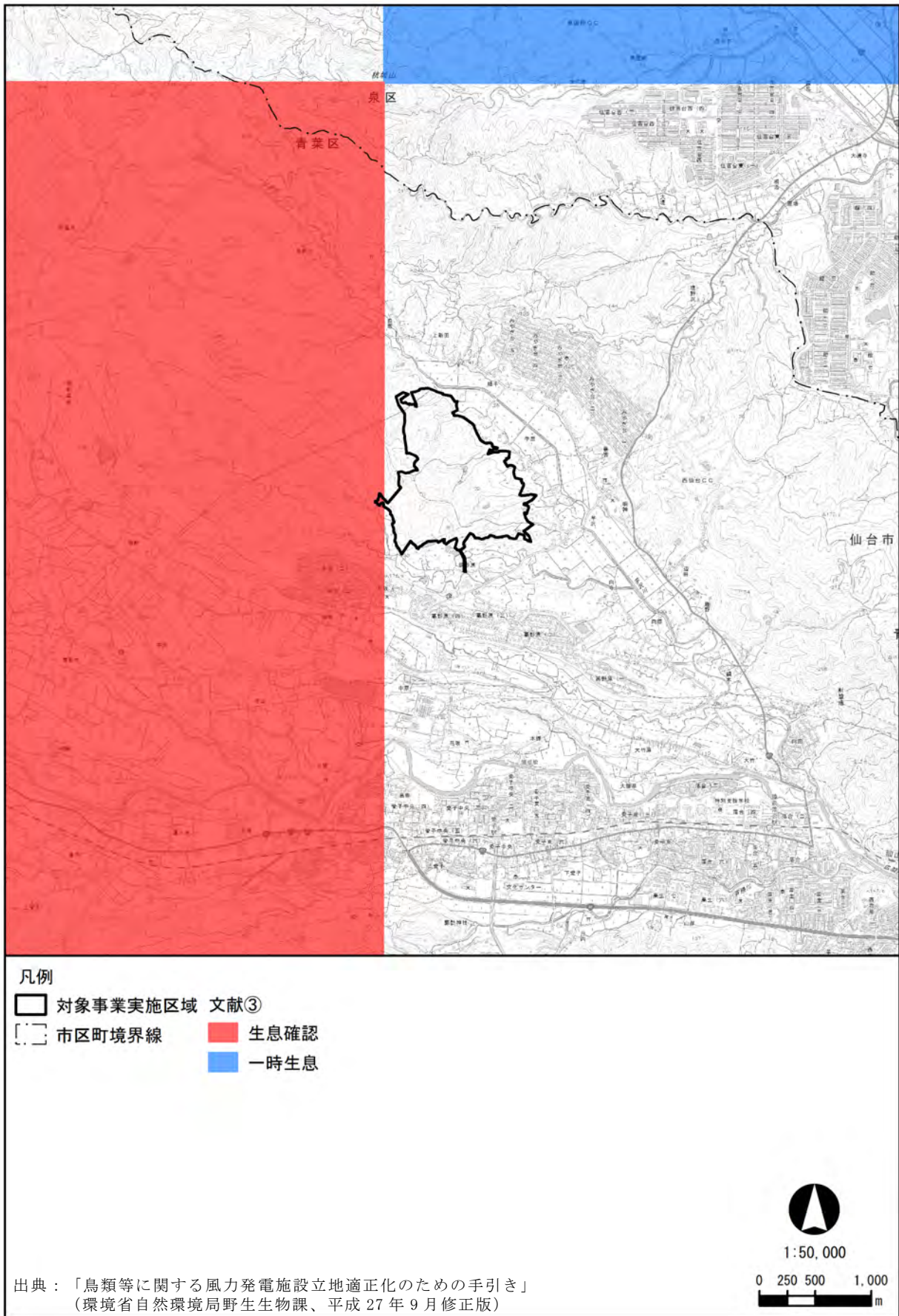
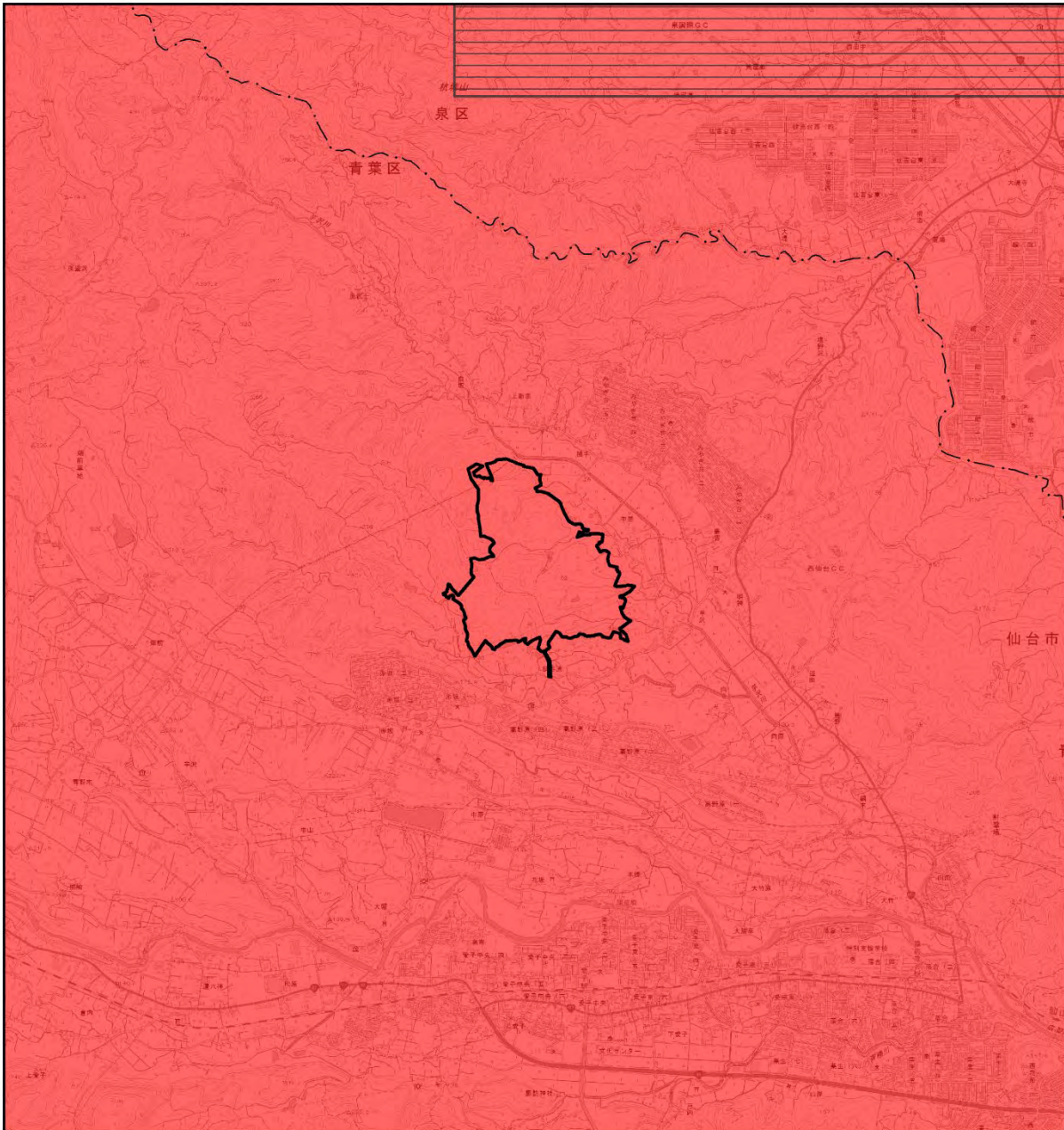






図 3.1-29(7) 資料調査で確認した重要な種 (イヌワシ)



凡例

	対象事業実施区域	文献③	文献⑥
	市区町境界線		生息確認
			生息情報あり

出典：「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」  
 (環境省自然環境局野生生物課、平成 27 年 9 月修正版)  
 「宮城県猛禽類生息状況調査(環境影響生物基礎調査業務)報告書」  
 (宮城県環境生活部自然保護課、平成 28 年 1 月)



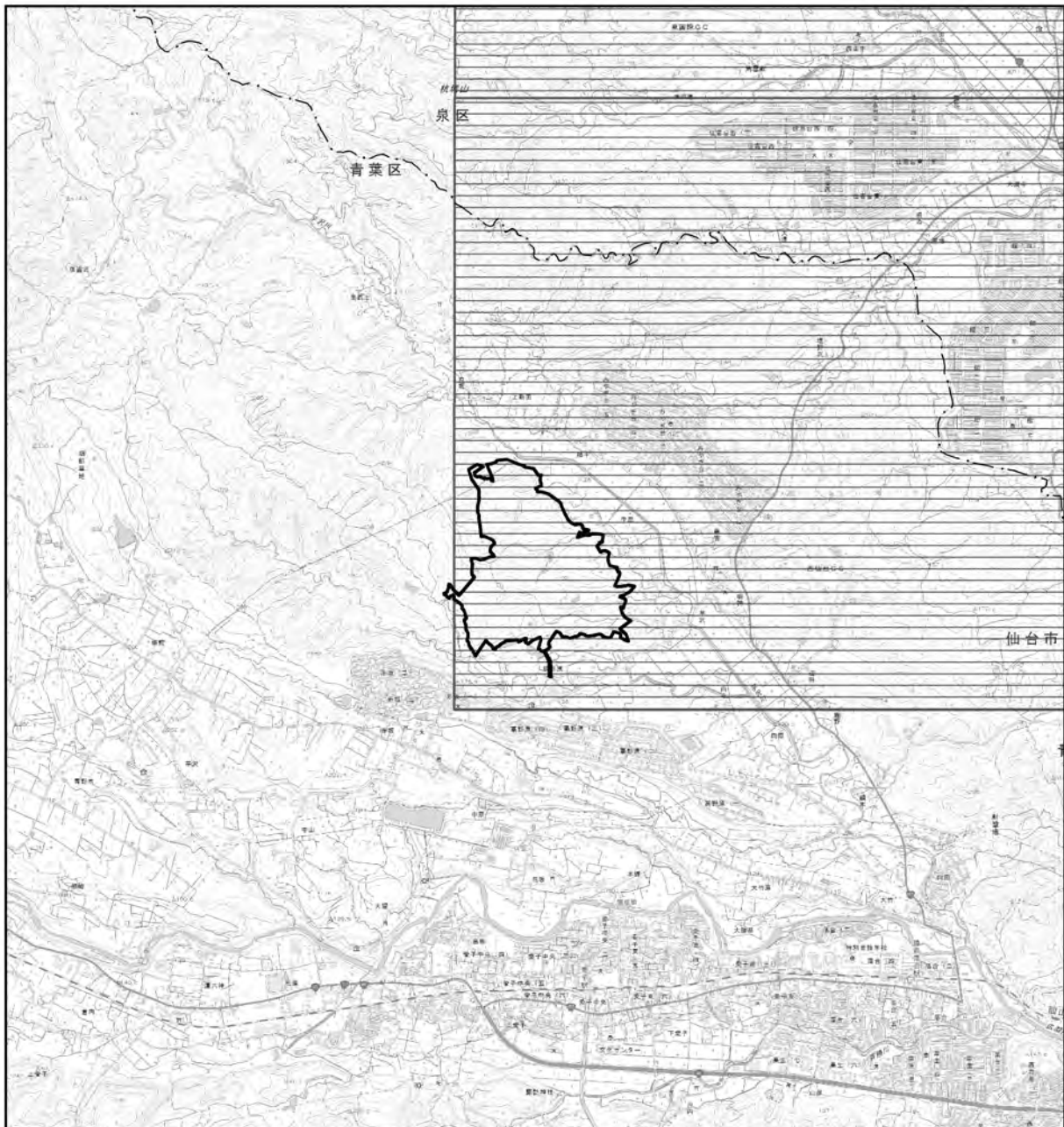
  
 1:50,000  
  
 0 250 500 1,000 m

図 3.1-29(8) 資料調査で確認した重要な種(クマタカ)



凡例

- 

出典：「宮城県猛禽類生息状況調査（環境影響生物基礎調査業務）報告書」  
 （宮城県環境生活部自然保護課、平成 28 年 1 月）

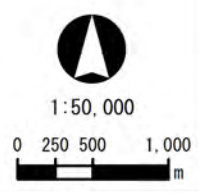


図 3.1-29(9) 資料調査で確認した重要な種（ハヤブサ）

c. 爬虫類

資料調査で確認した爬虫類は2目6科12種であり、このうち1目5科9種が重要種であった。

爬虫類の重要な種の一覧を表 3.1-79 に示す。なお、爬虫類の確認種一覧は資料編に掲載した。

表 3.1-79 資料調査で確認した重要な種（爬虫類）

目名	科名	種名	収集文献 <sup>※1</sup>			選定基準 <sup>※2</sup>							
			①	⑦	⑧	I	II	III	IV	V			
										学術上重要種	減少種	環境指標種	
有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ			●						1	C	○
	カナヘビ	ニホンカナヘビ	●	●	●							+	○
	タカチホヘビ	タカチホヘビ	●		●				DD	1	・		
	ナミヘビ	アオダイショウ	●		●							+	○
		ジムグリ	●		●							+	○
		シロマダラ			●				DD	1	C		
		ヒバカリ	●		●							C	○
		ヤマカガシ	●	●	●							+	○
	クサリヘビ	ニホンマムシ	●	●	●							C	
1目	5科	9種	7種	3種	9種	0種	0種	0種	2種	3種	9種	6種	

※1) 収集文献の欄に記載した番号は表 3.1-72 と対応する。

※2) 選定基準の欄に記載した番号等は表 3.1-73 及び表 3.1-74 と対応する。



d. 両生類

資料調査で確認した両生類は2目6科17種であり、このうち2目6科14種が重要種であった。

両生類の重要な種の一覧を表 3.1-80 に示す。なお、両生類の確認種一覧は資料編に掲載した。

表 3.1-80 資料調査で確認した重要な種（両生類）

目名	科名	種名	収集文献※ <sup>1</sup>			選定基準※ <sup>2</sup>							
			①	⑦	⑧	I	II	III	IV	V			
										学術上重要種	減少種	環境指標種	
有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	●	●	●			NT	NT	4	C	○	
		クロサンショウウオ	●	●	●			NT	LP		C	○	
		キタオウシュウサンショウウオ			●				NT	2	C	○	
	イモリ	アカハライモリ	●	●	●			NT	LP		C	○	
無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	●	●	●						C		
	アマガエル	ニホンアマガエル	●	●	●						+	○	
	アカガエル	タゴガエル	●	●	●							C	
		ニホンアカガエル	●	●	●							+	
		トノサマガエル	●					NT	要				
		トウキョウダルマガエル	●		●			NT	NT			C	○
		ツチガエル	●	●	●				NT			C	○
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	●	●	●							+	○
		モリアオガエル	●		●							B	○
カジカガエル		●	●	●							+	○	
2目	6科	14種	13種	10種	13種	0種	0種	5種	7種	2種	13種	10種	

※1) 収集文献の欄に記載した番号は表 3.1-72 と対応する。

※2) 選定基準の欄に記載した番号等は表 3.1-73 及び表 3.1-74 と対応する。

e. 昆虫類

資料調査で確認した昆虫類は 9 目 68 科 334 種であり、このうち 8 目 56 科 132 種が重要種であった。

昆虫類の重要な種の一覧を表 3.1-81 に示す。なお、昆虫類の確認種一覧は資料編に掲載した。

表 3.1-81(1) 資料調査で確認した重要な種（昆虫類）

目名	科名	種名	収集文献 <sup>*1</sup>		選定基準 <sup>*2</sup>								
			①	⑧	I	II	III	IV	V				
									学術上重要種	減少種	環境指標種		
トンボ	イトトンボ	ヒヌマイトンボ		●				EN	CR+EN	1, 2	EX		
		モートシイトトンボ	●					NT					
	ムカシトンボ	ムカシトンボ		●						1, 4	+	○	
	ヤンマ	ネアカヨシヤンマ		●				NT	NT			/	
		マダラヤンマ		●				NT	NT			・	
		マルタンヤンマ		●					NT			・	
		カトリヤンマ	●	●					CR+EN	1	B		
	サナエトンボ	ウチワヤンマ		●							1	C	
		ヒメサナエ		●					VU		1	・	
		ナゴヤサナエ		●				VU	CR+EN	1, 2	・		
	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ	●	●						1, 4	C	○	
	エゾトンボ	オオトラフトンボ		●					VU		1	C	
		タカネトンボ	●						CR+EN				
		エゾトンボ		●					VU			・	
	トンボ	ハッチョウトンボ	●	●					VU		1	B	○
		コノシメトンボ		●					CR+EN		1	A	
		キトンボ		●					VU		1	A	
		ナツアカネ	●	●								C	○
		マユタテアカネ	●	●								C	○
		アキアカネ	●	●								C	○
ノシメトンボ		●	●								C	○	
マイコアカネ		●	●								C	○	
ヒメアカネ		●	●					CR+EN		1	B		
ゴキブリ	オオゴキブリ		●					VU		・			
バッタ	マツムシ	ズムシ		●						1	B		
	ヒバリモドキ	ハマズ		●				CR+EN			・		
	バッタ	ヤマトマダラバッタ		●				VU		2	・	○	
		カワラバッタ		●				NT		1	・	○	
カメムシ	セミ	エゾゼミ	●	●							+	○	
	ヨコバイ	スナヨコバイ		●			NT	CR+EN			・		
	コオイムシ	コオイムシ		●			NT	NT	1	B			
		タガメ	●	●			VU	CR+EN	1	B		○	
アミメカゲロウ	ツノトンボ	キバネツノトンボ		●				VU		1	B		
		ツノトンボ	●	●				CR+EN		1	A		
	ウスバカゲロウ	カスリウスバカゲロウ		●				DD			・		
		オオウスバカゲロウ		●				CR+EN			・	○	
チョウ	ボクトウガ	ハイロボクトウ		●			NT				・		
	セセリチョウ	ホシチャバネセセリ	●	●			EN	VU	1	B			
		ギンイチモンジセセリ	●				NT						
		チャマダラセセリ	●	●			EN	CR+EN	1	A			
	シジミチョウ	スギタニルリシジミ本州亜種		●								・	○
		ジョウザンミドリシジミ	●	●								・	○

表 3.1-81(2) 資料調査で確認した重要な種（昆虫類）

目名	科名	種名	収集文献 <sup>*1</sup>		選定基準 <sup>*2</sup>							
			①	⑧	I	II	III	IV	V			
									学術上 重要種	減少種	環境 指標種	
チョウ	シジミチョウ	クロミドリシジミ		●						1	C	
		カラスシジミ		●				NT			・	
		クロシジミ		●				EN	CR+EN	1	A	
		ヒメシジミ本州・九州亜種	●					NT				
		フジミドリシジミ	●	●						1	・	○
	タテハチョウ	ウラギンシジミヒョウモン	●					VU				
		オオウラギンヒョウモン		●				CR	EX		EX	
		キマダラモドキ	●	●				NT	NT	1	・	
		ウラジャノメ本州亜種		●					DD	1, 2	・	
		ジャノメチョウ	●	●							C	○
		オオムラサキ	●	●				NT		1	C	○
		ギンボシヒョウモン本州亜種	●	●					CR+EN	1	A	
	アゲハチョウ	アオスジアゲハ	●	●						4	・	○
		ヒメギフチョウ本州亜種	●	●				NT	NT	1	B	○
	シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種		●				EN	CR+EN		EX	
	ツトガ	ゼニガサミズメイガ		●					NT		・	
	ヤママユガ	オナガミズアオ	●					NT				
	スズメガ	ヒメスズメ		●				NT	VU		・	
		ギンボシスズメ		●					CR+EN	1	A	
	シャチホコガ	タツカカモクメシャチホコ		●					NT	1, 2	・	
		クワヤマエグリシャチホコ		●				NT	NT	1	・	
	ヒトリガ	キバラヒトリ		●					NT	1	・	
	ドクガ	フタホシドクガ	●	●					NT	1	・	
	ヤガ	キスジウスキヨトウ		●				VU	NT		・	
		コシロシタバ		●				NT	VU	1	・	
		ヌマベウスキヨトウ		●				VU			・	
		ギンモンセダカモクメ		●				NT	DD	1	・	
		オガサワラヒゲヨトウ	●	●				EN	CR+EN	1	B	
		オオチャバネヨトウ		●				VU	NT		・	
		ギンモンアカヨトウ		●				VU			・	
コウチュウ	オサムシ	ハマベミズギワゴミムシ		●				VU		・		
		セアカオサムシ		●			NT	NT		・		
		ツヤキベリアオゴミムシ		●			VU	VU		・		
		キバナガミズギワゴミムシ		●				VU		・		
		ヤマトツクリゴミムシ		●					1	B		
		エチゴツクリゴミムシ		●			NT	NT		・		
		ギョウトクロミズギワゴミムシ		●			VU	DD		・		
		ヒョウタンゴミムシ		●				NT		・	○	
	ハンミョウ	カワラハンミョウ		●				EN	CR+EN	1	・	○
		ハンミョウ	●	●							B	
		ホソハンミョウ		●				VU	NT		・	
	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	●	●				VU	NT	1	・	
		シマゲンゴロウ	●	●				NT			・	
オオイチモンジシマゲンゴロウ			●				EN	VU	1	・		
ケシゲンゴロウ		●					NT					
エゾヒメゲンゴロウ		●	●					DD		・		
ミズスマシ	ヒメミズスマシ	●					EN					
	ミズスマシ	●					VU					
コガシラミズムシ	マダラコガシラミズムシ		●			VU	DD		・			
クワガタムシ	ネプトクワガタ本土亜種		●					DD		・		

表 3.1-81(3) 資料調査で確認した重要な種（昆虫類）

目名	科名	種名	収集文献※1		選定基準※2							
			①	⑧	I	II	III	IV	V			
									学術上重要種	減少種	環境指標種	
コウチュウ	クワガタムシ	ミヤマクワガタ	●	●							C	○
		コルリクワガタ	●					DD				
		オニクワガタ		●						1	・	○
		ノコギリクワガタ	●	●							C	○
	コガネムシ	アカマダラハナムグリ		●				DD	NT		・	
		ダイコクコガネ		●				VU	VU		・	
		ヤマトケシマグソコガネ		●					NT		・	
	コブスジコガネ	コブナシコブスジコガネ		●					NT		・	
	ナガハナノミ	タテスジヒメヒゲナガハナノミ		●					DD		・	
	タマムシ	タマムシ	●	●					NT	1, 2	B	
	コメツクムシ	カワイヒラアシコメツク		●					DD		・	
		スナサビキコリ		●					NT	2	・	
	ホタル	ゲンジボタル	●	●					NT	1	C	○
		ヒメボタル		●					NT		・	
		スジグロボタル		●					NT		・	
	オオキノコムシ	クロホシチビオオキノコ		●					DD	1	・	
	ゴミムシダマシ	ハマヒョウタンゴミムシダマシ		●							・	○
	カミキリムシ	ヤマトキモンハナカミキリ		●					VU		・	
		ヨツボシカミキリ		●				EN	CR+EN		・	
	ハムシ	ベニカメノコハムシ		●					NT		・	
タグチホソヒラタハムシ			●					VU		・		
シラハタミズクサハムシ			●					VU		・		
ヒゲナガゾウムシ	エゴヒゲナガゾウムシ		●					DD		・		
ハチ	クモバチ	アカゴシクモバチ		●							・	
		ムツボシクモバチ		●							・	
		チシマシロフクモバチ		●							・	
		ハイロクモバチ		●							・	
	ツチバチ	オオモンツチバチ		●				NT		・		
	ギングチバチ	ササキリギングチ		●				NT		・		
	ドロバチモドキ	ニッポンハナダカバチ		●				VU	CR+EN	・		
	アリマキバチ	アシジロヨコバイバチ		●					NT		・	
		ミヤギノヨコバイバチ		●					VU		・	
		キアシマエダテバチ		●					DD		・	
	フシダカバチ	キスジツチスガリ		●					VU	1	・	
	ムカシハナバチ	ホソメンハナバチ		●					CR+EN		・	
		ノウメンメンハナバチ		●							・	
	コハナバチ	アオスジハナバチ		●					CR+EN	1, 2	・	
	ハキリバチ	キヌゲハキリバチ		●					VU	1	・	
		マイマイツツハナバチ		●				DD	VU	1	・	
	コマユバチ	ウマノオバチ		●				NT		・		
8 目	56 科	132 種	42 種	122 種	0 種	0 種	50 種	90 種	51 種	122 種	27 種	

※1) 収集文献の欄に記載した番号は表 3.1-72 と対応する。

※2) 選定基準の欄に記載した番号等は表 3.1-73 及び表 3.1-74 と対応する。

f. 魚類

資料調査で確認した魚類は10目13科49種であり、このうち9目12科31種が重要種であった。

魚類の重要な種の一覧を表3.1-82に示す。なお、魚類の確認種一覧は資料編に掲載した。

表 3.1-82 資料調査で確認した重要な種（魚類）

目名	科名	種名	収集文献 <sup>※1</sup>		選定基準 <sup>※2</sup>						
			①	⑧	I	II	III	IV	V		
									学術上重要種	減少種	環境指標種
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類	●	●			VU	NT	1	B	
		カワヤツメ		●			VU	DD	1	/	
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ		●			EN	NT	1	B	○
コイ	コイ	ゲンゴロウブナ	●				EN				
		キンブナ	●	●			VU	NT <sup>※3</sup>		+	
		テツギョ		●				CR+EN	1	/	
		タナゴ		●			EN	CR+EN		EX	
		アカヒレタビラ		●			EN	CR+EN		EX	
		ゼニタナゴ		●			CR	CR+EN		EW	
		エゾウグイ	●	●			LP	VU	1, 4	/	
		ウグイ	●	●						+	○
		シナイモツゴ		●			CR	CR+EN	1, 4	/	
	ドジョウ	ドジョウ	●				DD				
	ホトケドジョウ	●	●			EN	NT	1	+	○	
ナマズ	ギギ	ギバチ	●	●			VU	NT	1	+	
サケ	アユ	アユ	●	●						+	○
	サケ	ニッコウイワナ	●	●			DD			B	
		サクラマス <sup>※4</sup>		●			NT	NT	1	・	○
		サクラマス(ヤマメ) <sup>※4</sup>	●	●			NT			+	○
ダツ	メダカ	ミナメダカ		●			VU	NT	1	A	○
	サヨリ	クルマサヨリ		●			NT	DD	1	/	
トゲウオ	トゲウオ	ニホンイトヨ		●			LP	DD	1, 4	/	
カサゴ	カジカ	カジカ	●	●			NT			+	○
		ウツセミカジカ(回遊型)		●			EN	VU	1	/	
スズキ	ハゼ	シロウオ		●			VU	VU		/	
		ヒモハゼ		●			NT	NT	1	/	○
		スミウキゴリ		●			LP		1	/	
		ヘビハゼ		●			DD	DD	1	/	
		エドハゼ		●			VU	VU	1, 2	/	
		ジュズカケハゼ	●				NT				
		マサゴハゼ		●			VU	CR+EN	1, 2	/	
アベハゼ		●				NT	2	/			
9目	12科	31種 <sup>※4</sup>	13種	28種 <sup>※4</sup>	0種	0種	28種	23種	19種	29種	9種

※1) 収集文献の欄に記載した番号は表3.1-72と対応する。

※2) 選定基準の欄に記載した番号等は表3.1-73及び表3.1-74と対応する。

※3) 河川のキンブナ

※4) 文献⑧では、選定基準が異なるため「サクラマス」と「サクラマス(ヤマメ)」に分けて記載されている。種名については文献⑧に従って記載するが、種数は同種としてカウントする。

## ② 注目すべき動物生息地の状況

調査範囲には、野生動植物のハビタット又は生態系回廊（生態系コリドー）として重要とされる「奥羽山脈から大倉・芋沢丘陵地域への緑の回廊」や「奥武士・大倉地区」等、生物多様性保全上重要な里地里山に選定される地域が広く分布する。

なお、対象事業実施区域は、注目すべき動物生息地のうち、「奥武士・大倉地区」に含まれる。

注目すべき動物生息地に係る収集文献一覧を表 3.1-83 に、重要な地域の選定基準を表 3.1-84 に示す。また、資料調査で確認した注目すべき動物生息地を表 3.1-85 及び図 3.1-30 に示す。

表 3.1-83 収集文献一覧（動物生息地）

文献番号	文献名	備考
①	平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書（仙台市、平成 29 年 3 月）	動物生息地として重要な地域

表 3.1-84 重要な地域の選定基準（仙台市）

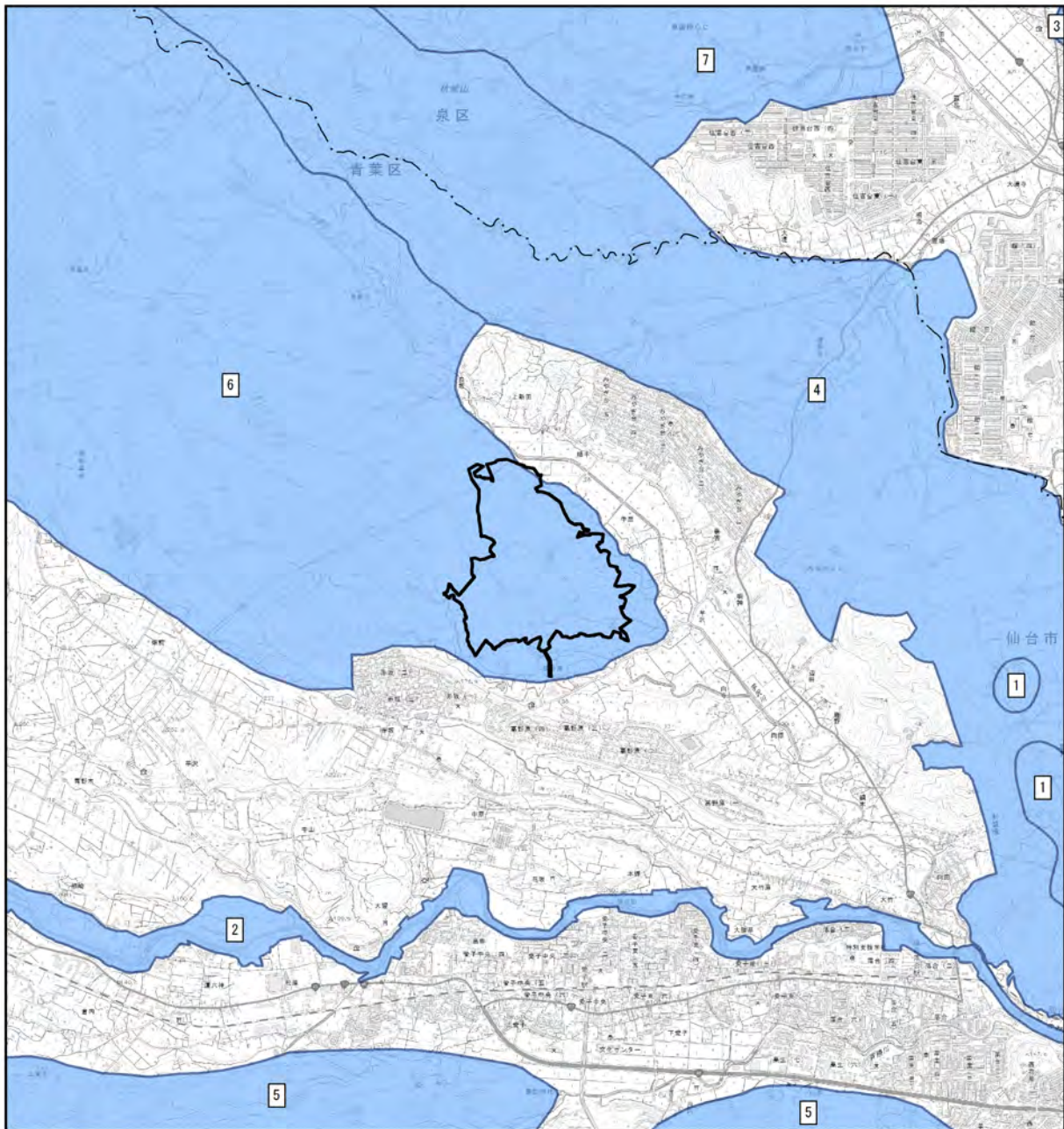
区分	判断理由
1	保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域（動物の繁殖場、集団越冬地となっている地域など）
2	多様な生物相が保存されている地域
3	自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
4	湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
5	自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
6	環境教育の場としてふさわしい地域
7	郷土の特色が保存されている地域（里地里山・居久根等）
8	緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等）
9	海岸や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年 3 月）

表 3.1-85 注目すべき動物生息地

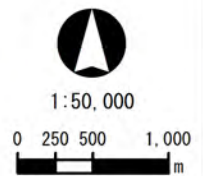
図中 番号	地域名	対象動物	概要	判断 理由 ※1	文献 番号
1	権現森	昆虫類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権現森緑地環境保全地域</li> <li>・野生動植物のハビタットとして重要。</li> <li>・貴重なチョウ類の生息地，ヒメギフチョウ，クマバチ等のヒルトッピング。</li> </ul>	1 4	①
2	広瀬川（中～下流域）	鳥類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広瀬川の清流を守る条例の環境保全区域</li> <li>・野生動植物のハビタット，生態系回廊（生態系コリドー）として重要。中流部は森林性から草地，水辺の鳥まで豊富。下流部は，オジロワシ，オオタカ等の猛禽類やキジ類の草地形鳥類。</li> <li>・アオジの生息及び繁殖。</li> </ul>	2 7 8	①
3	七北田川（中流域～河口）	哺乳類 鳥類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野生動植物のハビタット，生態系回廊（生態系コリドー）として重要。</li> <li>・川に接する地域の環境変化が著しく，動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなってきている。</li> <li>・河川周辺のヨシ原はオオセッカ等希少な鳥類が生息する重要な自然になっている。</li> <li>・環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。</li> </ul>	2 8	①
4	奥羽山脈から大倉・芋沢丘陵地域への緑の回廊	動物全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の中央部から北西にかけて位置し，野生動植物のハビタット，生態系回廊（生態系コリドー）として重要。</li> <li>・植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。</li> </ul>	2 8	①
5	奥羽山脈から青葉山丘陵地域への緑の回廊	動物全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の南部に位置し，野生動植物のハビタット，生態系回廊（生態系コリドー）として重要。</li> <li>・植物及び動物の生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。</li> </ul>	2 8	①
6	奥武士・大倉地区	動物全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の西部に位置し，里地・里山植生が良好な状態で残されており，動植物のハビタットとして重要。</li> <li>・水田やため池，山林，山地草原のススキ原等がモザイク状に分布する土地利用が維持され，トウホクサンショウウオやヒメギフチョウなどの希少な動物の生息が確認されるほか，豊かな里地里山生態系のシンボルであるサシバの生息も確認されている。</li> <li>・環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」にも選定されている。</li> </ul>	6 7	①
7	西田中地区	動物全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地の北西部に位置し，里地・里山植生が良好な状態で残されており，動植物のハビタットとして重要。</li> <li>・手入れの行き届いた二次林や植林，農地等がモザイク状に分布する土地利用が維持され，サンショウクイやアオハダトンボなどの希少な動物の生息が確認されるほか，豊かな里地里山生態系のシンボルであるサシバの生息も確認されている。</li> <li>・環境省が全国で 500 箇所を選定する「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されている。</li> </ul>	7	①

※1) 判断基準は、対応文献の選定基準の区分と対応する。



凡例

- 対象事業実施区域
- 動物生息地として重要な地域
- 市区町境界線



出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年 3 月）

図 3.1-30 注目すべき動物生息地の状況



### (3) 生態系

#### ① 生態系の特性

##### a. 環境の類型区分

資料調査による植生及び地形の状況を基に、対象事業実施区域及びその周囲の植生を「樹林」、「草地」、「水田」、「河川・ため池等」に、地形を「丘陵地」、「台地段丘」、「低地」に区分し、地域を特徴づける生態系として整理した。

「樹林」は、クレーコナラ群集、スギ・ヒノキ・サワラ群落、アカマツ群落(V)が多くみられ、丘陵地～台地段丘に広く分布する。また、溪畔・河畔に成立するケヤキ群落(IV)やヤナギ低木群落(IV)は、台地段丘～低地に分布する。「草地」は、ゴルフ場・芝地や伐採跡地群落(V)等が丘陵地の数か所に局所的に分布し、路傍・空地雑草群落や畑雑草群落等が丘陵地～台地段丘を中心に点在する。また、「水田」は、水田雑草群落が主に台地段丘に分布する。「河川・ため池等」は、丘陵地～低地に点在しており、ヨシクラスが台地段丘に、ヒルムシロクラスが丘陵地に多くみられる。このほか「市街地等」は、市街地、造成地等が丘陵地～台地段丘にまとまって分布する。

類型区分の概要を表 3.1-86 に、類型区分図を図 3.1-31 に示す。

表 3.1-86 類型区分の概要

植生区分	植生	地形区分
樹林	チシマザサ群落(II)、ケヤキ群落(IV)、ハンノキ群落(IV)、ヤナギ低木群落(IV)、アカマツ群落(V)、落葉広葉低木群落、クレーコナラ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林、果樹園	丘陵地 台地段丘 低地
草地	ススキ群団(V)、伐採跡地群落(V)、ゴルフ場・芝地、牧草地、路傍・空地雑草群落、畑雑草群落	丘陵地 台地段丘 低地
水田	水田雑草群落	丘陵地 台地段丘 低地
河川・ため池等	ヨシクラス、ヒルムシロクラス、開放水域	丘陵地 台地段丘 低地
市街地等	市街地、緑の多い住宅地、造成地、自然裸地	—

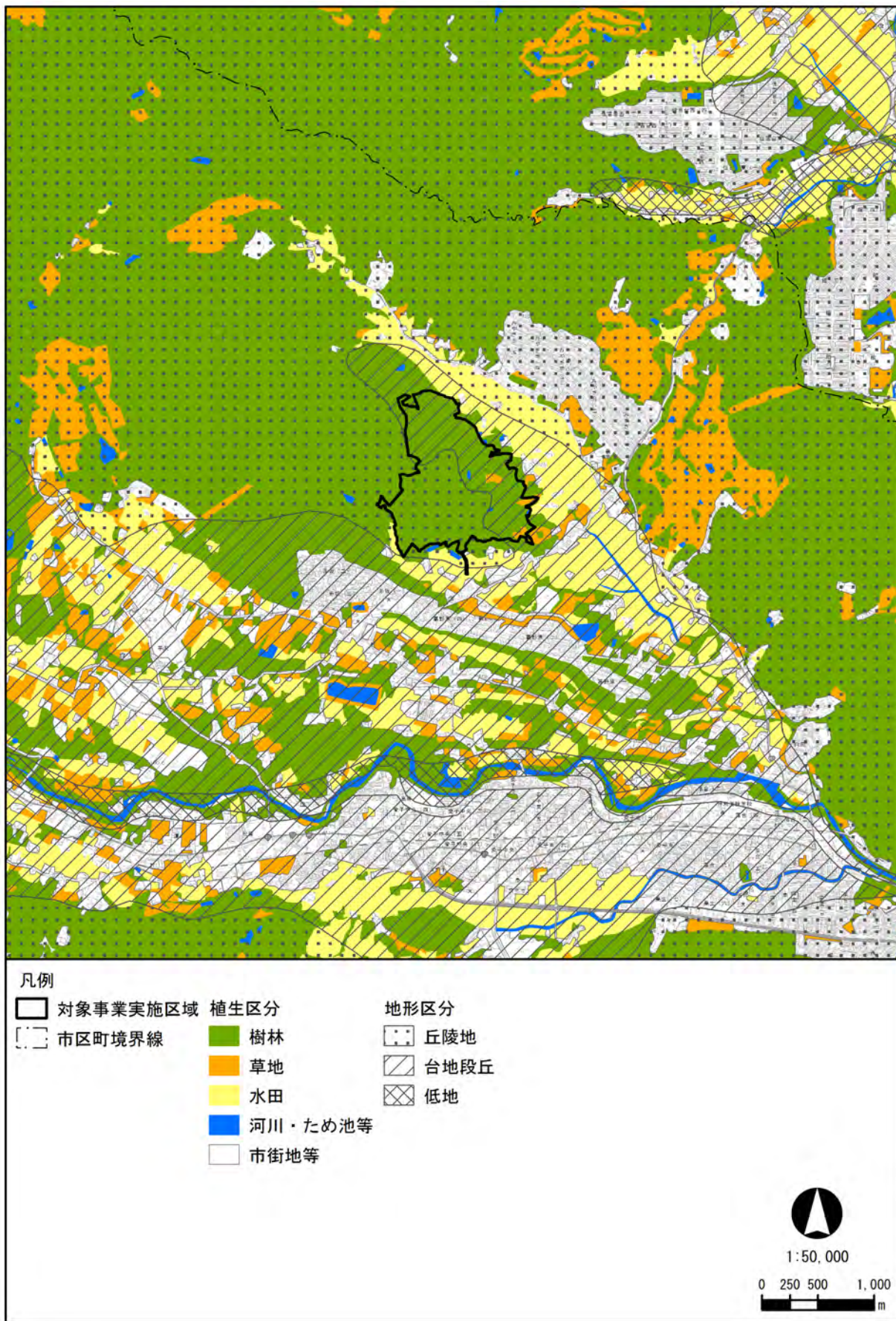


图 3.1-31 類型区分図

## b. 類型区分ごとの生物種

資料調査の結果から代表的な生物種を想定し、その生物種と生息・生育環境の関わりや生物間相互の関係を、食物連鎖図として整理した。

「樹林」や「草地」では、一次消費者としてコウチュウ類・バッタ類・チョウ類等の昆虫類、ノウサギ・ニホンリス等の哺乳類の生息が考えられる。その上位には、二次消費者としてカマキリ類・オサムシ類・スズメバチ類等の昆虫類、カラ類・キツキ類等の鳥類、ネズミ類、モグラ類等の哺乳類の生息が考えられる。これらを捕食する高次消費者として、シマヘビやアオダイショウ等の爬虫類、さらに上位には、テン・キツネ等の哺乳類、オオタカ・サシバ等の猛禽類の生息が考えられる。

また、「水田」や「河川・ため池等」では、一次消費者として藻類等を採餌するカワゲラ類・トビケラ類・カゲロウ類等の水生昆虫類の生息が考えられる。その上位には、二次消費者としてトンボ類・ゲンゴロウ類等の水生昆虫類の生息が考えられる。また、これらを捕食する高次消費者として、ギンブナ・アブラハヤ等の魚類、アカガエル類・サンショウウオ類等の両生類、さらに上位は、サギ類・カワセミ等の鳥類の生息が考えられる。

食物連鎖図を図 3.1-32 に示す。

## ② 生態系を保全するうえでの留意点

対象事業実施区域及びその周辺は、芋沢川と蒲沢川の合流付近に位置し、台地段丘に挟まれた丘陵地である。対象事業実施区域は丘陵地と台地段丘に樹林が広がり、その北東には奥武土地区、大倉地区の山地樹林へとつながっている。また、対象事業実施区域の南側～東側は、水田や住宅地が分布する。このように、対象事業実施区域及びその周辺は二次林、植林、耕作地、河川、ため池等がモザイク状に分布する里地里山の環境である。

さらに、「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020 改定版」（仙台市、平成 28 年 3 月）において、対象事業実施区域を含む西部丘陵地・田園地域は山地地域と市街地地域のバッファゾーン（緩衝帯）として、生物多様性の連続性を支える重要地域とされている。

これらの対象事業実施区域及びその周辺の生態系の特徴を踏まえ、動物及び植物から生態系の注目種を選定するにあたっては、里地里山の環境を指標する注目種について、生態系の特性を効率的かつ効果的に把握するための注目種の考え方にに基づき、上位性、典型性、特殊性の各区分について選定する。

生態系における注目種の考え方を表 3.1-87 に示す。

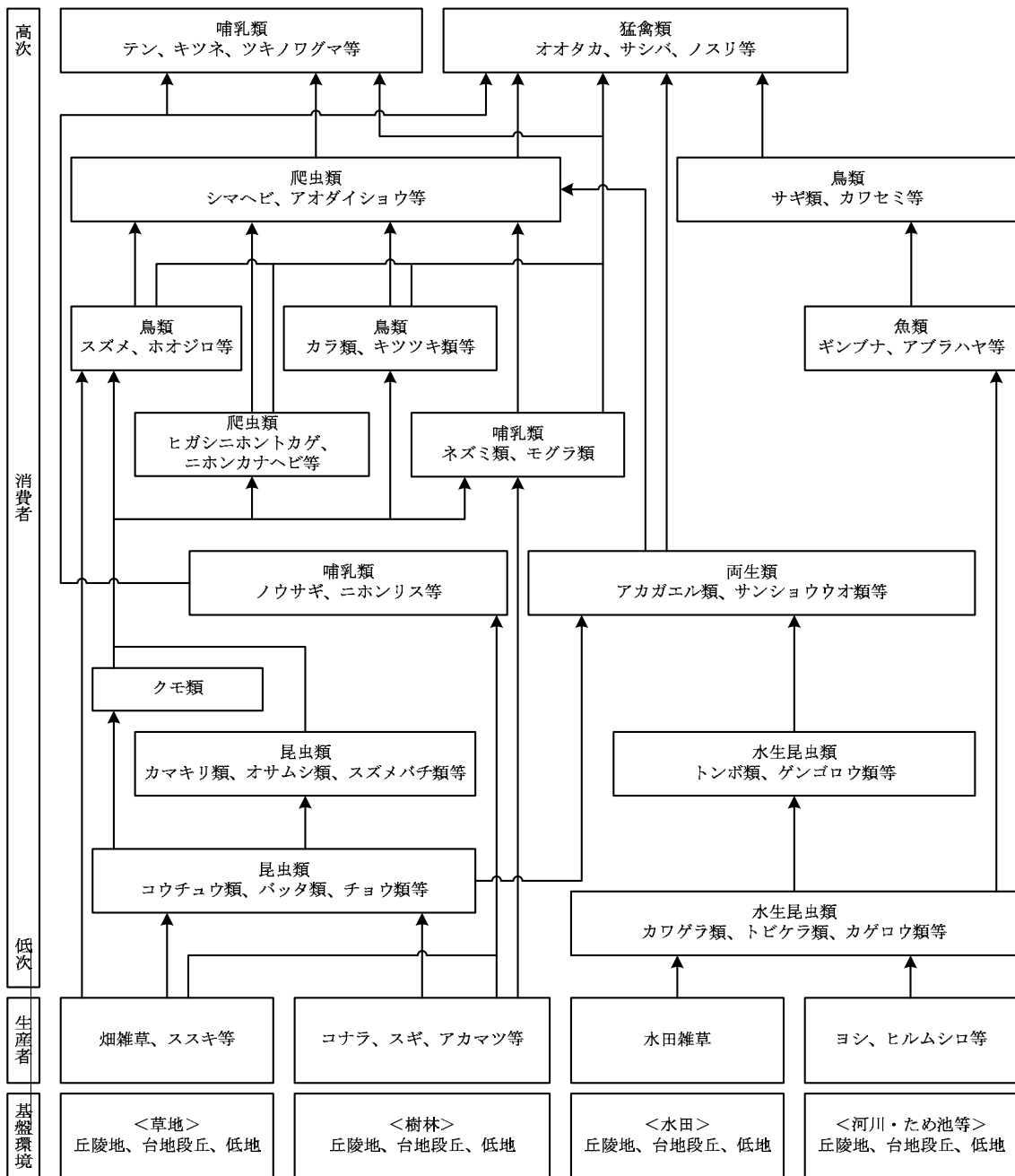


図 3.1-32 食物連鎖図

表 3.1-87 生態系における注目種の考え方

区分	選定の観点
上位性	生態系の上位に位置する種。その種の存続を保障することが、おのずと多様な種の存続を確保することを意味する。
典型性	当該地域の生態系の特徴をよく表す種、環境指標種（種群）、キーストーン種等。貴重種ではないありふれた種に特に着目する。
特殊性	特異な立地環境を指標する種、生活の重要部分を他の生物に依存する種等。

### 3.1.5 景観等

#### (1) 景観

##### ① 景観資源の状況

##### a. 自然景観資源

調査範囲における地形、地質、自然現象に係る自然景観資源として、権現森緑地環境保全地域の「権現森山」及び「岩傘山」、広瀬川沿いに「仙台市白沢・広瀬川中流付近」の峡谷・溪谷及び「落合・愛子・白沢広瀬川畔」の河成段丘が分布する。なお、対象事業実施区域には、自然景観資源は存在しない。

自然景観資源に係る収集文献一覧を表 3.1-88 に示す。また、自然景観資源を表 3.1-89 に、自然景観資源の状況を図 3.1-33 に示す。

表 3.1-88 収集文献一覧（自然景観資源）

文献番号	文献名	備考
①	第3回自然環境保全基礎調査 宮城県自然環境情報図 (平成元年、環境庁)	自然景観資源
②	平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書 (仙台市、平成29年3月)	自然景観資源

表 3.1-89 自然景観資源

図中番号	名称	種類	概要	見られ方	インパクト	保全状況	文献番号
1	権現森	非火山性孤峰	国見丘陵の中で最も目立つ山。周辺の開発が著しく島状に残っている。標高313.7m、比高113m。	近中遠	人の立入り 周辺の開発	権現森緑地環境保全地域	① ②
2	岩傘山	断崖・岸壁	権現森の南、仙山線沿いにある露岩で、斜めに走る層理が発達。国道48号線等からよく見える。比高60m、延長150m。	近中遠	特になし	権現森緑地環境保全地域	① ②
3	仙台市白沢・広瀬川中流付近	峡谷・溪谷	延長3.9km、巾80～150m、深さ80～100m。	近中	周辺の開発	—	① ②
4	落合・愛子・白沢広瀬川畔	河成段丘	数段にわたる典型的な河成段丘の景観。段丘崖に残された植生は貴重な自然的景観である。延長13.0km、比高50～100m、段数4～5。	近中遠	農林業開発 観光開発	—	① ②

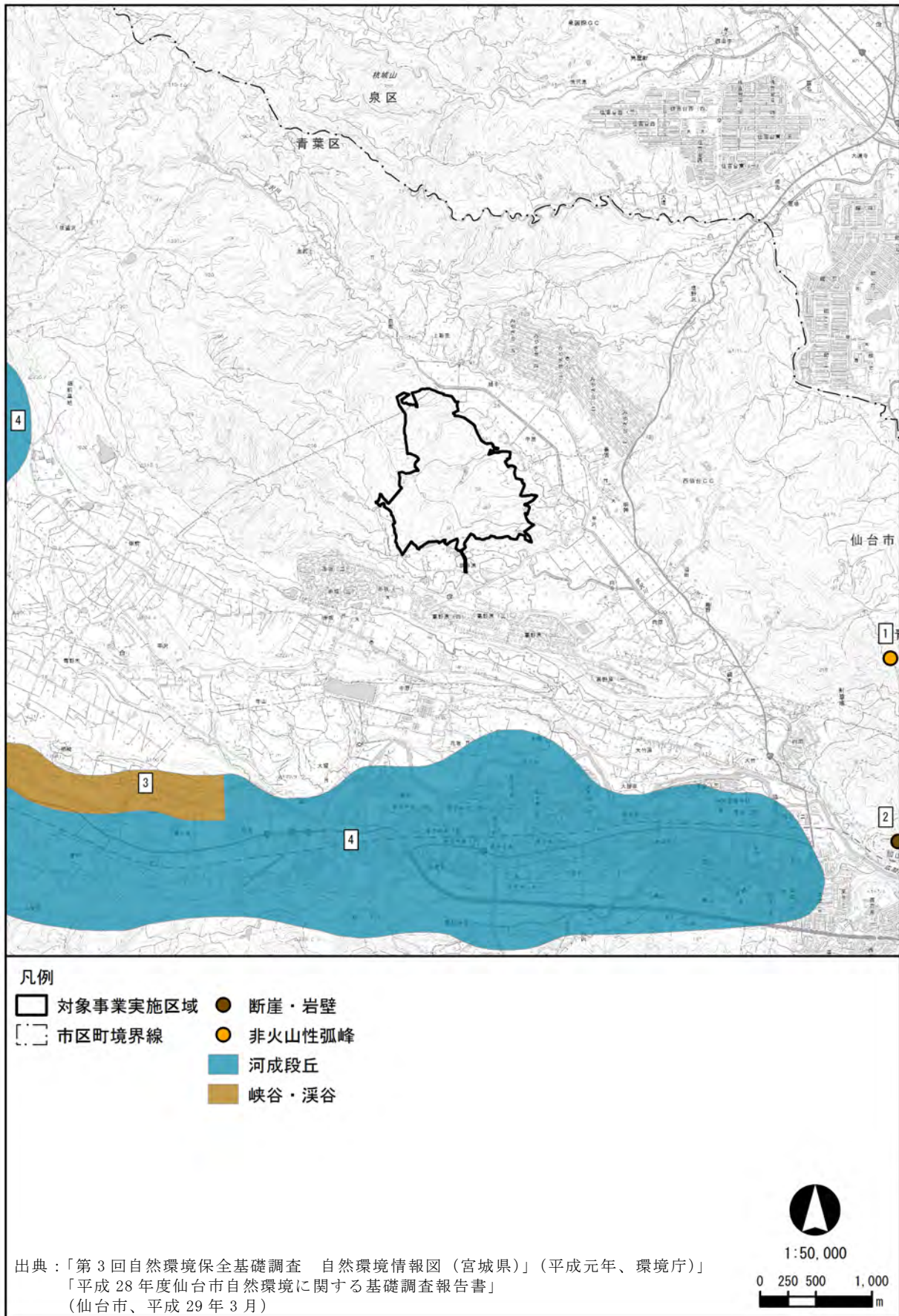


図 3.1-33 自然景観資源の状況

## b. 歴史的・文化的景観資源

調査範囲における歴史的・文化的景観資源として、20 件の寺社等が分布しており、「宇那禰神社」や「諏訪神社」の棟札は指定文化財にも指定されている。なお、対象事業実施区域には、歴史的・文化的景観資源は存在しない。

調査範囲における歴史的・文化的景観資源を表 3.1-90 に、歴史的・文化的景観資源の状況を図 3.1-34 に示す。

表 3.1-90 歴史的・文化的景観資源

図中 番号	種類	名称	所在地
1	寺	大門寺	宮城県仙台市青葉区愛子中央 3 丁目 22-36
2	寺	活牛寺	宮城県仙台市青葉区芋沢字横向山 155-1
3	寺	慈晃院	宮城県仙台市青葉区芋沢字横向山 18-2
4	寺	正法寺	宮城県仙台市青葉区芋沢字向寺 68
5	寺	長泉寺	宮城県仙台市青葉区芋沢字鹿野 30
6	寺	徳源寺	宮城県仙台市青葉区芋沢字谷津沢 36-1
7	寺	佛国寺	宮城県仙台市青葉区芋沢大竹原 49-1
8	寺	臨済院	宮城県仙台市青葉区芋沢臨済院 1-2
9	寺	弥勒寺	宮城県仙台市青葉区下愛子字館 28
10	寺	安養寺	宮城県仙台市青葉区下愛子字館 37
11	寺	大満寺	宮城県仙台市泉区小角字大満寺 5
12	寺	見松寺	宮城県仙台市泉区西田中字朴ノ木 4
13	神社	大國神社	宮城県仙台市青葉区芋沢字末坂 27-14
14	神社	宇那禰神社	宮城県仙台市青葉区芋沢字明神 8
15	神社	鹽竈神社	宮城県仙台市青葉区芋沢赤坂
16	神社	大堀神社	宮城県仙台市青葉区芋沢大堀
17	神社	熊野神社	宮城県仙台市青葉区芋沢本郷
18	神社	青木明神	宮城県仙台市青葉区下愛子青木 57
19	神社	諏訪神社	宮城県仙台市青葉区上愛子塩柄 33
20	神社	住吉神社	宮城県仙台市泉区西田中字下田中 15

出典：「ゼンリン地図サイト いつも NAVI」（平成 29 年 7 月閲覧）

「宮城県神社庁 HP」（平成 29 年 7 月閲覧）

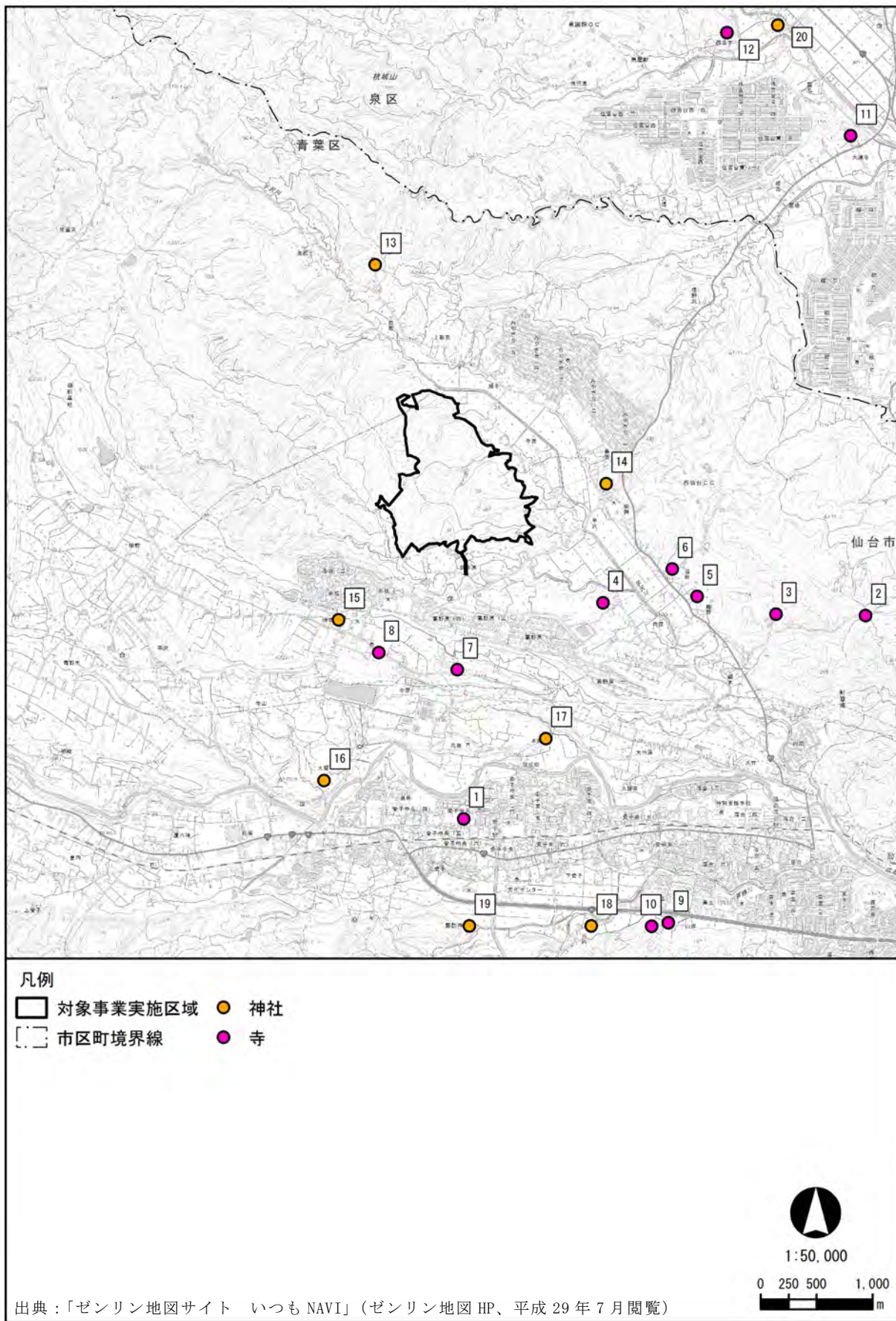


図 3.1-34 歴史的・文化的景観資源の状況



## ② 眺望の状況

調査範囲における眺望点として、展望台等が整備されている「権現森」のほか、対象事業実施区域とは芋沢川を挟んだ対岸の斜面中腹にある「大沢市民センター」や「大國神社」等の寺社が分布する。

なお、対象事業実施区域には、主な眺望点は存在しない。

調査範囲における主な眺望点を表 3.1-91 に、主な眺望点の状況を図 3.1-35 に示す。

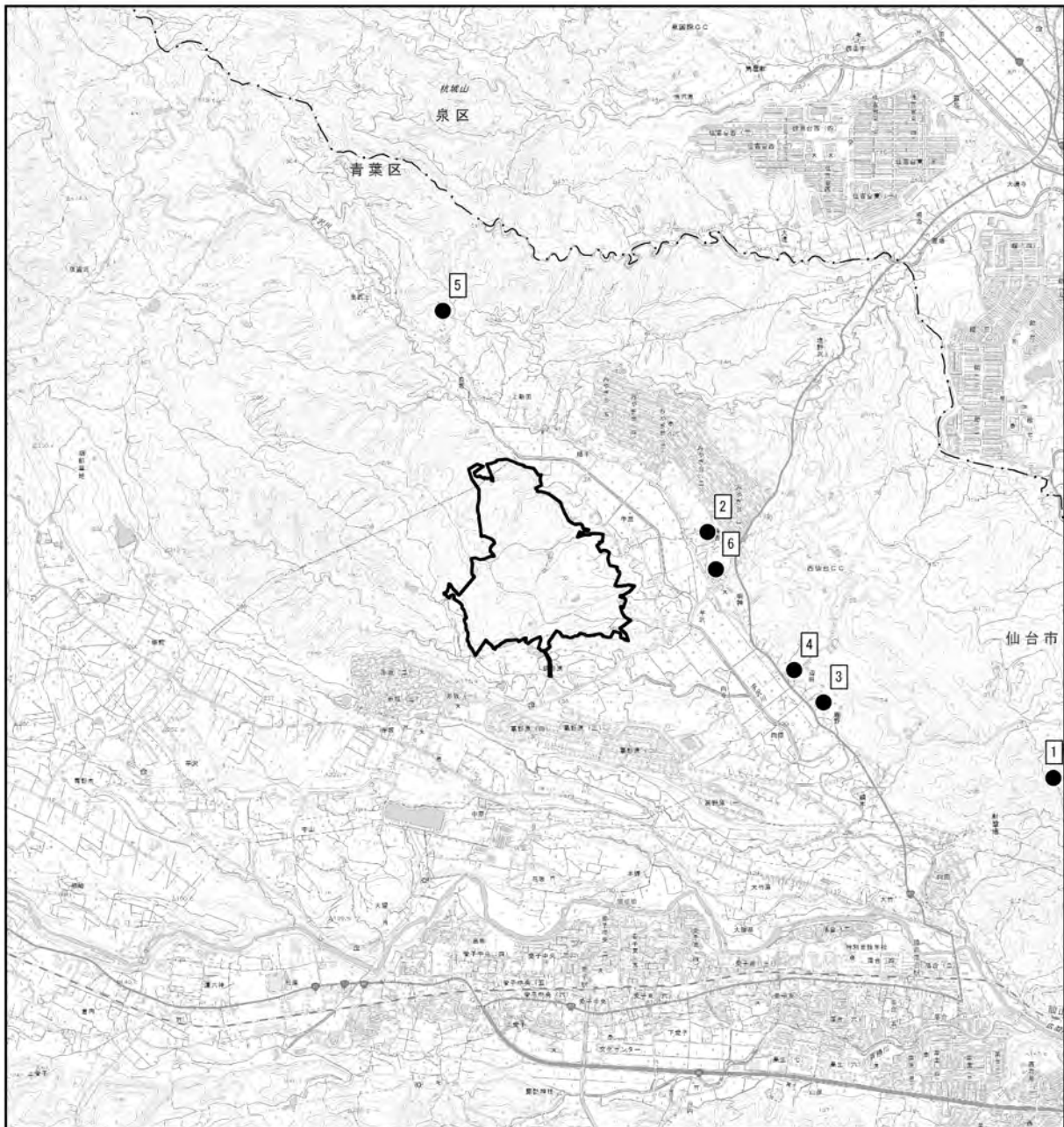
表 3.1-91 主な眺望点

図中 番号	種別	名称	概要
1	自然	権現森	仙台市の西部に広がる、広さが 200ha にもおよぶ自然林の森である。 森の中には、アカマツやマンサク、コナラなどの樹木が鬱蒼と生い茂り、数多くの野鳥や動物が生息している。 森の最高点は、標高 314m ほどの「権現森山」で、山頂付近からは泉ヶ岳をはじめ、遠くは蔵王連峰まで望むことができる。 また、いくつかのハイキングコースも整備されており、森林浴や植物観察、バードウォッチングなど、自然とのふれあいを求めて多くの人たちが訪れる。
2	施設	大沢市民センター	田園地域や緑多い丘陵地帯が広がる自然環境の中で、古くからの村落と成熟化が進行している団地、新興団地が混在している地域にある。児童館が併設され、あわせて青葉区役所宮城総合支所大沢証明発行センター、防災資機材倉庫・仙台市宮城消防団芋沢分団中・原区部機械器具置場が置かれている。 地域の恵まれた自然・歴史に係る講座・体験の場の提供もしている。
3	施設	長泉寺	—
4	施設	徳源寺	—
5	施設	大國神社	主祭神は大國主大神（おほくにぬしのおほかみ）。広大な敷地内には山野草公園などがある。
6	施設	宇那禰神社	桓武天皇を祭祀している。創祀年代は明らかではないが、封内風土記によれば、社殿造営の際に梁の上に古い棟札が 3 枚あり、これらの棟札によれば、本社は、中世足利時代からの古社である。 境内に樹齢約 400 年の杉の御神木がある。

出典：「杜の都わがまち緑の名所 100 選」（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）

「せんだいくらしのマップ」（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）

「ゼンリン地図サイト いつも NAVI」（平成 29 年 7 月閲覧）

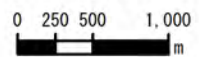


凡例

- 対象事業実施区域 ● 眺望点
- 市区町境界線



1:50,000



出典：「せんだいくらしのマップ」(仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧)  
 「ゼンリン地図サイト いつも NAVI」(平成 29 年 7 月閲覧)

図 3.1-35 主な眺望点の状況

## (2) 自然との触れ合いの場

### ① 自然との触れ合いの場の状況

調査範囲における自然との触れ合いの場として、「権現森」や「鳴合峡谷」等の観光地のほか、市民向けの貸し農園（レクリエーション農園）等が分布する。また、調査範囲には、近隣住民による利用を目的とした都市公園が 135 箇所、都市の自然的環境の保全や景観の向上を図ることを目的とした緑地及び災害時の避難路や安全性・快適性の確保等を図ることを目的とした緩衝緑地等が 25 箇所分布する。

なお、対象事業実施区域には、自然との触れ合いの場は存在しない。

調査範囲における自然との触れ合いの場を表 3.1-92 及び表 3.1-93 に、自然との触れ合いの場の状況を図 3.1-36 に示す。

表 3.1-92 自然との触れ合いの場（観光施設等）

図中 番号	名称	種別	所在地	概要
1	権現森	観光施設	仙台市青葉区芋沢 字権現森山	仙台市の西部に広がる、広さが 200ha にもおよぶ自然林の森である。 森の中には、アカマツやマンサク、コナラなどの樹木が鬱蒼と生い茂り、数多くの野鳥や動物が生息している。 森の最高点は、標高 314m ほどの「権現森山」で、山頂付近からは泉ヶ岳をはじめ、遠くは蔵王連峰まで望むことができる。 また、いくつかのハイキングコースも整備されており、森林浴や植物観察、バードウォッチングなど、自然とのふれあいを求めて多くの人たちが訪れる。
2	鳴合峡谷	観光施設	仙台市青葉区芋沢	広瀬川が作並方面から流れ落ち、郷六盆地へ注ぎ込もうとする静かな谷間。「七つ石」と呼ばれる巨岩が横たわる。
3	渋谷観光農園	体験施設	仙台市青葉区芋沢 字青野木 592	市民向けの貸し農園（レクリエーション農園）。 駐車場 50 台、トイレ、水道あり。
4	芋沢川農園	体験施設	仙台市青葉区芋沢 字中居 33、35-2、 38	市民向けの貸し農園（レクリエーション農園）。 駐車場 5 台、休憩小屋、堆肥置場あり。木々類の栽培不可。農道を挟んで芋沢川が流れ、常時水の利便性がある。
5	早坂農園	体験施設	仙台市泉区西田中 字柿屋敷後 12、 13、14、15-1	市民向けの貸し農園（レクリエーション農園）。 駐車場 30 台、トイレ、水道、物置あり。
6	JA サラダ農園	体験施設	仙台市泉区西田中 字萱場中 62、63	市民向けの貸し農園（レクリエーション農園）。 駐車場 10 台、休憩所、小農機具倉庫あり。樹木・多年生植物の栽培不可。5 月中旬に開園祭を開催。

出典：「杜の都わがまち緑の名所 100 選」（仙台市 HP、平成 29 年 7 月閲覧）

「仙台市内のレクリエーション農園一覧」（仙台市 HP、平成 29 年 1 月）

「旅\*東北」（東北観光ポータル HP、平成 29 年 7 月閲覧）

表 3.1-93(1) 仙台市公園一覧(都市公園等)

番号	種類	種別※1	名称	供用 開始年	面積 (m <sup>2</sup> )	所在区
1	住区基幹公園	街区公園	ニュー愛子団地公園	1981	348	青葉区
2	住区基幹公園	街区公園	みやぎ台1号公園	1981	1,537	青葉区
3	住区基幹公園	街区公園	みやぎ台2号公園	1981	1,916	青葉区
4	住区基幹公園	街区公園	みやぎ台3号公園	1989	1,807	青葉区
5	住区基幹公園	街区公園	みやぎ台4号公園	1989	2,350	青葉区
6	住区基幹公園	街区公園	みやぎ台5号公園	1992	1,824	青葉区
7	住区基幹公園	街区公園	みやぎ台運動公園	1981	8,280	青葉区
8	住区基幹公園	街区公園	みやぎ台三丁目南公園	2010	1,369	青葉区
9	住区基幹公園	街区公園	みやぎ台二丁目南公園	2002	1,945	青葉区
10	住区基幹公園	街区公園	愛子グリーンタウン2号公園	2010	145	青葉区
11	住区基幹公園	街区公園	愛子団地1号公園	1981	839	青葉区
12	住区基幹公園	街区公園	愛子中央一丁目公園	2007	163	青葉区
13	住区基幹公園	街区公園	愛子中央五丁目公園	2005	183	青葉区
14	住区基幹公園	街区公園	愛子中央三丁目公園	2002	180	青葉区
15	住区基幹公園	街区公園	愛子東五丁目公園	2002	224	青葉区
16	住区基幹公園	街区公園	愛子東五丁目中公園	2003	384	青葉区
17	住区基幹公園	街区公園	愛子東三丁目2号公園	2006	245	青葉区
18	住区基幹公園	街区公園	愛子東三丁目公園	2004	227	青葉区
19	住区基幹公園	街区公園	愛子東四丁目公園	2004	168	青葉区
20	住区基幹公園	街区公園	横町前公園	1998	372	青葉区
21	住区基幹公園	街区公園	屋敷前公園	2000	337	青葉区
22	住区基幹公園	街区公園	下愛子下河原公園	1999	501	青葉区
23	住区基幹公園	街区公園	下愛子下原公園	1997	156	青葉区
24	住区基幹公園	街区公園	下愛子下原西公園	1999	180	青葉区
25	住区基幹公園	街区公園	下愛子下原南公園	1997	150	青葉区
26	住区基幹公園	街区公園	下愛子町2号公園	1998	277	青葉区
27	住区基幹公園	街区公園	下愛子町3号公園	2000	150	青葉区
28	住区基幹公園	街区公園	下愛子町4号公園	2000	207	青葉区
29	住区基幹公園	街区公園	下愛子町公園	1996	182	青葉区
30	住区基幹公園	街区公園	河原田1号公園	1981	310	青葉区
31	住区基幹公園	街区公園	河原田2号公園	2010	230	青葉区
32	住区基幹公園	街区公園	街道3号公園	2000	155	青葉区
33	住区基幹公園	街区公園	街道4号公園	2009	217	青葉区
34	住区基幹公園	街区公園	街道西公園	1996	276	青葉区
35	住区基幹公園	街区公園	街道東公園	1996	444	青葉区
36	住区基幹公園	街区公園	勘太公園	2010	494	青葉区
37	住区基幹公園	街区公園	勘太東公園	1994	150	青葉区
38	住区基幹公園	街区公園	観音公園	1996	295	青葉区
39	住区基幹公園	街区公園	観音東公園	2000	178	青葉区
40	住区基幹公園	街区公園	錦ヶ丘九丁目公園	2009	4,846	青葉区
41	住区基幹公園	街区公園	栗生一丁目北公園	1994	2,657	青葉区
42	住区基幹公園	街区公園	栗生五丁目公園	2000	1,480	青葉区
43	住区基幹公園	街区公園	栗生三丁目南公園	1992	1,498	青葉区
44	住区基幹公園	街区公園	栗生三丁目北公園	2000	1,499	青葉区
45	住区基幹公園	街区公園	栗生四丁目南公園	2000	1,386	青葉区
46	住区基幹公園	街区公園	栗生四丁目北公園	1994	3,499	青葉区
47	住区基幹公園	街区公園	栗生西部1号公園	2004	2,612	青葉区
48	住区基幹公園	街区公園	栗生西部3号公園	2004	6,854	青葉区
49	住区基幹公園	街区公園	栗生二丁目南公園	2010	7,511	青葉区
50	住区基幹公園	街区公園	栗生二丁目北公園	1994	1,493	青葉区
51	住区基幹公園	街区公園	月橋2号公園	2006	240	青葉区
52	住区基幹公園	街区公園	月橋公園	1998	301	青葉区

表 3.1-93(2) 仙台市公園一覽(都市公園等)

番号	種類	種別※1	名称	供用開始年	面積(m <sup>2</sup> )	所在区
53	住区基幹公園	街区公園	広瀬川前公園	1994	1,862	青葉区
54	住区基幹公園	街区公園	高野原一丁目公園	2006	1,997	青葉区
55	住区基幹公園	街区公園	高野原三丁目公園	2000	11,350	青葉区
56	住区基幹公園	街区公園	高野原四丁目公園	2001	1,968	青葉区
57	住区基幹公園	街区公園	高野原二丁目公園	2008	2,000	青葉区
58	住区基幹公園	街区公園	蛇台原3号公園	1999	781	青葉区
59	住区基幹公園	街区公園	蛇台原4号公園	2000	185	青葉区
60	住区基幹公園	街区公園	蛇台原公園	1998	420	青葉区
61	住区基幹公園	街区公園	蛇台原西1号公園	2000	150	青葉区
62	住区基幹公園	街区公園	蛇台原西公園	1985	343	青葉区
63	住区基幹公園	街区公園	小豆田1号公園	1981	374	青葉区
64	住区基幹公園	街区公園	小豆田2号公園	2010	227	青葉区
65	住区基幹公園	街区公園	松原公園	2000	5,200	青葉区
66	住区基幹公園	街区公園	松原西公園	1994	156	青葉区
67	住区基幹公園	街区公園	松原北公園	1997	2,445	青葉区
68	住区基幹公園	街区公園	上愛子車公園	1996	733	青葉区
69	住区基幹公園	街区公園	上愛子車西公園	1998	253	青葉区
70	住区基幹公園	街区公園	上愛子車北公園	2009	150	青葉区
71	住区基幹公園	街区公園	上愛子雷神公園	1996	903	青葉区
72	住区基幹公園	街区公園	上愛子雷神西公園	2000	225	青葉区
73	住区基幹公園	街区公園	上遠野原公園	2002	150	青葉区
74	住区基幹公園	街区公園	上原公園	2000	5,712	青葉区
75	住区基幹公園	街区公園	上原東公園	1994	249	青葉区
76	住区基幹公園	街区公園	上原北公園	2001	150	青葉区
77	住区基幹公園	街区公園	清水端公園	2004	240	青葉区
78	住区基幹公園	街区公園	西花苑一丁目公園	1996	228	青葉区
79	住区基幹公園	街区公園	西花苑一丁目西公園	2002	484	青葉区
80	住区基幹公園	街区公園	赤坂1号公園	1990	4,704	青葉区
81	住区基幹公園	街区公園	赤坂2号公園	1990	2,558	青葉区
82	住区基幹公園	街区公園	赤坂3号公園	1990	2,499	青葉区
83	住区基幹公園	街区公園	赤坂4号公園	1989	3,849	青葉区
84	住区基幹公園	街区公園	赤坂5号公園	1990	1,498	青葉区
85	住区基幹公園	街区公園	赤坂6号公園	1992	1,267	青葉区
86	住区基幹公園	街区公園	折立山西公園	1980	264	青葉区
87	住区基幹公園	街区公園	棟林西公園	1994	157	青葉区
88	住区基幹公園	街区公園	棟林東公園	1996	209	青葉区
89	住区基幹公園	街区公園	二本松公園	1992	458	青葉区
90	住区基幹公園	街区公園	平治東公園	1998	360	青葉区
91	住区基幹公園	街区公園	平治南公園	1992	484	青葉区
92	住区基幹公園	街区公園	平治北公園	1983	520	青葉区
93	住区基幹公園	街区公園	北原2号公園	2000	90	青葉区
94	住区基幹公園	街区公園	北原公園	2010	135	青葉区
95	住区基幹公園	街区公園	北原西公園	1997	241	青葉区
96	住区基幹公園	街区公園	北原東公園	1984	348	青葉区
97	住区基幹公園	街区公園	北原道上公園	1994	445	青葉区
98	住区基幹公園	街区公園	北原道上東公園	1995	240	青葉区
99	住区基幹公園	街区公園	北原道上南公園	2007	389	青葉区
100	住区基幹公園	街区公園	北原道上北公園	2002	150	青葉区
101	住区基幹公園	街区公園	北原南公園	2000	61	青葉区
102	住区基幹公園	街区公園	北原北公園	1999	485	青葉区
103	住区基幹公園	街区公園	北内公園	1994	373	青葉区
104	住区基幹公園	街区公園	北内南公園	1998	1,049	青葉区

表 3.1-93(3) 仙台市公園一覧(都市公園等)

番号	種類	種別※1	名称	供用 開始年	面積 (m <sup>2</sup> )	所在区
105	住区基幹公園	街区公園	堀切公園	2000	150	青葉区
106	住区基幹公園	街区公園	落合五丁目2号公園	2006	164	青葉区
107	住区基幹公園	街区公園	落合五丁目公園	2005	780	青葉区
108	住区基幹公園	街区公園	落合三丁目公園	2000	794	青葉区
109	住区基幹公園	街区公園	館さくら公園	1982	9,084	泉区
110	住区基幹公園	街区公園	館ゆりのき公園	2001	2,776	泉区
111	住区基幹公園	街区公園	館一丁目公園	1984	3,982	泉区
112	住区基幹公園	街区公園	館一丁目南公園	1984	754	泉区
113	住区基幹公園	街区公園	館五丁目公園	1992	2,161	泉区
114	住区基幹公園	街区公園	館三丁目公園	1996	2,001	泉区
115	住区基幹公園	街区公園	館三丁目西公園	1987	739	泉区
116	住区基幹公園	街区公園	館三丁目北公園	2000	2,001	泉区
117	住区基幹公園	街区公園	館四丁目見晴らし公園	2006	3,064	泉区
118	住区基幹公園	街区公園	館四丁目公園	2002	2,009	泉区
119	住区基幹公園	街区公園	館二丁目西公園	1987	3,957	泉区
120	住区基幹公園	街区公園	館六丁目公園	1992	2,001	泉区
121	住区基幹公園	街区公園	住吉台西一丁目公園	2004	2,001	泉区
122	住区基幹公園	街区公園	住吉台西三丁目公園	2004	3,658	泉区
123	住区基幹公園	街区公園	住吉台西三丁目北公園	2004	3,671	泉区
124	住区基幹公園	街区公園	住吉台西四丁目東公園	2004	2,311	泉区
125	住区基幹公園	街区公園	住吉台西四丁目北公園	2004	2,230	泉区
126	住区基幹公園	街区公園	住吉台西二丁目公園	2004	4,000	泉区
127	住区基幹公園	街区公園	住吉台東一丁目公園	2004	2,138	泉区
128	住区基幹公園	街区公園	住吉台東一丁目東公園	2004	2,691	泉区
129	住区基幹公園	街区公園	住吉台東五丁目公園	2004	3,916	泉区
130	住区基幹公園	街区公園	住吉台東三丁目公園	2004	2,857	泉区
131	住区基幹公園	街区公園	住吉台東四丁目公園	2004	3,324	泉区
132	住区基幹公園	街区公園	住吉台東二丁目公園	2004	2,311	泉区
133	住区基幹公園	近隣公園	西花苑公園	1980	15,750	青葉区
134	住区基幹公園	近隣公園	館中央公園	1993	17,011	泉区
135	住区基幹公園	近隣公園	住吉台西四丁目公園	2004	21,811	泉区
136	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台一丁目1号緑地	2010	1,815	青葉区
137	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台一丁目3号緑地	2010	2,357	青葉区
138	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台五丁目1号緑地	2010	1,367	青葉区
139	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台五丁目2号緑地	2010	10,998	青葉区
140	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台五丁目3号緑地	2010	74	青葉区
141	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台三丁目1号緑地	2010	3,275	青葉区
142	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台三丁目2号緑地	2010	849	青葉区
143	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台三丁目3号緑地	2010	1,070	青葉区
144	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台三丁目4号緑地	2010	4,983	青葉区
145	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台四丁目1号緑地	2010	1,306	青葉区
146	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台四丁目2号緑地	2010	2,229	青葉区
147	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台二丁目1号緑地	2010	6,315	青葉区
148	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台二丁目2号緑地	2010	2,032	青葉区
149	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台二丁目3号緑地	2010	9,287	青葉区
150	緩衝緑地等	都市緑地	みやぎ台二丁目4号緑地	2010	8,577	青葉区
151	緩衝緑地等	都市緑地	栗生2号緑地	1992	9,677	青葉区
152	緩衝緑地等	都市緑地	広瀬川前緑地	2010	2,050	青葉区
153	緩衝緑地等	都市緑地	高野原緑地	2000	79,389	青葉区
154	緩衝緑地等	都市緑地	赤坂緑地	1990	89,315	青葉区
155	緩衝緑地等	都市緑地	館四丁目西緑地	2006	30,929	泉区
156	緩衝緑地等	都市緑地	館四丁目緑地	2002	14,036	泉区

表 3.1-93(4) 仙台市公園一覧（都市公園等）

番号	種類	種別※1	名称	供用開始年	面積(m <sup>2</sup> )	所在区
157	緩衝緑地等	都市緑地	館緑地	2000	268,437	泉区
158	緩衝緑地等	緑道	館1号緑道	1987	16,701	泉区
159	緩衝緑地等	緑道	館2号緑道	1986	7,899	泉区
160	緩衝緑地等	緑道	館ゆりのき緑道	2001	8,986	泉区

※1) 都市公園の種別

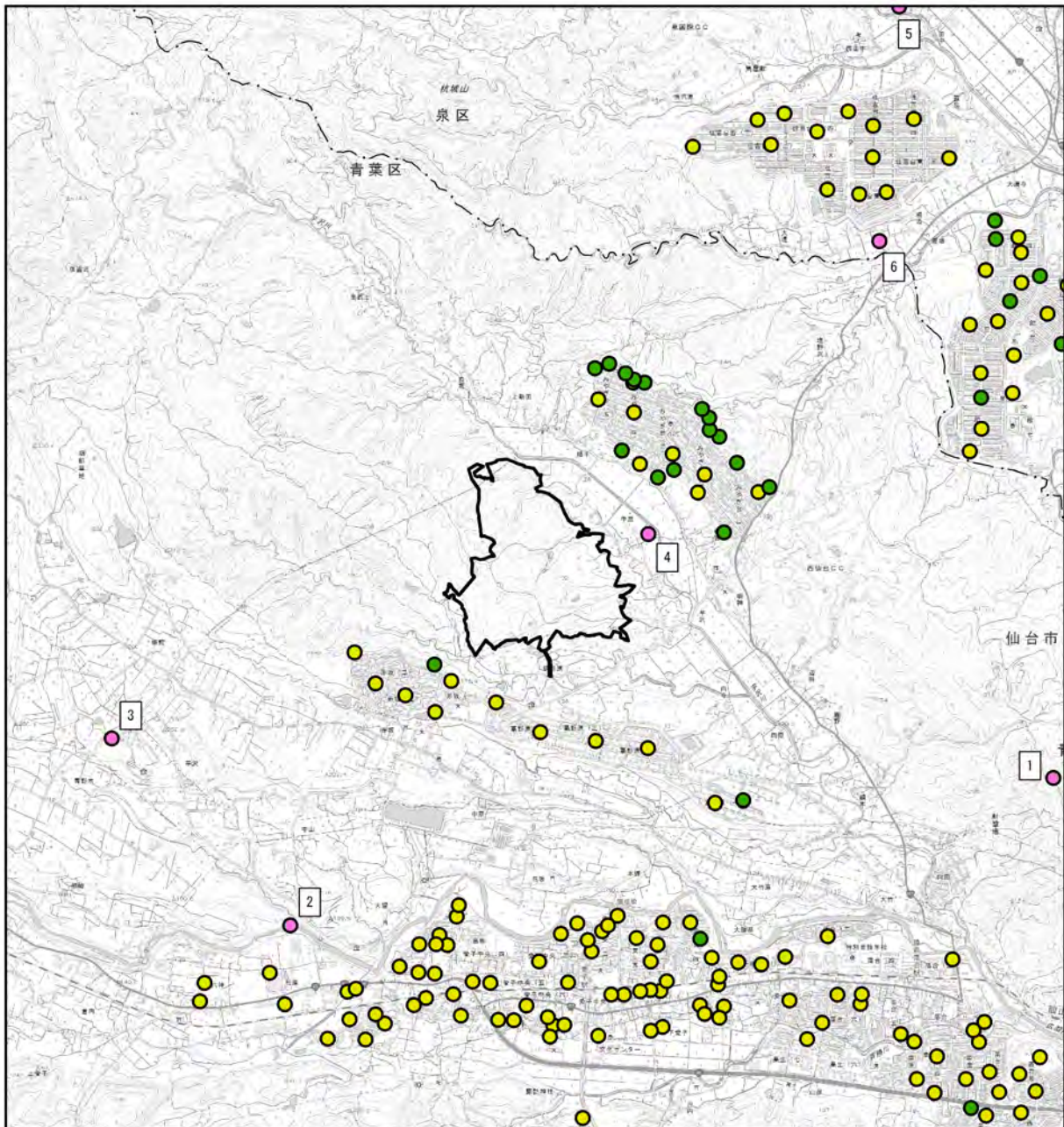
街区公園：もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする公園で誘致距離 250m の範囲内で 1 箇所当たり面積 0.25ha を標準として配置する。

近隣公園：主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で近隣住区当たり 1 箇所を誘致距離 500m の範囲内で 1 箇所当たり面積 2ha を標準として配置する。







都市緑地：主として都市の自然的環境の保全並びに改善、都市の景観の向上を図るために設けられている緑地であり、1 箇所当たり面積 0.1ha 以上を標準として配置する。但し、既成市街地等において良好な樹林地等がある場合あるいは植樹により都市に緑を増加又は回復させ都市環境の改善を図るために緑地を設ける場合にあつてはその規模を 0.05ha 以上とする（都市計画決定を行わずに借地により整備し都市公園として配置するものを含む）。

緑道：災害時における避難路の確保、都市生活の安全性及び快適性の確保等を図ることを目的として、近隣住区又は近隣住区相互を連絡するように設けられる植樹帯及び歩行者路又は自転車路を主体とする緑地で幅員 10～20m を標準として、公園、学校、ショッピングセンター、駅前広場等を相互に結ぶよう配置する。

出典：「都市公園の種類」（国土交通省都市局公園緑地・景観課 HP）



凡例

- |   |          |   |        |   |       |
|---|----------|---|--------|---|-------|
|  | 対象事業実施区域 |  | 都市公園等  |  | 観光施設等 |
|  | 市区町境界線   |  | 住区基幹公園 |  | 緩衝緑地等 |

出典：「国土数値情報 観光資源データ 第2.2版」  
 「国土数値情報 都市公園データ 第1.1版」  
 (国土交通省国土政策局国土情報課、平成29年7月閲覧)  
 「仙台市内のレクリエーション農園一覧」(仙台市HP、平成29年1月)

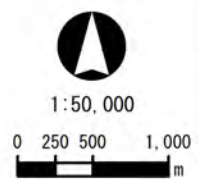


図 3.1-36 自然との触れ合いの場の状況



### (3) 文化財

#### ① 指定文化財等の状況

調査範囲では、国登録5件、県指定1件、市指定3件の指定文化財等が分布する。  
なお、対象事業実施区域には、指定文化財等は存在しない。

指定文化財に係る収集文献一覧を表 3.1-94 に、調査範囲における指定文化財を表 3.1-95 及び図 3.1-37 に示す。

表 3.1-94 収集文献一覧（指定文化財等）

文献番号	文献名	備考
①	国指定文化財等データベース（文化庁、平成29年7月閲覧）	国指定文化財、国登録文化財
②	宮城県の国登録文化財（宮城県、平成29年6月28日現在）	国登録文化財
③	仙台市の文化財（仙台市、平成27年3月）	国登録文化財、県指定文化財、市指定文化財、市登録文化財

表 3.1-95 指定文化財等

図中番号	区分	種別		名称	所在地	指定年月日	文献番号
1	国登録	有形文化財	建築物	中原浄水場 旧管理事務所	仙台市青葉区芋沢字 中原24地先	県：H11.6.7 市：H11.7.19	① ② ③
2	国登録	有形文化財	建築物	菊地家住宅隠居所	仙台市青葉区芋沢	県：H12.4.28 市：H12.5.25	① ② ③
3	国登録	有形文化財	建築物	菊地家住宅主屋	仙台市青葉区芋沢	県：H12.4.28 市：H12.5.25	① ② ③
4	国登録	有形文化財	建築物	菊地家住宅板倉	仙台市青葉区芋沢	県：H12.4.28 市：H12.5.25	① ② ③
5	国登録	有形文化財	建築物	菊地家住宅土蔵	仙台市青葉区芋沢	県：H12.4.28 市：H12.5.25	① ② ③
6	県指定	有形文化財	建築物	諏訪神社本殿 附 棟札12枚	仙台市青葉区上愛子字 宮下40	市：S38.7.2	③
7	市指定	有形文化財	建築物	宇那禰神社本殿 附 棟札5枚	仙台市青葉区芋沢字明 神12	市：S47.12.27	③
8	市指定	史跡	—	西館跡	仙台市青葉区下愛子字 館	市：S50.12.11	③
9	市指定	天然記念物	植物	簪桜	仙台市青葉区愛子中央	市：S61.5.30	③



図 3.1-37 指定文化財等の状況

## ② 埋蔵文化財包蔵地の状況

調査範囲では、86件の埋蔵文化財包蔵地が分布する。なお、対象事業実施区域には、埋蔵文化財包蔵地は存在しない。

埋蔵文化財包蔵地に係る収集文献一覧を表 3.1-96 に、調査範囲における埋蔵文化財包蔵地を表 3.1-97 及び図 3.1-38 に示す。

表 3.1-96 収集文献一覧（埋蔵文化財包蔵地）

文献番号	文献名
①	宮城県遺跡地図情報（宮城県 HP、平成 29 年 7 月閲覧）
②	平成 28 年度版宮城県遺跡地名表（宮城県、平成 29 年 5 月）

表 3.1-97(1) 埋蔵文化財包蔵地

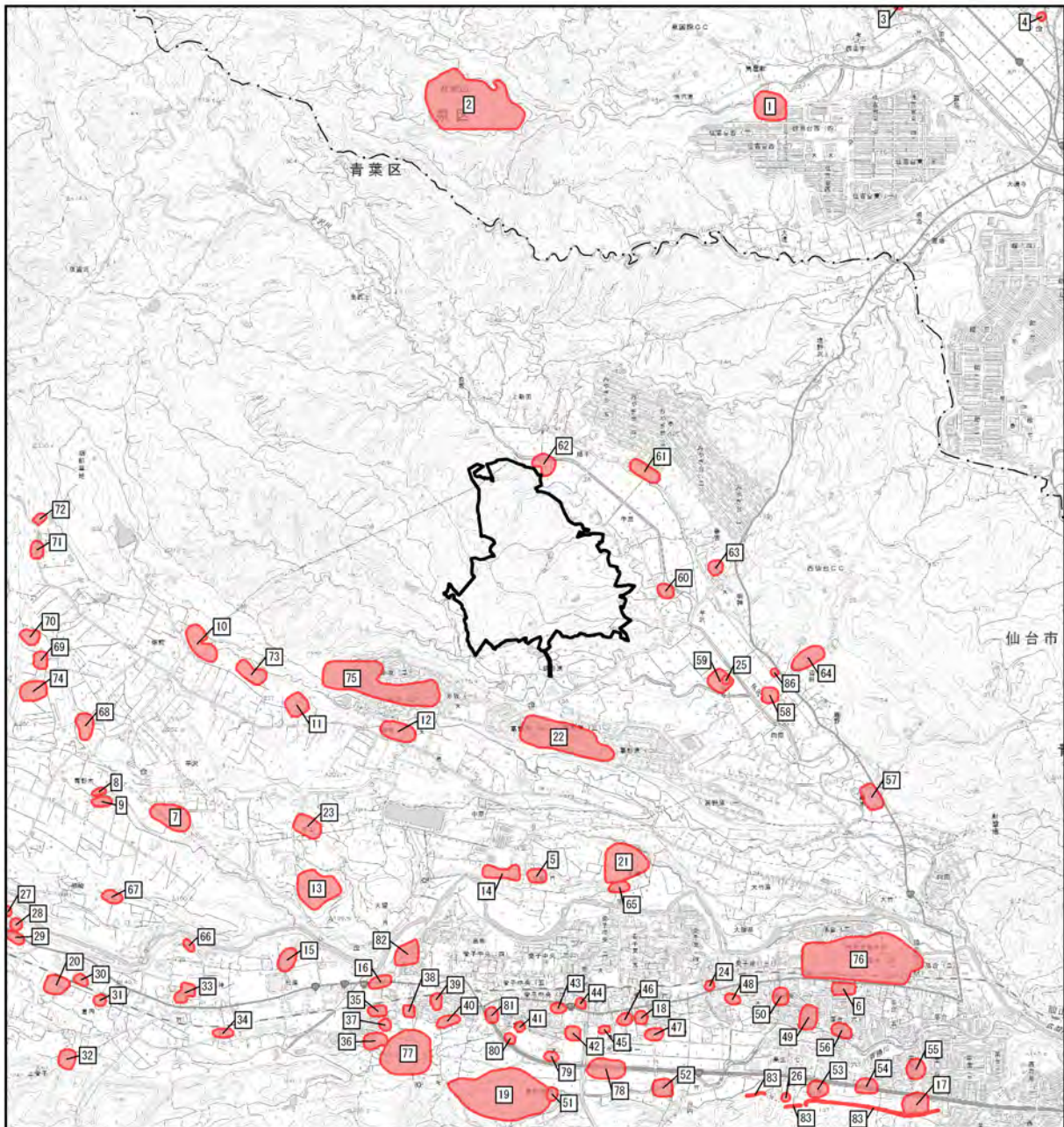
図中番号	種別	遺跡名	所在地	立地	時代	地目
1	散布地・城館	成田山館遺跡	泉区住吉台西三・四丁目	段丘	古代・中世	山林・宅地
2	城館	杭城館跡	泉区西田中字杭城山	丘陵	中世	山林
3	板碑	柿屋敷板碑	泉区西田中字柿屋敷	段丘	中世	宅地
4	板碑群	新坂下板碑群	泉区根白石字新坂下	段丘	中世	
5	散布地	花坂遺跡	青葉区芋沢字花坂	段丘	縄文中	畑・水田
6	散布地	棟林 A 遺跡	青葉区下愛子字棟林	段丘	縄文	畑・水田・宅地
7	散布地	青野木 A 遺跡	青葉区芋沢字青野木	段丘	縄文	水田
8	散布地	青野木 B 遺跡	青葉区芋沢字青野木	段丘	縄文	水田
9	散布地	青野木 C 遺跡	青葉区芋沢字青野木	段丘	縄文中	水田
10	散布地	畑前 A 遺跡	青葉区芋沢字畑前	段丘	縄文	水田
11	散布地	畑前 B 遺跡	青葉区芋沢字畑前	段丘	縄文早・前	畑・水田
12	散布地	赤坂遺跡	青葉区芋沢字赤坂	段丘	縄文	畑・水田
13	散布地	下野遺跡	青葉区芋沢字下野	段丘	縄文晩	水田・果樹園
14	散布地	中原遺跡	青葉区芋沢字花坂	段丘	縄文	畑
15	散布地	松原遺跡	青葉区上愛子字松原	段丘	縄文	畑・水田
16	散布地	北原街道遺跡	青葉区上愛子字街道	段丘	縄文前	畑・水田
17	城館	市史跡 西館跡	青葉区下愛子字館	丘陵	中世・近世	山林・畑
18	寺院	補陀寺跡	青葉区下愛子字観音	段丘	近世	宅地
19	城館	御殿館跡	青葉区上愛子字宮	丘陵	中世	畑
20	寺院	端応寺跡	青葉区上愛子字倉内	段丘	近世	畑・宅地
21	城館	本郷館跡	青葉区芋沢字本郷	段丘	中世	山林・水田
22	散布地	高野原遺跡	青葉区芋沢字高野原	段丘	縄文	畑・水田
23	散布地	満徳遺跡	青葉区芋沢字下野下	丘陵	縄文	畑・水田
24	塚	想海塚	青葉区下愛子字下原	段丘	中世	宅地
25	板碑	芋沢正安碑	青葉区芋沢字原田下	段丘	鎌倉	宅地
26	板碑	弥勒寺元亨碑	青葉区下愛子字館	丘陵麓	中世	山林・境内
27	散布地	上十三枚田 A 遺跡	青葉区上愛子字上十三枚田	段丘	奈良・平安	畑
28	散布地	上十三枚田 B 遺跡	青葉区上愛子字上十三枚田	段丘	奈良・平安	畑
29	散布地	下大柵遺跡	青葉区上愛子字下十三枚田	段丘	奈良・平安	畑
30	散布地	上北遺跡	青葉区上愛子字下十三枚田	段丘	奈良・平安	畑・原野
31	散布地	中遠野原遺跡	青葉区上愛子字上北	段丘	奈良・平安	畑・水田・宅地
32	散布地	大清水遺跡	青葉区上愛子字下沢口・大清水	段丘	奈良・平安	畑
33	散布地	松原 A 遺跡	青葉区上愛子字上遠野原	段丘	縄文	畑
34	散布地	下遠野原遺跡	青葉区上愛子字下遠野原	段丘	奈良・平安	畑・水田・宅地
35	散布地	車 A 遺跡	青葉区上愛子字車	段丘	奈良・平安	畑

表 3.1-97(2) 埋藏文化財包蔵地

図中 番号	種別	遺跡名	所在地	立地	時代	地目
36	集落・散布地	平治遺跡	青葉区上愛子字平治	段丘	縄文・奈良・平安	畑
37	散布地	車B遺跡	青葉区上愛子字橋本	段丘	縄文・奈良・平安	畑
38	散布地	雷神A遺跡	青葉区上愛子字雷神	段丘	奈良・平安	畑
39	散布地	雷神B遺跡	青葉区上愛子字雷神	段丘	奈良・平安	畑
40	散布地	堰内遺跡	青葉区上愛子字北内	段丘	縄文・古代	畑
41	散布地	蛇台原A遺跡	青葉区上愛子字蛇台原	段丘	奈良・平安	畑
42	散布地	榎遺跡	青葉区上愛子字蛇台原	段丘	奈良・平安	畑
43	散布地	蛇台原B遺跡	青葉区上愛子字蛇台原	段丘	縄文・奈良・平安	畑
44	散布地	樋田A遺跡	青葉区上愛子字上町	段丘	縄文・奈良・平安	畑
45	散布地	上町A遺跡	青葉区下愛子字町	段丘	奈良・平安	畑
46	散布地	上町B遺跡	青葉区下愛子字町	段丘	奈良・平安	畑
47	散布地	観音A遺跡	青葉区下愛子字観音	段丘	奈良・平安	畑
48	散布地	二本松A遺跡	青葉区下愛子字二本松	段丘	縄文・奈良・平安	畑
49	散布地	棟林B遺跡	青葉区下愛子字棟林	段丘	奈良・平安	畑
50	散布地	棟林C遺跡	青葉区下愛子字棟林	段丘	縄文・奈良・平安	畑
51	散布地	諏訪神社遺跡	青葉区上愛子字宮下	丘陵麓	近世	畑
52	城館	南館跡	青葉区下愛子字葉前場	段丘	中世	水田
53	散布地	館遺跡	青葉区下愛子字館	丘陵麓	奈良・平安	畑
54	散布地	窪遺跡	青葉区栗生五丁目	丘陵麓	奈良・平安	畑
55	散布地	栗生遺跡	青葉区栗生五丁目	段丘	奈良・平安	畑・公園
56	散布地	五輪塔遺跡	青葉区下愛子棟林	段丘	縄文・古代	畑
57	城館	芋沢西館跡	青葉区芋沢字の場	段丘	中世・近世	畑・校地
58	城館	馬場城跡	青葉区芋沢字田中・七子田	段丘	中世	水田
59	城館	原館跡	青葉区芋沢字原田下	段丘	中世	山林・水田・宅地
60	城館	寺下館跡	青葉区芋沢字寺下	段丘	中世	山林
61	城館	荒神館跡	青葉区芋沢字荒神	丘陵	中世	山林・畑・宅地
62	城館	成館跡	青葉区芋沢字荒屋敷西	段丘	中世	畑・水田・宅地
63	神社	宇那弥神社跡	青葉区芋沢字明神	丘陵斜面	近世	境内
64	城館	江六城跡	青葉区芋沢字辺田	段丘	中世	畑・水田
65	散布地	本郷遺跡	青葉区芋沢字本郷	段丘	縄文	畑
66	散布地	柿崎橋遺跡	青葉区芋沢字上遠野原	段丘	縄文	荒蕪地
67	散布地	柿崎遺跡	青葉区芋沢字柿崎下	段丘	縄文	水田・畑・宅地
68	散布地	青野木D遺跡	青葉区芋沢字青野木	段丘	縄文	果樹園
69	散布地	青野木E遺跡	青葉区芋沢字青野木	段丘	縄文中・後	水田
70	散布地	青野木F遺跡	青葉区芋沢字青野木	段丘	縄文	水田
71	散布地	青野木G遺跡	青葉区芋沢字青野木	丘陵	縄文中	畑
72	散布地	畑前C遺跡	青葉区芋沢字畑前	丘陵	縄文・平安	水田
73	散布地	畑前D遺跡	青葉区芋沢字畑前	段丘	縄文前・中	水田・畑
74	散布地	青野木H遺跡	青葉区芋沢字青野木	段丘	縄文中	畑
75	集落	蒲沢山遺跡	青葉区芋沢字蒲沢山	段丘	縄文早・前・中・弥生	山林
76	集落	一本杉遺跡	青葉区下愛子字一本杉	段丘	縄文中・後・平安	学校地・畑・宅地
77	散布地	二つ岩遺跡	青葉区上愛子字二岩	段丘	縄文晩	水田
78	集落	観音堂遺跡	青葉区下愛子字観音堂	段丘	縄文中・平安	水田
79	散布地	新宮前遺跡	青葉区上愛子字新宮前	段丘	平安	水田

表 3.1-97(3) 埋蔵文化財包蔵地

図中 番号	種別	遺跡名	所在地	立地	時代	地目
80	散布地	蛇台原C遺跡	青葉区上愛子字蛇台原	段丘	縄文	畑
81	散布地	樋田B遺跡	青葉区上愛子字蛇台原	段丘	縄文・古代	荒蕪地
82	散布地	北原街道B遺跡	青葉区上愛子字北原道上	段丘	縄文前・中	畑
83	土手	鹿除土手	青葉区下愛子字館	丘陵麓	近世	山林
84	土手	鹿除土手	青葉区下愛子字館	丘陵麓	近世	山林
85	土手	鹿除土手	青葉区下愛子字館	丘陵麓	近世	山林
86	板碑群	鍛冶屋敷前板碑群	青葉区芋沢字鍛冶屋敷前	段丘	中世	宅地

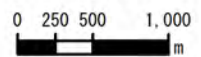


凡例

- 対象事業実施区域
- 埋蔵文化財包蔵地
- 市区町境界線



1:50,000



出典：「宮城県遺跡地図情報」（宮城県 HP、平成 29 年 7 月閲覧）

図 3.1-38 埋蔵文化財包蔵地の状況